

スベイン	(屬)	一〇、三六五、五四九	五四、四五七
ポルトガル	(屬)	五〇三、〇七五	二三、一四二
モナコ	(領)	三三四、〇〇〇	九三四
イタリー	(領)	九二、九三〇	六、九五〇
ユーゴスラビア	(領)	二、〇七九、五七七	八、八三七
オーストリア	(領)	二二	二五
ハンガリー	(領)	三二〇、一三七	四一、五〇九
ルーマニア	(領)	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇
スイス	(領)	二四八、九八七	一三、二九〇
オーストリア	(領)	四一、二九五	四、〇五二
ハンガリー	(領)	八三、八三三	六、六九五
ルーマニア	(領)	九二、九一六	八、五六五
		二九四、九六七	一七、九〇五

ブルガリア	一〇三、一四六	五、八二五	
ギリシヤ	一二七、〇〇〇	六、二〇四	
アルバニア	四四、九九九	八三四	
イギリス	二四五、〇九九	四四、七九〇	
アイスランド	(領)	三一、五九五、八七八	三九七、二一五
	(領)	一〇二、八四六	一〇三、〇〇〇
<b>北アメリカ洲</b>			
北米合衆國	七、八三九、三五三	一一二、七七五	
(屬)	一、八四一、六二六	一一、〇九一	
メキシコ	一、九六九、一五三	一四、八六〇	
グアテマラ	一一三、〇八一	二、四五四	
ホンジュラス	一一四、六七一	七〇〇	
ニカラグア	一二七、四六一	七〇四	

コスタリカ	五九、五八五	四九三
パナマ	八三、八八六	四四六
キューバ	一一四、三八四	三、五九四
サルバドル	三四、一二六	一、七二三
ドミニカ	五〇、〇七〇	一、〇三二
ハイチ	二六、四三五	二、三〇〇

南アメリカ洲

コロンビア	一、二八三、四〇四	七、九六八
エクアドル	三〇七、二四三	一、五六三
ペルー	一、三八二、八三二	六、二〇〇
ボリビア	一、三三二、〇〇八	二、八六一
チリ	七五一、六〇五	四、四二七
アルゼンチン	二、九七八、五九〇	一〇、六四七

ウルグアイ	一八六、九二六	一、七六二
ブラジル	八、五二四、七七八	三九、六九五
パラグアイ	四四五、〇〇〇	八三六
ヴェネズエラ	一、〇二〇、四〇〇	三、〇八九

アフリカ洲

エチオピア	九八五、四〇〇	一四、三一九
エチオピア	八〇〇、〇〇〇	一一、五〇〇
リベリア	九五、四〇〇	二、〇〇〇
タンザール	三七五	八〇

名なしの國 ところが地圖を擴げてみると、この他に地名は幾らでもある。先づ大きい所だけを擧げてみても、アジア洲では印度、印度支那、アラビア、メソポタミア、シベリア等、北米台衆國にはカナダといふ大物が、アフリカに來ては到る處に大きな土地が遊んでゐ、南洋へ出ると、島といふ島は一つとして前記の獨立國の中に入つてゐない。

これ等はいふまでもなく、何處かの國の屬領であつたり、殖民地であつたり或はテンで人間が住んでゐなかつたりするからである。尤も中には、カナダ、印度、オーストラリヤ、南阿聯邦等のやうに立派な獨立國となつてはゐないが、所謂「立派な獨立國」よりは餘ッ程内容充實した大國もあり、そして、國際聯盟などへは、一獨立國の資格を以て加入してゐる所もあるから、屬領必ずしも侮ることが出來ず、獨立國必ずしも堂々とはしてゐない。何を以て獨立國とするか、といふことは、一個人について考へても判ること、一間間口の掘立小屋でも、人間が棲んでゐれば獨立した「一世帯」であり、堂々たる丸ビルや東京驛では「一世帯」を構成してゐると云はれないと同様である。また、たとへ一世帯を構成してゐても、自ら獨立して他の國と交渉してゐない限り、それは酋長に統轄された部落同様に、「獨立國」とはゐない。

獨立國の定義は、本格的にいへばやかましくなるから止めるとして、さて次には、これ等獨立國がどの位の土地と人口を持ち、どのやうな國體で、どんな風俗習慣と物産を持つてゐるか——約言すれば、各國の現勢を主立つた國だけに就いて觀察して行つてみよう。

## 老衰したイギリス

**常 畫 の 國** イギリスは世界第一の大國である。本國は我が國よりも小さく、人口も少ないが、その屬領は全地球到る處に散在して世界陸地の約五分の一を占め、イギリスの國土は太陽の没することなしとまでいはれてゐる。大正九年までは、本國はイングランド、スコツトランド、ウエルスの三つを合せた「大英帝國」と、海を隔てたアイルランドとを併せて「合衆王國」と呼ばれてゐたが、大正九年にアイルランドの大部分（南部）が獨立を宣言して自由國となり、軍事と外交のほかは一切自治でやることになつたので、今は「大英帝國」に北方アイルランドを合せたものを以て本國としてゐる。

その面積は約二十四萬五千方キロであつて、これに四千四百七十九萬の人口を有し、屬領は本國の百三十倍程の面積と、約九倍の人口とを擁してゐる。今この屬領を大別してみると左のやうになる。

地名	面積(方呎)	人口(千)
アイルランド	六八、八九四	二、九四三
印度	四、六七五、七九二	三二八、九四二
カナダ	九、一八七、二九〇	九、七九七
南阿聯邦	一、二二二、二六〇	七、八九五
オーストラリア	七、七〇四、一三五	六、三七三
ニュージーランド	二六七、五〇七	一、四〇五
その他	八、四六〇、〇〇〇	四九、九〇〇
合計	約三一、五九五、八七八	三九七、二二五

地圖を見た時に、桃色した國はみな英領だと思へば間違ひないのでから實に驚くべきものである。然もそれ等は、中には持て餘し氣味の、ロクでもない土地もあるが、凡そ世界中で、經濟上、軍事上、重要な土地は殆んどイギリスが有してゐるといつてもよい。

**その政體と政治機關** イギリスは立憲君主政體である。現在の皇帝はジョージ五世で、本年御

年齢六十七、一九一〇年五月に御位に即かせられた。皇帝は單にグレート・ブリテンの元首たるのみならず、多くの殖民地に對しても皇帝或は王の稱號を持つてゐられる。併して皇帝は憲法上國政の大綱をみそなはせられることになつてはゐるが、事實に於ては全く國政に干與されず、たゞ社交的方面と、内閣の組織及び上院議員等を形式上任命されるだけであつて國政には何等責任なく、所謂「在位すれども統治せず」といふ關係にある。故に内閣には我が國に見られないやうな官職があり、所謂責任政治の實を擧げてゐる。

内閣組織の大綱を擧げると、總理の下に、内務、外務、大藏、陸軍、海軍、航空、保健、勞働、農務、商務、文部、運輸、植民、遞信、恩給、國軍尙書、樞密院議長、檢事總長、大法官、インド事務、自治領、スコットランド事務、ランカスター公領尙書等から成り、各大臣は全部樞密院議員となるが、これは我が國の如く何等政治に干與せず、單に名譽ある名を止めてゐるだけである。

議會は上下二院制度である。上院は、貴族、教會の監督、勅選及び選舉された所の約七百四十名の議員から成り、下院は普通選舉によつて選舉された六百十五名の議員から構成されてゐる。政界の分野は、保守黨、勞働黨、國民勞働黨、自由黨等があり、現在の勢力は保守黨四百七十三名、自由黨七

十四名、労働黨五十二名、國民労働黨十三名、無所属一名となつてゐる。首相ラムゼー・マクドナルドは昨年までは労働黨の首領だったが、同黨が分裂してから國民労働黨を組織し、目下その黨首であり、内閣は保守、自由、國民の三黨を併せて、所謂舉國一致の聯立内閣を組織してゐるが、保守黨に牛耳られてゐることは論を俟たないだらう。

イギリスは議會政治の祖國といはれてゐる。議會らしい形式は既にノルマン時代に生れ、一二六五年及び一二九五年には貴族のほかに各州から二人のナイト、各市から二人の市民が議員として出席し、その後漸次その制度が改善され、一八三四年ウエストミンスター宮殿の炎上の後、今日の議院が建築され、上下兩院の區別も判然するやうになり、エドワード一世が議會召集の際、

「總て國民に觸れる問題は總ての國民によつて同意されなければならぬ」と仰せられた。我が國で明治天皇が、

「萬機公論に決すべし」

と宣ふたのと同様に、今日の議會精神は、このエドワード一世陛下の言葉から出てゐる。

憲政の常道といつて、議會の第一黨が内閣を組織すべきもの、もしその内閣が辭職したら第二黨が

それに代るべきものといふ習慣と精神は、イギリスに於て完全に維持されてゐる。

### 英國の議會

イギリスの議會は上下兩院に分れ、上院は世襲貴族、スコットランド貴族十六名、アイルランド貴族二十八名、終身任期の法官貴族、カンタベリー大僧正、ヨーク大僧正、ロンドン、ダラム、ウキンチエスター僧正等二十六名の教會貴族から成り、下院は、滿二十一歳以上の男女子には選舉權被選舉權があり、議員定員は六百十五名、任期は五ヶ年である。

議會は毎年二月に開會式を挙げられるが、特に期限はなく、日曜、祭日、暑中休暇のほかは一年中開會されてゐる。上下兩院の議決權はほとゞ對等ではあるが、豫算のやうな金錢法案は下院に多くの權利があり、上院が一ヶ月以上もその審議を延ばした時は、下院の議決をそのまま採用することになり他の法案も、上院が二年以上かゝつてもまだ議決しない時は、下院の議決を以て法律とすることになつてゐる。尙英國議會の特長は、總理大臣は必ず下院に議席を有すべしといふ慣例が出来てをり、他の大臣でも、上下何れかに議席を有する者は、他院で發言出来ないことになつてゐる。

イギリスの首府は、いふまでもなくロンドンである。

### 英國の豫算

イギリスの豫算はこゝもと赤字續きである。左に最近三ヶ年の歳出入を上げ

て見ると、

	歳 入 (ポンド)	歳 出 (ポンド)
一九二九年	八二二、二六二、〇〇〇	八二三、七七九、〇〇〇
一九三〇年	八二七、〇一〇、〇〇〇	八三六、〇〇二、〇〇〇
一九三一年	八七三、二八〇、〇〇〇	八八五、九三三、〇〇〇

これによつて見ると、昨年は一千二百萬ポンドの赤字が出た。但しこれは諸事大削減した結果であつて、最初は七千四百七十萬ポンドの赤字を出してしまつた。これでは何とも遣り切れないといふので失業保険の政府支出額を減らし、その他増税をしたり、緊縮をしたりして、曲りなりにも辻褄を合せようとした。これが労働黨の内紛の原因となり、外相ヘンダーソンとその一黨は脱退し、首相マクドナルドは光榮ある裏切者となつて舉國一致内閣を組織し、最初の節約政策を斷行したのである。けれどもイギリスはまだそれで赤字時代から救はれたわけではない。今年も尙ザツと一千二百萬ポンドほどの赤字が出さうなので、九百六十五萬ポンドまでは世帯を切りつめてみようと力んでゐる。

西洋人は野蠻人である われ／＼日本人は信教の自由を持つてゐる。何を信じてよい。上は

神道から、佛教、基督教、天理教、大本教、金光教等々々、擧げ来ればキリがない。然してその教理及び祭典、習慣はそれ／＼に異つてゐるが、我が國民は、宗教が違ふからといつて交際をしなかつたり、近所隣りが睨み合つたりすることは稀である。中にはキリスト教の家へは娘をやれないとか、同じ信仰を持つて頂かなければねえ……とかいふ人もないではないが、佛教信者が日比谷の大神宮で結婚式を擧げてみたり、洗禮を受けた娘が本願寺の梵妻になつたりすることも平氣で行はれてゐる。一口にいへば宗教といふもので自己の生活の自由までも縛らうといふ者は殆んどない。

ところが、西洋人やその他の人種は宗教といふものに非常にこだはり、異教徒を見ることが恰も異人種或は敵を見るやうである。そして宗教は個人の生活から政治にまで嘴を入れ、宗教上の教義は人生の最高命令であるやのかうに考へてゐる。アメリカのやうな若い、然も自由な國で、人間は猿の進化したものだといふダーウキンの進化論を説いたといふ廉で牢獄に繋がれた教師があつたが、これなどは我々日本人の頭では考へられない所である。由來野蠻人は宗教を狂信する、西洋人もまた宗教を狂信する、故に世界の文明人として誇つてゐる西洋人は野蠻人である、といふ三段論法も成立たないことはない。これ等は西洋歴史を繕くものの痛感するところである。

今西洋その他の國民の形成する社會の現象を理解しようとする者は、この宗教といふものを斷じて輕視してはならない。宗教の分布状態を頭に入れておかないでは、合點の行かぬことに屢々逢着するだらう。

**宗教別の人口** さてイギリスには、どんな宗教があるか、その人口別はどんな風になつてゐるかを見てみよう。

イギリス人は大體に於てキリスト新教を奉じてゐる。國教として定められてゐるのは監督教會（聖公會）で、その他にはローマカトリック教を信じるもの約百九十二萬、ユダヤ教を信じる者三十萬人ある。ユダヤ教徒は大部分ユダヤ人だから、イギリスにはユダヤ人が約三十萬人ゐるといふ勘定になるのである。

**植民地との關係** 次に、イギリスの頭痛の種子となつてゐる植民地關係について觀察してみよう。イギリスは世界の到る處に植民地を持つてゐる。それ等に對しては各々本國から總督を派遣してゐたが、漸次本國から獨立するものが生じ、今日その獨立自治を承認されてゐるものに、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドの三つがある。これらは經濟的、政治的自治は認められたが、軍事

と外交は本國の命令に従ひ、他國との通商條約に於て僅かに發言權を有するに過ぎなかつたが、歐洲大戰以後はそれ等の權限をも漸次本國から奪ひ、内政に對しては完全なる獨立をし、外交にも獨立の立場を主張するやうになつて、今では母國の屬領ではなく、姉妹國といふ關係になつた。

カナダは一九二八年に高級委員を本國と交換し、日、米、佛へは一九二六年から獨自の公使を派遣するやうになり、母國が日本に對して餘り好意を寄せないのに反し、大いに親日政策を取り、日本が年々八十萬の人口増加をすることにも同情を寄せ、カナダへの日本移民を最大限度まで許してゐる。

オーストラリアも一九二九年四月から、アメリカに對して公使のやうなものを派遣したり、母國との間に特惠關稅を設けたり、母國がエチプトの獨立を認めようとした時、スエズ運河確保の立場からこれに反對したりし、オーストラリアの東にある島ニュージーランドも亦同年オーストラリアと同様のことをした。

南阿聯邦でも首相ダンカンは、一九二九年八月五日に下院で「南阿は英國と同等の地位に於ける獨立主權國である」と説明し、この主張に基いて、オランダと公使を交換し、次いで、イタリー、アメリカとも公使を交換した。以上の四ヶ國は國際聯盟にも單獨に加入してゐる。

印度もまた聯盟に加入してゐるが、印度が獨立しようとしてゐるのは、敢て革命児ガンヂーがゐるからばかりではなく、以上のやうなお手本が同じイギリス領内にあるのだから、大國印度にも同様の權利を賦與せよといふのは決して無理な願ひではない。

これ等は殖民地だからまだよいとして、イギリスにとつて最も皮肉なのは、アイルランドの獨立である。

アイルランドとイングランドとは、例へば日本の本洲と北海道とのやうなものである。或はまた本洲と九州とに比較してもよい。土地は海を隔てゝゐるが、決して遠いわけではなく、目と鼻の間にあゝる。そして英本國といへば誰でもこれ等二つを一つにして考へてゐる。だのにこのアイルランドが何故イングランドから獨立しなければならなかつたのか？ 此處にもまた民族自決運動があるのである。

**アイルランドの不忠決議案** イングランド人はアングロ・サクソン人種であるが、アイルランドに住む大部分の者はケルト族である。性質朴で舊教を信じ、風俗習慣等も本國と全く異なり、文明にも遅れ、十八世紀までは獨立してゐた。ところが一七七〇年にイングランドから討伐に向ひ、一八〇一年遂にこれを併合して聯合王國を建設した。けれどもアイルランド人は決してそれを喜ばず、

常に獨立を策してゐたが、會々歐洲大戰に逢ひ、民族自決の波に之つて獨立運動を表面化させた。事の起りはシンフェーン黨の義勇兵が警官を銃殺した事に端を發し、遂に兩國間に銃火が交へられるやうになつた。その結果、一九二一年、北部を除く大部分に自治制を許され、獨自の内閣と議會を組織して政治を行ふことになつた。本年三月、その下院は、爾來閣僚及び議員は英國皇帝に忠誠を誓ふ宣誓式を行つて來たが、今後はそれを廢することを議決し、他國の皇帝に忠誠を盡す義務なしと聲明した。これなどは随分思ひきつた皮肉だが、これによつてみても大英帝國の内部が、かなりごたごたしたものであることが判るだらう。

**皮肉なエチプトの獨立** エジプトはかなり前からイギリスの殖民地になつてゐたが、スエズ運河が出来てからは、東洋に通じる近道なので、エジプトは益々イギリスにとつて必要なものとなつた。印度はイギリスの原料生産地である。イギリスを養ふ無盡の寶庫である。また大戰後に得た東アフリカ一帯の地も物資豊富を以て聞えてゐる。これ等の地と本國とを結ぶには、紅海とスエズ運河はなくしてならぬ大切な通路である。エジプトは今日までに度々獨立運動を起したが、スエズ運河を守るためにイギリスがこれを手放すわけはなかつた。然も彼は、東洋への通路の安全を期するために、西沿岸



なるエチプトのみでは満足せず、スエズ運河の入口にあるパレスタイン、ケラーク及び紅海のアラビア側沿岸に長く連なるヘチアースを手に入れようとし、苦心の結果、前二者を委任統治國に、アラビヤを自らの勢力保護下に置いてホツと一ト安心した。然るに運命はなんと云ふ皮肉だらう。今迄完全に自分のものだったエチプトはイギリスに反抗して獨立を企て、然も「完全なる獨立國」たらうとした。ザクルル・パーシャはこれを指導してゐたが、彼の死後もエチプト民は更にひるむ色なく、驚々喧々として到底拾収すべからざるものとなつた。そこでイギリスも一九二三年になつて、止むを得ずエチプト獨立憲法を承認せざるを得なくなつた。

その後イギリスは、イギリスとエチプトとの永久同盟を約せんとし、軍隊の駐屯權と外人の生命財産保護權を得ようとしてゐるが、これも容易に運ばないやうである。

我々は曩に、イギリスがパレスタイン、ケラーク、イラーク、クルヂスタン、ベルシヤ、アフガニスタン、インド等の近東の地で、民族自決による獨立運動のために悉く惱まされてゐることを知つたが、全世界に到る處にその土地を有する大英國は、何處までもこの大世帯なるが故に惱まなくてはならなかつた。彼が數百億圓の國幣を賭して勝つた大戦が彼に何を齎したかといへば、結局は自分の國

の自己解體だつた。それまでを見通して民族自決と世界平和を説いたものが果して幾人あつたか？若しウキルソン大統領が、こゝまで見通してイギリス虐めにそれを唱へたとしたら、大した千兩役者といはなくてはならない。

**衰へ行く工業** 次にイギリスの産業状態を観察してみよう。

イギリスは工業國である。嘗ては世界第一を誇つた工業國であり、ロンドンには各工場の煙突から吐く煙のために、一年中蒼空を見ることがないといはれてゐる。今日では輕工業は漸次減少して重工業が發達してゐる。イギリスをして斯くあらしめたのは、その國の産物である。石炭二億六千萬噸その價格十七億餘萬圓、鐵は一千三百餘萬噸、價格三千六百四十五萬圓、その他銅、鉛、銀、錫、亞鉛、鹽等の産額多く、年額約二十億圓である。これ等豊富な天然の産物を擁して十九世紀までは世界に覇を唱へたが、近代的な發明——電燈、電話、電信、自動車、飛行機等はみなアメリカの持つ所となつたので、産額は年々増加しながらも、アメリカ、ドイツ等に壓迫されて漸く衰退し、紡績業の如きは原料たる棉花が手近にないために、各地の市場を漸次失つてゐる有様である。造船の如き、最近は最も盛んだつた時の十分の一にも達しないといふことである。

このためにイギリスでは、失業者は日に日に増加しつゝあり、一九三〇年八月にはその數二百萬を數へられたが、一九三一年三月には二百七十萬人となり、その月に政府が貸出した失業保険補助金だけでも九億圓に達し、七月には十一億五千萬圓に上つた。これが遂に労働黨を分裂せしめ、マツク首相を光榮ある裏切者にしたのだつたが、首相マツクが、多年の主張を自ら裏切つて見たからとて失業者の數が一人でも減少するわけではなく、遂には金本位停止といふやうなドン詰りまで行つてしまつたのである。

### 英國は労働者の樂園

こゝで英國労働者の失業保険に就いて一言しておきたい。これに就いては拙著「日〇もし戦はば？」の中にも詳述し、失業者といへば何處の國でも食ふや食はずでをり、中には一家五人心中などをするものが出てゐるが、イギリスの失業者に限つてはそれがなく、寧ろ失業保険による平均収入は就業してゐる時よりも多いといふ奇現象を呈し、就業者が着くなつて働いてゐるのに、失業者は大巨のやうにパーで踏ん反りかへつてゐる、といふことを述べて置いた。今こゝでは、もう少し具體的な數字でもつて、失業保険の事を説明してみよう。

首相マクドナルドは、労働黨首として多年失業保険確立のために闘つて來た。そして二度の組閣に

よつて遂にこの目的を貫徹した。その制度によると、満廿一歳の男子労働者は一週間に二十八錢づゝ十二回、即ち三圓三十六錢拂込めば、失業した場合は一週間八圓五十錢づゝ十五週間、即ち百二十七圓五十錢支給される権利がある。勿論これは最惠の場合であつて、労働者は就職してゐる限り毎週保険金をかける義務があり、保険下渡し金も、自分の扶養關係によつて減少しては行くが、何にしても就職してゐるよりも失業してゐる方が氣樂だといふ結論にはなる。イギリスは「失業天國」だとか、「労働者の樂園」だとかいはれるのも強ち皮肉ばかりではない。

かうした下渡し金は何處から出るかといふと、就職者二十八錢、傭主三十二錢、政府三十錢といふものを平素に掛けておき、これから出すのではあるが、現在のやうに失業者が増加すると、金を掛ける者よりも貰ふ者の方が多量位のものであるから、基本金は漸次減少し、止むを得ないから不足を政府に負擔させることとなり、この臨時の支出だけが前述のやうに十一億五千萬圓もの大金に上つたのである。考へても見るがよい。イギリスは人口に於て我が國よりも一千萬人ほど少いのである。そして我が國豫算の歳出が約十五億圓であるのに、イギリスは失業保険の臨時補助金だけが十一億五千萬圓にも達するのである。何といふ大きな違ひだらう。まるで嘘のやうな話である。

これでは少々困ります、とマツク首相が考へたのも無理ではない。然もイギリスが百年以上も世界の金融界に維持して来た信用を、昨年九月に俄然失墜してしまひ、自らシャツボを脱いでしまつた事の原因がこの失業保険にあるのだと思へば、失業者も餘りいゝ氣持で失業保険を受取るわけには行かない。それをノホホンと受取る者があつたら、それこそ眞にプロレタリアなのか、大國民の襟度なのか、或は非國民なのか？ さあれ日本には經濟界の危機を知りながらドル買で私腹を肥やすブルジョアもゐるのだから、あまりイギリス人のことばかりはいへまい。

### 糧道を断たる

併しイギリスの心配は單にこれだけではない。最も深刻に氣に懸るのは農産物が皆無といつてもいゝことである。イギリスは世界大戰が勃發した時、先づ第一に困つたのは食料である。イギリスには平野が多く、耕地として使用し得るものが、一千三百十三萬エーカーある。けれども目下使用してゐるのは約その半分の五百六十六萬エーカーにしか過ぎない。そこでイギリスは大いに農業に力を入れ、自分の食料は自分の手で作らうとしたが、工業立國のイギリスでは勞働賃銀と農民の賃銀割合とが餘りに隔たり過ぎてゐるから、誰も百姓をやる者がなく、この肥沃なる土地を徒らに草の生ひるがまゝに放任してゐる有様である。そして小麥は大部分カナダ、アメリカから、肉

類はアルゼンチンとオーストラリアから、野菜、パタ、その他は歐洲諸國から——かくて全食料の五分の四は海外にこれを仰いでゐる。故にもし戦時にこれ等の國との貿易路を断たれたら、彼等は戦はずして餓死しなければならぬ。イギリスが過去數世紀に亘つて全世界を股にかけ、到る處に植民地を作つたのも、單なる征服慾ではなく、食料及び工業原料製産地を獲たかつたからである。そしてこれは、過去の文化程度、過去のイギリス海軍力を以てしては、戦時にも糧道を断たれる心配はなかつたらうが、今日となつては甚だ心もとないことは、歐洲大戰に於て苦い經驗を舐めてゐる。何を運ぶにしても餘りに遠すぎる。その上各植民地は漸次獨立して行き、關稅さへ設けて本國を本國とも思はないやうになつては、いよゝ心もとないといはざるを得ない。これがイギリスといふ國全體から氣と精彩を失つた最大の理由である。

### 不振續きの貿易

これ等の産業がどんな形となつて現れてゐるかは、最近の貿易状態を見れば一目瞭然である。いま一九二六年以後の貿易計數を見てみよう。

輸 入 (ポンド) 出 (ポンド)

一九二六年 一、二四一、三六一、二七七 七七八、五四一、八七七

一九二七年	一、二一八、三四一、一五〇	八三三、〇三四、一〇二一
一九二八年	一、一九五、五九八、四一三	八四三、八六二、三三三
一九二九年	一、二二〇、七六五、三〇〇	八三九、〇五一、一五〇
一九三〇年	一、〇四四、八四〇、一九四	六五七、五三三、二二五

この数字を見ると、イギリスは毎年輸入超過である。然も三十五六億圓から四十億圓ほどづつ超過してゐる。これは一見大問題のやうだが、イギリスにしてこれは少しも驚くに足らない。この輸入超過は、商船が全地球の海上から吸収する運賃及び海外投資が居ながらにして生んでくれる利子の流入によつて補足しても尙餘るほどあるのである。けれども、だからといつて安心することは出来ない。何故ならイギリスの輸出は年々八億三四千萬圓を續けて來たのに、一九三〇年に於て急に六億五千萬圓に落ちてゐる。これは世界全般の不景氣といふことにも原因するが、併しその減少の率がフランスその他では約十五パーセントであるのに、イギリス一人二十二パーセントを示してゐるのだから、これはどうしてもイギリスの産業不振を説明してゐるものといはなくてはならない。

**動脈硬化に陥つた産業** 然らば何が原因でイギリスばかりがこんなにも産業不振に陥つたか？

それは第一に事業經營の無能である。第二には労働能率の低下である。第三には産業そのもの、一般的動脈硬化である。

これはイギリスの實業家及び政府自身に氣づいた所である。故に一九三〇年九月には、綿業協會實行委員會議長サー・アーネスト・トムソンを主班とする經濟視察團を東洋の各地に派遣した。彼等はその年の十月我が國に來訪し、約一ヶ月かゝつて東京、大阪、名古屋、京城等の綿業を視察したが、歸國後彼等の發表した所によると、日本に於ては、妙齡の婦女子が一人でよく三十數臺の織機を受持つてゐるのに、イギリスでは大の男が十三五臺しか受持たない。これでは世界に誇るランカシャが東洋の綿布市場を日本に奪はれたのも無理からぬことである、といつて舌を巻き、長息を洩らしてゐた。第一、第三の點は、保守的な英國人が思ひ切つた産業合理化と新事業開拓をなし得ないのに原因する。

斯くてイギリスの産業は極度に衰微し、老大國の老衰振りを現實に暴露したが、誇り高いイギリス人は、まだこれだけでイギリスが破産状態になるものだと考へてゐなかつた。イギリスのシテイは何處までも世界の金融市場たるべきものと考へもし云ひもしてゐた。然るに一九三一年九月二十一日

俄然驚天動地の大地震が財界を見舞った。金本位停止である。……全くこれは青天の霹靂だつた。それは英國国民にとつてばかりでなく、全世界の人民にとつてである。フランスの一部人士はこれを豫知したやうだつたが、日本人など、俊敏なドル買の總帥池田成彬さへそれを知らなかつた。何故こんなことになつたか？

それもやはり失業保険にあるといはなければならぬ。我々は失業保険の所でイギリスの世帯の大きさに一應は驚嘆の聲を放つたが、如何に大世帯のイギリスでも、十一億餘圓は流石に大金だつたのである。かういつたからとて何も失業保険が直接金本位停止の原因になつたわけではない。形に現れたものとしては、金融界に於ける英國の信用失墜と、それによつて起つた銀行の取付け騒ぎである。

**物凄銀行の取付け** イギリスは去年までは世界の金融市場となつてゐた。それはイギリスが商船を多く有し、イギリス國旗の翻へらない港はないといはれたほど海上を征服してゐたので、貿易の關係上イギリスのポンドを金融の基礎としておくのが便利だつたし、またそれをしていゝほど信用があつた。故に各國ともその遊資を短期信用の形式でロンドンの銀行に預金しておいた。イギリスはこの金を利用して定期資金として各國に貸出し、その利鞘を取るのがロンドン銀行家の慣例だつた。

これは原則としては危険である。だが各國の銀行家は總てこの方法を用ひ、銀行はかくして成立してゐるやうなものである。イギリスが外國に投資してゐる金額は、株式資本として百十四億圓、貸付金二百二十億圓、合計三百三十四億圓であり、このうち政府又は法人の貸付けてゐる金だけが百四十億圓である。これだけの海外投資をするのに、どれだけが自分の金であり、どれだけが他人の預金かは明確にいへないが、孰れにしても相當に多くの金を融通してゐることは事實である。

かういふわけだから、若しその預金を一時に取付けられたら大變で、實に危険極まる藝當ではあるが、イギリスは今日まで世界に絶大な信用を持ち、イギリスが倒れるといふやうなことは自他ともに考へなかつたから、誰も取付けをするものがなく、故に一度もポロを出さずにゐられたのである。ところが英國の赤字を見たフランスは、ちよつと悪戯心を出して取付けを見た。するとイギリスにはそれが豫想以上に強く響いた。そこでフランスは眞先にイギリスを信用しなくなり、ドン／＼預金を引出した。これを見たイギリスの資本家も、本國を信用しなくなつて資本を海外に逃避させた。英蘭銀行からは金塊が漸々減つて行つた。そこで政府はアメリカとフランスに泣き付いて五億圓借りたが、直ぐなくなつたので、九月になつてから又々八億圓借りた。フランスの政府はかうしてイギリスに金

を貸したが、フランスの資本家は、ドシク預金を運び出し、時には十三臺の飛行機に金塊を満載して持つて歸つてしまつた。これでは幾ら金を注ぎ込んでも何にもならない。かうして取付けた金が無慮八十億圓に達したのだから驚く。それだけの金を渡したイギリスも流石だがそのために金の準備高は十二億圓臺になつてしまつた。それ以上取付けられては皆無になるので、九月二十一日、俄然金の輸出を禁止したのである。

雨蕭々英國の末路　これによつてイギリスは金の流出は防ぐことが出来たが、そのために信用はガク落ちに落ちてしまひ、それまで世界の金融市場となつてゐたのが、資格を失墜したので、その實力は當然ニューヨークに移動し、流石數百年間世界に覇を唱へたジョンブルも、動脈硬化で動けなくなつてしまつた。マツク首相はその後大童になつて信用恢復に努めてゐる。そのために國庫の赤字だけはどうかやら無くすることが出来、ポンド價も漸次上つて來て、苦しい所は一時救はれたやうではあるが、半ケ年間に限つて停止した金本位は、最早その期限を經過したのに、まだ解禁の運びに到らない。人一倍誇りの高いジョンブル氣質だから、何とか恢復はするだらうが、一度ヒビの入つた信用は容易なことでは舊に復せまい。兵力では歐洲大戰の時に無力を暴露し、植民地には叛かれ、産業は

既に早くから活氣を失ひ、今また經濟的無力をもさらけ出すに至つては、イギリスもまた腐つたりといふべきである。イギリスよ何處へ行く？ そんなことまで云はれるやうになつては、由緒深き老舗の末路もまた哀れむべしである。

## 黄金の波打つフランス

フランスの國民性　今を時めく國、成金國といへば誰でも北米合衆國を思ひ出すだらう。併し現在眞に貧乏の味を知らず、黄金の波に洗はれて惠比壽様のやうにエヘシクと笑つてゐるのはフランスよりほかにはあるまい。それほど金が國中に喰つてゐる。そして總ての點に於ていゝ氣持であり得意の絶頂にある。數年前、フランが暴落して苦しんでゐたフランスを知つてゐる人は、全くその變りやうに驚くだらう。

どうしてこんなに金が集つたか？——それを説く前に一應フランスといふ國を見ておかう。フランスは歐洲の中心ともいふべき場所にあり、大體六角形をなし、三方は海に面し、東と南は山

派によつてイタリー、スペインと境し、北は平野によつてドイツ、ベルギーと連つてゐる。面積五十萬方キロ、中部歐洲では最も大きな國である。氣候は温暖であり、土地は肥え、何一つとして物資に缺けることなく、國民また穩健優雅で、輝かしい歴史を持つてゐる。

フランスといへば世界の人々は誰でも直ぐパリを思ひ出し、パリといへばムーランユージュやモンマルトルの酒場を想像して、淫樂虚榮に耽つてゐる國民のやうに思ふが、見ると聞くとは大違ひで、フランス國民の全體は寧ろ保守的であり、眞面目であり、貯蓄心に富み、極めて健實な性質を持つてゐる、といふことは、日本の國民性を銀座裏に巢喰ふゲイシャガールやモダンガールで代表することが出来ないのと同様である。その點、同じ金持ち國でも、アメリカあたりの成上り者根性とは大分違つてゐる。それも道理、フランスは長い歴史と傳統を持つ國であつて、決して成上り者ではないからである。

### 憂ふべき人口問題

フランスの人口は四千百十三萬といはれてゐる。人口の程度も多過ぎず少過ぎず、實によく調和がとれてゐる。けれどもこれを國家的見地から見ると多少憂へざるを得ない。といふのは、フランスは子供を作らないので有名であり、日本が一ケ年に八十二三萬人づゝも増加し

て行くのに、フランスでは十年かゝつてもそれだけが殖えるか殖えないかである。日本は明治初年には同胞三千萬と號してゐたが、今では「同胞こゝに六千萬」と歌つてゐる。つまり僅々五十年間に倍加したのであるが、フランスは二百年前に二千萬と稱し、二百年たつた今日漸くその倍になつたのである。これは人口問題、食糧問題の聲高く云々されてゐる現代にあつては寧ろ喜ぶべきことかも知れないが、國力の伸張發展を期する上に於ては必ずしも喜ぶことが出来ない。

英雄ナポレオンは今から百三十年前に突如出現して歐洲全土を征服し、フランスの武威を世界に示した。當時フランスの人口は二千七百萬だつたが、そればかりの人口で、どうしてあれだけの仕事が出来たかといふと、その二千七百萬が當時としては、決して「そればかり」ではなかつたからである。即ちこの二千七百萬は當時の歐洲全人口の三分の一に相當し、最も多數の人口を持つた國だつたのである。然るに今日は、四千萬にはなつたが、歐洲全人口に比較すると漸くその九パーセントにしか當らない。然もその人口は隣邦であり、犬猿の間にあるドイツに比較すると、漸くその三分の二である。ドイツが大戦前にあれだけの霸氣を示し、今日もまた大いに延びようとしてゐることは、この人口の多いといふ威力によるといふことも出来る。故にもしフランスが自國の人口問題をその過剩

に惱んでゐる日本やイタリーと同様な取扱ひをすれば、近き將來に於て國威の衰亡を見ねばならぬ。まゝといふは學者一般の意見である。

**ロボット大統領** それはさておき、次にフランスの政治を見てみよう。

フランスは共和政體である。フランスは大革命以後二度帝政になり、三度共和制を敷いた。今日の共和制は一八七〇年ナポレオン三世退位の後で、僅々六十年にしかならない。現在の大統領はポール・ブーメ氏である。

フランス大統領は九年の任期を有し、政治上絶大な権力を有してゐる。それは正に他の國の帝王以上である。けれどもそれは單に憲法の文字の上だけであつて、事實に於ては殆んど何等の権力もなくたゞ社交的存在でしかない。内閣の倒れた時、後繼内閣の任命はする。けれども大統領はその内閣に對しても何等責任がなく、また議會を動かす力もない。議會を解散せしめる権力は持ちながら、この権利を使用したのはたつた一度、二代目の大統領マクマホンだけである。従つて政治上の責任は全く内閣議長（首相）にのみあり、大統領は單なる床の間の飾物でありロボットである。

何故かうなつたかには、フランスの國民性が遺憾なくこゝに表れてゐるのである。フランスは十八

世紀に大革命を行つた。それはルソーの民約論に刺戟された民主的思想によるのであるが、この民主的思想はフランス國民の持つ根本性質であつて、敢へて一時的に煽動され昂奮させられただけではない。帝政時代の弊害を度々見せつけられた國民は、共和制を樹立して大統領に絶大な権利を附與しながら、それが獨裁的になることを非常に怖れ、その権力を空文にしてしまつて、議會に絶大な権力を與へてしまつた。これは結構なことである。

**議會の組織と制度** この議會は元老院と代議院との二つに分れてゐる。代議院は、滿二十五歳以上の男子に被選舉權を與へ、滿二十一歳以上の男子によつて選ばれた六百十二名の代議員から成るものであつて、代議員は大選舉區比例代表制によつて選出せられ、任期は四ヶ年である。元老院は、名は物々しいが、要するに代議院の延長のやうなもので、代議院議員、縣會議員、郡會議員、市町村會議員等の中から、年齢四十歳以上にして代議院議員選舉資格を有し、且つ徴兵法の規定する義務を完了したものを、間接選舉によつて選出するのであつて、任期は九ヶ年であるが、全員を一齊に選舉せず、三年目ごとに定員の三分の一づつを改選して行くのである。

兩院は同等の権利を有し、財政に關する法律は代議院に先決權があるが、それは單に時間的事



であつて、決してイギリスのやうに決定権があるわけではない。議院は毎年一月の第二火曜日をもって召集し、會期は一定の時日を定めず、五ヶ月以上といふことになつてゐる。

### 政黨の分野

フランスの政黨は小黨が割據してゐる。議員十二人の保守黨から、百四名の社會黨まで、皆で十ある。これ等は各々政綱を異にしてゐるが、これもまたフランス國民の自由思想の現れであつて、些かの意見の相違にも一黨一派を立て、相争ふのである。だからといつて何處やらの國のやうに掴み合ひの喧嘩や、相手を中傷するやうなことは少く、まるで意見を異にした黨派が相寄つて内閣を組織することも平氣である。例へば常に相争つてゐたポアンカレとブリアンが一つの内閣で働いたり、少壯のラヴァルやタルジュの下で老政治家ブリアンが一外相でゐたりすることも一向に不思議とも思はない。それは政治を一つの技術と考へてゐるフランス人は、技術を有しない人間を實際政治の衝に當らせることに不安を感じるからである。政治のセの字も知らない商人や土方の親分に政權を委ねて、それが立憲的であるの憲政の常道などと考へてゐられないのだらう。政策の大綱は議會で嚴重に監視し、實際の運用は技術家に任せようとするのは、やはり健實な國民性の現れといはなくてはならない。

だが其處にも勿論弊害はある。といふのは、小黨分立のために内閣は常に確固たる與黨を持たず、然も議會を解散して民意に問ふといふことも出来ないで、議會で敗れることは直ちに内閣を投出すことになる。そのためにフランスの内閣は始終變つてばかりゐる。これでは確固たる信念の下に政策を実施することが出来ない。だがそれが弊害であるかないかは早計に斷じられない所で、買収と彈壓干渉によつて得た絶對多數に支持されて悪政を布くのなどは、もつと大きな弊害といはなければならぬ。何れにしても政治家は、もつと公平無私であり、政黨よりも、政策よりも、地位名譽よりも先に、國家の利益といふことを考へて貰ひたいものである。

### 赤字のない國

フランスが金持ちであることは、その豫算を見ただけでも一目瞭然たるものがある。即ち世界各國を通じて赤字のない國はなく、アメリカでさへ幾十億圓の赤字を出してゐるがフランスだけは赤字を知らない。一九三一年度豫算に於て、歳入五百二億二千五百七十七萬フラン餘、歳出五百一億四千五百二十八萬フラン餘となつてゐる。一フランは大體三十九錢ほどだから、歳出入とも百九十五億圓内外を動かしてゐることになる。日本などとは一つケタが大きいのは羨ましい次第である。

**フランスの宗教** 國民は信教の自由を有してゐる。けれどもそれは法文だけのことで、宗教が國民の生活に重要性を持つてゐることはイギリス同様である。たゞイギリスほどに公然と國教を定めてゐないだけである。

最も多いのはローマカトリック教で、信徒は三千八百萬を有し、次にはプロテスタントの約百萬、ユダヤ教の十五萬といふ分類である。フランス國民を人種的に見る場合には決して一定せず、實に雑多なものではあるが、宗教では比較的統一されてゐることもフランスの強味である。

**その産業状態** パリは世界流行の本場である。シックな婦人の服飾類はみなフランスで造られる。だからといつてフランスはさうした贅澤品ばかり造つてゐるわけではない。フランスの工業は近年大いに發達したけれども、一國の大本となつてゐるものは農業である。そして國民の半數は耕作に従事してゐる。

耕地面積五四、七五五、五二八エーカー、森林五、一七〇、四〇七エーカーで、この土地から出来る主要農産物は、小麦八千七百萬噸、大麥一千三百萬噸、ライ麥一千萬噸、馬鈴薯一千三百萬噸、燕麥五百七十四萬噸、その他雜穀百十七萬噸ある。フランスといへば直ぐ葡萄酒を思ひ出すが、その葡萄

園は三百五十萬エーカーに上り、葡萄酒の産額は九億二千四百萬ガロンと稱されてゐる。尙このほかに林檎、梨、桃等の産も極めて多い。農産物中の主要なものに甜菜があるが、その産額は八百八十萬噸で、これから製造される砂糖は八十一萬六千噸に達してゐる。

製造工業としては、以上の製糖業のほか、綿絲の三百萬噸、アルコールの四千七百三十六萬ガロン水産物の十億フラン等がある。このほか絹織業、貴金屬細工業等の贅澤品工業もなかくに多く、製鐵業も近年大いに發達し、殊に大戰後はアルサス、ロートリンゲンの二州を奪取したために居ながらにして莫大なる工業資源を獲得することが出来た。即ちアルサス州からは約二百萬噸のカリを産し、國內に自給するほか、その半分は輸出してゐるし、石油もまた四十八萬バレルを得ることが出来、ロートリンゲンからは、二千七百萬噸の鐵礦と、五百二十四萬噸の石炭とを得た。然もロートリンゲンの地下に埋藏された鐵礦は推定二十億噸といふのだから素晴らしいものである。今日アメリカ初め各國の鐵工業は年と共に盛んになつて行くが、自國の熔鐵爐で熔かすだけの鐵礦を自國內で供給し得るのはたゞ一つフランスあるのみである。然もフランスは、その餘つた所を輸出してゐる。これも一つにロートリンゲンを奪還したからなのだから、フランスが國家の運命を賭してもドイツと戦つた氣持が判

るだらう。

このやうにして工業は漸次發達し、フランスは農業國といはれながら、農民の数は全人口の半分にしか過ぎず、その収入も總収入の四分の一乃至五分の一に過ぎない。然も力強いことは、全世界が擧げて失業者の續出に悩んでゐるのに、フランスだけは百五十萬の外人労働者を擁しながら、まだそれほど失業者を出してゐない。黄金の波打つ國は違つたものである。

### 金貨の夜泣き

ではフランスには現在どの位の金貨があるか？ それを金全體で見るとは出來ないが、中央の銀行でどの位準備金を持つてゐるかで、ほどその總高を推察出來よう。

フランス銀行は今日約五十億圓の金準備を持つてゐる。大戦前には二十六七億圓しかなく、大戦直後には十二三億圓に減少したものが、その後だん／＼増加して行つて、昨年（一九三一年）の九月には四十五億圓になり、それから一ヶ月ほどの間に更に五億圓ほどを増加した。かうして彼は世界に於ける金の全保有量の約三分の一を持ち、今やフランス銀行の裏の空地の地下には五十億の金塊が埋められ、世の中に出たい／＼といつて毎晩夜泣きしてゐるといふ話。

日本に時めく三井王國は、その昔、屋敷内に三つの井戸があり、そこから毎夜毎晩、黄、白、赤の

三色の着物をきた幽霊が出たので、三井家の先祖は、何か譯があるのだらうと思ひ、その井戸をさらへてみると、金貨、銀貨、銅貨がそれ／＼三つの井戸からざく／＼出て來た。これが三井を今日あらしめたもとであり、だから、三井の名を得たのだといふ話。フランスもこんなに金を溜め込んで、金貨の幽霊に悩まされなければ幸ひである。何？ 幽霊だけでもい／＼から見たいつて？ シミツタレたことをいふものぢやない、一等國民の名譽にかゝはる。それ、武士は食はねど高揚子といふ諺もあるではないか。

アメリカは世界一の金貨持ちではあるが、今日ではフランスへ大分持つて行かれ、目下では六十億圓を切れるかも知れない。一億一千万の人間に六十億と、四千二百萬の人間に五十億圓では、國民一人當りで計算すると大違ひである。フランスが悠々たる氣持でゐるのも亦理由なしとはしない。

### どうして金を貯めたか

では、どうしてこんなにも金が集つたか？ といふ疑問が次に起るだらう。この答へは一朝一夕ではいへないが、極く要約していへば、國民が一致協力して極度に儉約しこつ／＼と金を貯めて行つたのである。

前にも書いたやうに、大戦後の一九二三年にはフランス銀行の準備金は十二三億圓しかなかつた。

大戦には莫大でもない國帑を費消し、アメリカにも大きな借りをし、これを毎年一億圓から八千萬圓位づゝ支拂つて行かなければならぬ。ドイツから賠償金を取ることにしたのが、ドイツもいつも戦争でへこたれてゐるのだから、取らうにも取れない状態にあつた。そこでフランスも極度の窮乏に陥りフラン價は日に日に暴落して行く、最低の時には平時の九分の一以上、約十分の一にまで落ちた。これを日本の金でいふと、平常は三十八錢七厘ほどするものが、四錢にまでなつた。これを言ひかへると、今まで四錢したものを三十八錢七厘出さなければ買へないといふ状態になつたのである。これを救ふ道は、たゞ一つ、極度の緊縮政策を行ひ、官吏を減首し、減俸を行ひ、然も一方増税をすることである。これは決して國民の好む所ではない。日本でも濱口内閣がこれを斷行したら非常に人氣が落ち、血盟團なんて怪物が現れて濱口首相や井上蔵相を殺してしまつた。血の氣の多いフランス人もこんなことをやるまいものでもない。だから歴代の内閣は、それをやらなくては仕様のない羽目に立至りながら敢てしようとはしなかつた。その時、これを敢て行つてのけたのがポアンカレである。

ポアンカレ内閣は一九二六年七月に成立した。彼は組閣と同時に、一時に約三十五億圓の増税を斷行した。即ち今までの稅率は所得の約二割だつたが、彼はそれを二割六分強にし、輸入稅、鐵道通行

稅、外國投資稅などの新稅を取り、その上徹底的に行政整理を行ひ、官吏は遠慮なく減首し、俸給もグン／＼下げた。この徹底した緊縮政策は勿論國民に喜ばれる筈はなかつた。けれども國民もまたそれよりほかに祖國の經濟危期を救ふ方法がないと知つたので、一九二八年四月に行はれた總選舉にはポアンカレ内閣は四百六十對百五十二の絶對多數で支持された。斯くしてポアンカレはその緊縮政策をトコトンまで行ふことが出来たので、國庫には漸次餘剰が殖え、かくて爲替信用もだん／＼回復されて行つたのである。

故井上準之助は大藏大臣として緊縮政策を樹てた時、常にこのフランスの例を引用してゐた。フランスとは國情を異にする日本がフランスの眞似をしたからといつて、果してフランス通りに金貨が溜るかどうかは即斷出来ないが、何れにしても一政治家が信念を以て斷行する公明な政治に對しては、それを徹底せしめる襟度があつてもいい、その點フランスはまた羨ましい國民だといはなければならぬ。

**巴里見物費二十三億圓也** 併しフランスが浮かび上つたのは單にこれだけではない。國內の緊縮を獎勵するだけではなく、他に外國からも巨額な金が轉がり込んで來たのである。

一國の經濟を見るには、大體に於てその貿易状態を見ればよい。ところがフランスは、それだけでは決して金の殖える理窟が判らない。何故なら、フランスの貿易は常に入超々々だからである。今一九三〇年度の貿易を見ると、輸出四百二十八億二千九百六十五萬フランであるに對し、輸入は五百二十三億四千四百三十七萬フランである。即ち入超九十五億フラン餘で、日本金に換算して三十五億七千五百餘萬圓である。尙これを最近七年間の入超合計を見てみると二百八十七億フランになるといふのである。

ところが、これだけの巨額の入超を穴埋めして尙餘りあるものがある。それは巴里を見物に来る外國人が巴里その他國內に落して行く金である。そんなものはタカが知れてるだらうと思つてはいけない。觀光客が市中へ直接落して行く金だから無論正確なことは判らないが、どう少く見積つても一年六十億フラン、こゝ七年间で四百二十億フランはあつたらうといはれてゐる。してみると最近の七年间に於て、これだけでも入超と差引して百四十億フラン、五十四億圓といふ金が浮いたことになる。

このほかに、ドイツからはそろ／＼賠償金が入り出し、これが聯合軍各國中最高の取り高で全額の五十二パーセントであり、年々八億四千八百萬マルク入るから、その中から戰時國債をアメリカへ一

億六千八百萬マルク、イギリスへ二億六千萬マルク支拂つても、尙四億二千萬マルク、約二億圓といふものが年々残つて行くのである。

かうして、(帳面づらではあるが)年々十億圓内外の金が残る勘定になるのだから、それをどう下手に使つても金の溜るのは無理のない話である。

**フランスの大野望** 金の惱みの去つたフランス、金のあり餘つて使ひ道に困つてゐるフランスが、その次には何を考へたか？ いふまでもなく金以外の野心である。否、金の威力でもつて權力を買はうとするのである。これは人間の誰でも考へることである。國家の考へることも畢竟個人と同じである。

フランスが國際聯盟へ歐洲合衆國案を提議したことは曩にも述べた。それをフランスが何處まで現實的に考へたかは別問題として、大西洋の彼方に隆々として榮ゆる國、フランスが昔から盡の好かない野郎だと思ひ、然も自分の競争相手はこれよりほかにないと考へてゐるアメリカ合衆國の向ふを張つて、歐洲合衆國といふものを作り、その上にフランスが君臨してみようといふ野望を抱いたのは、フランスの現在として、理解の出来ない氣持ではない。歐洲合衆國を作つても、ロシアを除けばその

面積はアメリカと大差ない。そして、もしそれが完成すれば物資の豊富さに於ても不足はない。この案を完成してこそ初めて眞にアメリカと對抗し得るのである。

十八世紀のフランス大革命はフランス國民の誇りである。と同時にその革命を踏みにじつて帝政を布いたナポレオンもまたフランス國民の誇りである。異にナポレオンのなした歐洲全土の征服は、今日に至つても彼等の血を湧かす、夢を育む。彼等がこのやうに金貨の唸つてゐる時に黄金の威力でナポレオンの大業を今日の世に再現しようとするのも、或は無理といへないかも知れない。

### ナポレオンの覇業

歐洲合衆國案實現は前述したやうにドイツの横槍によつて一頓挫を來たしたが、その一方、フランスは小協商國を操つて巧みにドイツを牽制し、ロシヤを牽制してゐる。考へ

て見るがよい、小協商國といふのは、ユーゴスラビヤ、ルーマニヤ、チエツコ・スロバキヤ、ポーランドの四ヶ國である。これは丁度フランスを出發點として獨塊の三方を取圍んだ形をなしてゐる。然もドイツの東北にあるリスアニヤ、ラトビヤ、エストニヤの三ヶ國は、大戦後フランスの骨折りによつて出來上つた國であり、フランスの北、ドイツと境する所にはベルギー、オランダがあつて、フランスと兄弟分のやうな親交を結んでゐる。これによつてフランスはドイツを包圍し、ロシヤとドイツ

ツとの間を隔離して兩者の接觸を不便にし、斯くして徹底的にドイツの勢力をそぎ、弱小國には金を貸して金縛りにし、結局自分一人が歐洲に君臨しようといふ遠大の志である。フランスが人口の相當以上に大陸軍を持つことも、ドイツには極く少數しか軍備を持たせないやうにし向けてゐるのも、一つにこの野望を延べようとする意志にほかならない。フランスが歐洲を南北に連結し、ドイツが歐洲を東西に繋ぎ、バルカンに於てこれが交叉してゐるのだから、第二の世界大戦の烽火は早晩バルカンの地から揚がることだらう。フランスの悩みはそこにある。そしてまた、フランスの希望も其處にある。いつも助からないのは大國の中間に介在する弱小民族だといはなければならぬ。

## 苦惱のドイツ

苦惱の中を行く 一九三一年七月、ドイツは世界に向つてSOSの信號を發した。ドイツ破産せりの聲は悲痛の極みだつた。ヒンデンブルグ大統領は、あの嚴かな顔をより嚴かに歪めて、ドイツを救ふにあらずんば世界もまた破産すべしと叫んだ。それは單なる脅かしでもなく、また形容詞でも

ない。だからこそ英米はあはてふためにドイツ救済を叫んだ。アメリカは戦債モラトリアム案を出したが、そんなものは最早ドイツを救ふことが出来なかつた。イギリスは貸金からの利子を待つてやることにした。併しそれも何のたしにもならなかつた。年末に至つてヒンデンブルグは次々に緊急大統領令を發し、物價を強制的に定めたり、消費額を決定したり、官吏及び一般俸給を減額したり、文字の上からのみ見れば壓制そのもの、如き法令を發した。かうして苦惱の様は眼の當りに見えた。失業者は日に／＼巷に溢れて行つた。五百萬、六百萬の失業者は、食ふにパンなく、寝るに家なく文字通り街の銀行、會社の大玄関に轉がつてゐた。政府は若干の失業保險を出してはゐるが、それは全く焼石に水ほどの効果もなかつた。

その年の九月、イギリスも次いで倒れた。この驚天動地の報道は世界の隅々を震撼し、ドイツの窮狀を一時忘れてしまつたが、その間にもドイツは最後の奮闘を續け、何とか再起しようと思つてゐる。華やかなりしカイゼルの野望は歐洲大戰に一敗地に塗れて空しく消えたが、隆々たる榮華の夢の破れるところ、戦敗の責を負ふて天文學的數字の賠償金を支拂はねばならなかつた。稼いでも稼いでも飯の食へぬ状態だつた。併し負けし魂のドイツ人は不撓不屈よくこゝまでのし上つて來たが、今

や世界の不景氣と聯合國の壓迫によつて、悲しくもSOSを發せざるを得なくなつたのである。然もドイツは、單に經濟上ばかりでなく、政治的にも、社會的にも、種々大なる問題をひかへて、正に革命前夜の如き感がある。然してドイツのこれ等の動きは、世界に影響する所多大なるものがあるのだから、無味乾燥でも少しくドイツ全體を見て行つて見よう。

### 獨逸革命の眞意

ドイツは日本の内地に臺灣、樺太を加へたほどの大きさがあつた、人口は六千三百萬、種々な點に於て我が國とほぼ同様である。このうちキリスト新教を奉ずるもの四千萬、カトリック教を信じるもの二千萬、そのほかにユダヤ教信者も若干ある。併しドイツの新時代は、共產黨にしろ國粹黨にしろ、宗教の羈絆から脱しようとしてゐるから、比較的話ではあるが、漸次宗教の力は薄らぎつゝある。

ドイツは現在聯邦共和國である。一九一八年、大戰が終ると同時に共和國制をしき、カイゼル・ウイヘルム二世を退位せしめたが、この退位は、カイゼルの信任が失せたのでもなく、また國民が共和制を謳歌したのでもなく、聯合軍の壓迫によつて、カイゼルに戦争の責を負はせ、無理矢理に退位させられたやうなものである。否、ドイツを救ふためにカイゼル自ら退位したやうなものである。

當時ドイツには、ロシアのボルシェビキ革命を見て自らもそれに追随せんとするものがあつた。そして正に叛亂を招かうとした。その時カイゼルも、また各聯邦君主達も、この勢力を壓迫する力は充分に持つてゐた。にも拘らず、各君主達は一齊に退位し、逃亡し、或は屈伏して、あれほどの革命が何等血を流さずに成就したのは、政體を變革してドイツの責任を軽くし、聯合軍の壓迫を逃れようといふ遠謀深慮からだつたのである。その謀は正に圖に當つた。センチメンタリスト・ウイルソンは、ドイツのために辯明した演説をし、フランスが徹底的にドイツをやつつけようとした危機からドイツを救ふやうにした。勿論その裏には、ドイツはアメリカ商品の消費國だから、お顧客をなくしたくないと考へたからでもあらうが……

帝政謳歌の風潮 約言すれば、當時のドイツ國民は決して共和制を希望してはゐなかつた。それに加ふるに、代々の共和國內閣が無能振りを發揮して愈々それへの幻滅を感じさせたので、帝政時代を慕ふものは勃然として各所に起つた。宮廷に仕へた官吏、聯盟の壓迫によつて極度の軍縮を餘儀なくされて職を失つた將卒、昔日の地位を失つた貴族富豪、——それ等は相寄つて帝政復古の運動を起し、國民の大多數またこれに應じた。その結果は總選舉に歴然と現れた。即ち一九一九年一月の選

舉に於ては、社會黨は四十四%、中央黨は二十一%、民主黨は十八%といふ成績を示し、共和制を望むものは全投票の八十四%を占めたが、一九二四年十二月の選舉には、それ等の政黨は半減して四十六%となり、あと五十四%は帝政謳歌のものとなつた。

その最も著るしい現れは廢帝ウイルヘルムの誕生祭である。つまり一月二十九日の天長節のことで大戦後は聯合國に遠慮してその祝ひも極くさゝやかだつたが、一九二五年には國民舉つて盛大にこれを行ひ、舊帝政時代の國旗を掲げてベルリン市中を行進し、保守黨の機關紙クロイツ・ツアイツングの如きは、

「皇帝旗がベルリンのホーヘンツォルレン宮殿より再び翻翻とはためく時期が到來するまでは、國民よ、決して業を休んではならない。」

と遠慮會釋もなくやつてのけた。また一九二四年八月十日には、共和制樹立五週年記念祭が舉行され五千の群衆は隊伍を組んでベルリン市中を練り歩いたが、一般には何等人氣立たず、中には道々に舊國旗を掲げて行列に嘲笑の聲を放つたものさへあつた。かうして帝政復古の謳歌は一九二五年四月に行はれた大統領選舉に遺憾なく現れた。即ち帝政時代に最も武勳赫々たりしヒンデンブルグ將軍が絶



對多數で當然したことである。

### 國粹黨の擡頭

けれどもその後、國民は漸く共和制に慣れた。共產黨の活動がプロレタリアの自覺を促したこともその一原因ではあるが、帝政時代を遠ざかるにつれ、そして、國家經濟が曲りなりにも稍安定したにつれて、現狀維持の氣持が國民に普及するやうになつた。のみならず、アメリカ資本の攻勢は結局帝政派のやうな舊資本を滅ぼして、ユダヤ系統に屬する新資本家を擡頭せしめ、これ等の支持を受ける社會黨は「共和政維持、帝政派、軍人派團體解散」のスローガンを掲げたが遂に議會で第一黨を占め、その他中央黨、民主黨も各々多數の議席を得るに至り、帝政派の衰微は漸く目立つて來た。

ところが此處に、帝政派に代つて擡頭した政黨がある。それは國家社會主義を標榜するヒットラー一派のファシストである。このヒットラーの運動に就いては後章で詳しく説くから此處には割愛するとして、この國粹黨は決して帝政派の生れ變りではなく、祖國ドイツを守ることに於ては人後に落ちないが、帝政はこれを排撃し、國家社會主義の見地から新しいドイツを建設しようといふので、ヒットラーの言をかりていへば「第三帝國」の創建を期するものである。これには多くの軍人も加はり、

暴力を以ていも事を決行しようといふ意氣を示し、ミュンヘンでは一度暴動を起したとさへある。そして今年の大統領改選期にはヒットラーはヒンデンブルグの牙城に迫り、あはや天下を取らうとさへした。ファシズムの傾向はイタリーに初まつて、今や世界を風靡しようとしてゐる。殊にドイツのファシズムは、その言が勇敢であり、その勢ひが猛烈であり、なほ世界の平和に影響するところ多くなるを以て大いに注目されてゐる。

何故かういふことになつたか？—それは一つに盤石の如く頭上にのしかゝつてゐる賠償金を何とかして拂ひのけたいといふ希望が全國民にあるからであり、この好個の問題を立ち所に解決しようといふファシストの言が國民の歡迎を受けるのも亦當然といふべきである。

### ベルサイユ條約破棄

國粹黨の第一に掲げる公約は、ベルサイユ條約の破棄である。

ベルサイユ條約にはいろんな事が規定してある。大戰後に一夜にして出來上つた國々のこと、委任統治國のこと、賠償金問題のこと等、數へ立てればキリがない。その中からドイツに關係あることだけをとり上げて第一にチエツコやポーランドやリスアニア等によつて國境が著るしくせばめられたこと、六百六十億圓といふ天文學的數字の賠償金を課せられてゐること、ザール地方の聯盟委任統治

ラインランドの佛軍占領、ドイツ殖民地が聯合各國に分割されて委任統治國となつてゐること、軍備その他内政に關することまでいろ／＼制限されてゐること等である。その中でラインランドの占領だけは一九三〇年限り解くことが出来てドイツの手に返り、賠償金はヤング案によつて最初の四分の一なる百八十億圓に減額されたが、その他はまだそのまゝになつてゐる。

ドイツ國民はこれ等總ての條約放棄を希望してゐる。先づ第一に賠償金の不拂第二にザール地方の奪還、第三に軍備の自由擴張、第四にアルサス、ロートリンゲンの奪回、第五に植民地の返還。

これは單にヒットラー黨だけではなく、歴代の内閣も與ふ限り努力して來た所である。ラインランドの奪還と賠償金の減額に成功したドイツは、押しの一手でベルサイユ條約を破棄してみせると意氣込んでゐる。前外相ストレーゼマンはこれを協調主義で行かうとし、首相ブリュニングもそれを支持してゐるが、ファシスト等はこれを暴力的に即時破棄しようとしてゐる。そんなことが出来るか出来ぬかは別として、「その言やよし」でもつて人氣を得てゐるのである。

**氣持の悪い米國の態度** 併しベルサイユ條約の破棄はドイツのみが希望してゐるわけではなくこの條約を作り上げたアメリカ自身もこれを希望してゐるかのやうである。勿論正面から希望しては

ゐないが、ドーズ案、ヤング案等によつて賠償金減額を自ら進んで行つたり、モラトリアム案を持出したたり、フランスが溢つてゐるライン撤兵をイギリスと協同で強く勸告したりして、いろ／＼ドイツのために骨折つてやり、事實上ベルサイユ條約の改訂又は破棄を企てゝゐる。

アメリカがこんな世話を焼くのは何故か、といふに、彼自身のいふやうに世界平和のため、彼の温情主義のためでは決してない。第一には自らの投資に對する利子を確實に取りたいこと、第二には自分の市場を失ひたくないこと、第三にはドイツの復興を助けてフランスの歐洲に於ける野心を牽制すること等のためである。けれども若しこの目的が達せられてドイツが昔のやうに復興したら、果してアメリカといふ旦那のお氣に召すやうな人間になるかどうかは甚だ疑問である。若しドイツが國力を恢復したら、先づオーストリアとの國境を撤廢するだらう。次にはチエツコに屬するドイツ民族の居住地ボヘミヤを奪取するだらう。序にポーランドにも手をつけて島流しに逢つた東プロシヤと本國を結びつけ、ダンチヒをも併せ收めるだらう。それからアルサス、ロートリンゲンを取り返し、バルカンに手を伸ばし、近東諸國にまで進出するだらう。これ等はドイツ國民の夢にも忘れぬ所であり、その希望があるからこそ、獨裁治下にあつて隱忍自重してゐるのである。

## ロシアの赤い啖呵

ドイツはまた北にロシアといふ強大な國を控へてゐる。大戦前には皇室が親戚關係にあつたりしたが、兩國民はいつも仲が悪く、殊にロシア人はドイツ人を嫌つてゐた。政治上でも、バルカンで常に衝突し、大戦の勃發と同時に直ぐ敵味方に別れて戦つた。またロシアに共產革命が起つてからは、ドイツに赤化の手がのび、それが軍隊を攪亂したりして、兩國の國交は甚だ面白くなかつた。

然るに、一九二二年四月には兩國はラツパロに會して親善條約を結び、もし孰れかが第三國と戦ふ場合には、他の國は嚴正中立を守ることといふことまで定めて、急に親善振りを發揮した。それはゼノア會議の席上でロシアの代表チエリンが獨逸に極めて有利な提案をしたからである。それは、先づ第一に、賠償金を取るな、といふのである。ドイツにとつてこんな有難い話はない。ロシアのトリツクは斯うだ。ロシアは大戦前又は大戦中にアメリカ、イギリス、フランス等から多くの金を借りてゐるが、革命ロシアはこれ等を全部蹴飛ばしてしまつた。そこで列國は大いに怒つたが、ロシアは平然としていつた。

「若し舊債を認めよといふのなら、ロシアに對しても何故獨逸賠償の分け前をよこさないのか。それ

ばかりではない。聯合軍は嘗て味方だつたロシアに對して反革命運動を助け、三百五十億圓に相當する損害を與へ、あまつさへ、ロシアの國土だつたベツサラビヤを無斷でルーマニヤに與へて五億圓の損害を與へた。舊債を認めよといふのなら、先づこの損害賠償をも列國に認めて貰ひたい」

この毒氣を含んだ赤い啖呵には流石の列國代表もグーの音も出なかつた。内心喜んだのはドイツである。ドイツは急にチエリンの所へ行つて、

「仲よくしよぜ兄弟！」

と、脊中を叩いて握手してしまつた。これがラツパロ條約である。

## ロシアの二重外交

ロシアとドイツは、一旦はかうして仲よくしたが、それは幾何もなく破綻を生じた。ドイツはロシアと仲よくして工業原料を得、且つ工業製品を賣りつけようとし、ロシアはドイツには大して物質的な望みを持たなかつたが、政治的にドイツを利用しようとした。ロシアに新經濟政策が行はれ、五ヶ年計畫が樹てられるやうになつた時、ドイツはロシアを農業國としてその力が恢復されるだらうと思つてゐたら、豈圖らんや工業的に著るしい進出をしまひ、この調子で行つては、ドイツ製品を賣る餘地がないやうな羽目に陥るらしい。尤も一九三一年には五億圓もの注文

を取つたが、その金の支拂ひも不確實な上に、以上のやうに前途の望みが薄くなつた。

またロシアにしてみれば、破産しかゝつてゐるドイツをいつまでも相手にしてゐるよりは、もつとしつかりした國と仲よく出来ればそれに越したことはない。そこで、今まで睨み合つてゐたイギリスやアメリカに秋波を送つてみたところが、案外色よい返事をしたので、到頭ドイツを袖にするやうな仕打ちに出た。かうしたロシアの二重外交のために前に締結したラツパロ條約を改訂しなくてはならぬ状態になり、目下兩國は、またもや變な顔向け合つて、氣まづいことをいひ合つてゐる。

このほかドイツがフランスと睨み合つてゐることや、バルカンに野心を抱いてゐること等は既に述べた通りである。

次にドイツの政治組織をのべてみよう。

**ドイツの議會組織** ドイツは共和制であり、大統領は七年の任期があり、多大な権力を附與されてゐる。大統領の選挙は國民投票により、當選者は他の候補者の總得票を加算したよりも尙一割多くの得票を得なくてはならない。今年三月十三日行はれた改選の結果は、ヒンデンブルグ一八、六六一、七三六票、ヒットラー一一、三二八、五七一票、その他三名で八、六三五、四三二票あり、この選挙は無

効となり、四月十日第二回の選挙を行った結果、ヒンデンブルグは遂に絶對多數で當選した。大統領の下に内閣があり、國務大臣は在任中は國議會の信任を要す。國議會が決議によりして不信任を表したる時は、その職を去るべし」といふことが憲法に明示してある。

議會は國議會と國參議院とから組織されてゐるが、これは他の國の上下兩院の關係ではなく、國議會はドイツ國民を代表する議員によつて構成され、立法を司り、國參議院はドイツ各聯邦から送つた代表者六十八名によつて組織され、政府が法律案を國議會に提出するに先立ち、先づその審議を受け、もし國議會で決議したところの法律を不當と見做した時は國議會に向つて抗議する権利を持つてゐる。

國會議員の選挙權、被選挙權は滿二十歳以上の男子にあり、議員の任期は四年である。たゞ選挙に當つて他の國と趣きを異にしてゐる點は、六萬票以上の得票を得たものに限り議員たるの權利がある。故に一九二四年五月の選挙には四百七十二名であつたものが、同年十一月には四百九十三名となり、一九二八年五月には四百九十名、一九三〇年九月の選挙には五百七十七名の多きに達した。

ドイツ政黨は小黨分立して與黨野黨の區別が甚だつきにくい。

今その大體を擧げると左の通りである。

- 社會民主黨 一四三名
- 國粹社會黨 一〇七名
- 共產黨 七六名
- 中央黨 六八名
- 國民人民黨 四一名
- 人民黨 三〇名
- 中産階級ライヒ黨 二三名
- 基督教國民農民及土地人民黨 二一名
- バイエルン人民黨 一九名
- 國家黨 一五名
- 基督教社會黨 一四名
- 人民保守黨 七名

- 人民國家主義ライヒ合同黨 六名
- 農民黨 五名
- 無所屬 二名
- 合計 五七七名

右のうち、○印はブリュニング内閣に對し與黨ともいふべきもので合計三百十四名、●印は野黨で二百六十三名ある。併し與黨といつても極めて頼りないもので、決して大養内閣に於ける政友會のやうなものではなく、現に第一黨の社會民主黨からは一人も大臣が出てゐない。かうして政府は確固たる議會の支持を持たないから、人呼んで「腰から下のない美人」といつてゐる。

**有名無實の國議會** 國議會は毎年十一月の第一水曜日に召集され、會期は國議會自らがその時に決定するのであつて、一定してはゐないばかりでなく、殆んど一年中開會されてゐる。また國議會は大統領或は國會議員三分の一以上の請求ある時はこれを召集することになつてゐる。

ところが、近頃では議會は殆んど開會されない。去年の十月十二日に珍しく開かれたが、五日間で閉會してしまひ、今年の二月までは議員達はぐう／＼眠つてゐてもいいことになつた。それほどドイ

ツは何も相談することがないのかといふと、さに非ず、前にもいつたやうに問題は山積されてゐるのである。けれども、政府にシツカリした與黨がなく、所謂「腰から下のない美人」のブリーニング内閣は、昨秋の國議會では經濟黨（中産階級ライヒ黨）の裏切りによつて危く信任されたやうな有様だから、下手に議會は開けない。規則では年中幕なしに開いてゐるべき國議會も、また規則で休暇を取ることが出来るので、さてこそ政府は、休暇々々と、休暇のし續けをしてゐるのである。そしてその間に必要な法令は「緊急大統領令」といふものをどしどし連發して、どん／＼片づけて行く。そんな無茶な共和政治があるか、といつてファツシヨ達はいきり立つが、第一黨の民主黨初め與黨側のものは寧ろそれを歓迎し、自分達は有名無實の議員様として安眠をむさぼつてゐる。勿論それでも歳費だけは貰へるのだから文句はない筈である。

**雨と降り注ぐ大統領令** ドイツは今やヒンデンブルグの獨裁治下にある。國議會はあつてなきものとなり、緊急令は日に夜を次いで發布される。彼は一九三〇年七月二十六日初めて「財政經濟及社會的急迫除去を目的とする緊急令」を發し、二日の後「政治的擾亂を防衛すべき緊急十七ヶ條」を出した。ところがその年の十二月一日、前に發した法令を覆すやうな「經濟及財政の確保に関する緊急令」を出し、翌三一年五月三十一日には、又もや同様のものを出した。

それからは愈々フリーパーのモラ案となり、ヒンデンブルグのSOSとなるのだが、このSOSを世界に發信した七月以後は、緊急令が雨の如くに降り注ぎ、一日として出ない日がない有様である。今七月十三日から後二ヶ月間に發表されたものだけを擧げて見ると、

- 一、ダナート銀行に関するもの 六
- 二、全國銀行の一般閉鎖に関するもの 十一
- 三、外國旅行者旅券手数料引上に関するもの 三
- 四、政治擾亂取締りに関するもの 五
- 五、取引所再開に関するもの 一
- 六、取引所の業務速進に関するもの 二
- 七、外國爲替相場の建方に関するもの 七
- 八、外國貨幣建勘定の支拂方法に関するもの 三
- 九、ドイツ共和國商法改正に関するもの 一

- 十、農産物賣買の保成に關するもの
- 十一、國內資本の逃避及脱税の防止に關するもの
- 十二、資本管理會社及納税者の手續簡省に關するもの
- 十三、株式會社及生産組合の破産に關するもの
- 十四、株式相場公表に關するもの
- 十五、私立發券銀行券の金準備に關するもの
- 十六、株式會社へ國家の参加に關するもの
- 十七、貯蓄預金勘定に關するもの
- 十八、貯蓄金庫、振替金庫及地方自治金融施設に關するもの
- 十九、滞納者の租税免除に關するもの
- 二十、租税滞納遅滞利子に關するもの
- 廿一、外國貿易決算に關するもの
- 廿二、海外支拂債務者の届出に關するもの

廿三、外國債權者の回收猶豫の保證に關するもの

廿四、株式權、銀行管理及滞納税免除に關するもの

こんな調子で、一ト通り書くだけでさへ手頸が痛くなるほどに發表されてゐる。そこでドイツの官吏はそんなものには一々目もくれず、たゞ感じだけで、自分の思つたやうにしてゐるといふベラボーな状態である。

一 四

ヒンデンブルグの獨裁

これだけを見てもヒンデンブルグが如何に議會を無視して勝手氣儘なことをやつてゐるか判るが、これ以上にひどいのは去年の十月七日に發表された大統領令である。それによると、家庭及び信書の秘密に關する權利、出版による言論自由の權利、集會結社の權利、私有財産に關する保證といったやうな、立憲國なら何處の國でも當然の權利として認めてゐる個人の權利さへも剝奪し、その上、私設會社の重役の俸給を政府が指定する權利や、政治的暴動鎮壓に關して大統領が軍隊を用ひる獨裁的權利をも持つことになつた。

ドイツ憲法第四十八條には、

「公安ト秩序トガ著ルシク妨ゲラレ、マタハ危險に陥リタル時ハ、大統領ハ非常權力ヲ使用スルコ

トヲ得」

と明記してある。だからこのやうに緊急令を雨と降らしても、決してヒンデンブルグは憲法違反の行爲をやつてゐるわけではない。だがそれにしても餘りにひどい。まるで中古時代の暴君のやうなやり方である。一九三〇年七月彼が初めて緊急令を出した時、社会民主党は緊急令撤廃案を議會に提起し十五票の差でこれを通過させたが、今日このやうに無制限に緊急令を出しても左程騒ぎ立てないといふのは、止むを得ない理由を充分に理解してゐるからである。ドイツ今日のやうな急迫せる状態に際し、議會に確固たる地盤を持たぬ内閣では、一つの法令ごとに自己の進退を賭け、然も長い時日を費して論議してゐたのでは間に合はないから、國家のためよしと信じたことは、どし／＼やつて行くのであり、又一方、ヒットラーの國粹黨や、アーネスト・テールマンの共産黨やが、今にも暴動を起しさうに騒ぎ廻つてゐるといふ不安な世相では、大統領に對して暴動に備へるだけの絶對權力を與へておかないわけには行かないのである。殊にそれが、ヒンデンブルグのやうな人間なら、その權力を私利私慾のために悪用するといふ心配がないから、さてこそ餘り騒ぎ立てないで、老將軍のなすがまゝに任せてゐるのである。

併しこのやうにしてもドイツの景氣は當分救ふべくもない。苦惱に苦惱を重ねるドイツ、不屈の精神もその苦惱に眞正面から打ち當つて行くドイツ、それは實に雄々しくもまた悲壯である。

## ファツシヨの本家イタリー

**ファツシヨの本場** イタリーはファツシヨの本場である。イタリーはそれ自身歴史も古く、その景色に、火山に、ベニスに、ローマ帝國に、法王廳に、有名なものは數限りなくあるが、今日我々が「イタリー」といつて直ぐ頭に浮ぶものはファツシヨである。ムツソリーニである。黒シャツ黨である。「イタリーのムツソリーニか、ムツソリーニのイタリーか」などいふ文句は古いが、全くその感なきを得ないのだから、ムツソリーニも大したもののである。

ファシズムといふものは、實際ムツソリーニの發明したものであり、今日世界各國を風靡してゐるファシズムは、各々幾分内容の相違こそあれ、ムツソリーニの流れを汲まないものはない。國粹主義と簡単にいひ切るには古風な壯士氣質とは餘りに内容を異にしてゐる。民族主義と單にいひきるには



現代社會に對して餘りに攻勢的過ぎる。コンミニュニズムに非ず、サンチカリズムに非ず、ミリタリズムに非ず、インベリアリズムにも非ず、どうしてもファシズムと稱する所にファシズムの獨自性がある。そしてこれが、イタリーの一角に初まつて全世界を風靡しようとしてゐるのだから、ムツソリーニもまた現代の一傑といふべきである。

ムツソリーニの運動或はファシズムの運動に就いては何れ項を改めて詳しく説くが、このファシズムによつて統轄されてゐるイタリーは、他の國とどんな點が違ふか、先づそこから觀察して行つてみよう。

### 破れた長靴

イタリーは地中海の中へ投げ出された長靴である。紺碧に澄んだ波靜かなる南歐の海！そこに漂ひ、打よせられた一つの長靴！それは古び、破れてゐるけれども、今まで抱いて來た多くの夢を物語るかのやうに、意味深く小頸を傾けてゐる。詩の國、音樂の國、ゴンドラの國、情熱の國、名物マカロニーの國……だが、今ではそんな夢のやうなことは一切かなぐり捨てた。そして黒シャツに身を固め、大ローマ帝國の再現を目指しながら新興イタリーの建設に全力を擧げて邁進しつゝある。

イタリーの面積は三十一萬方キロで、日本の本州と四國、九州を合せたほどしかない。これだけの土地に四千百十四萬五千四十一人（一九三一年四月の國勢調査）あり、一平方キロに百三十四人の密度で丁度わが國全土の平均密度に等しい。この他にイタリー人として國籍があり、諸外國に在住するもの約一千萬人あり、植民地としては、對岸アフリカのトリポリ、東アフリカのソマリーランド、トルコ沿岸のドデカネーヌ諸島等合計二百萬方キロ、住民二百萬ほどある。本國民は信教の自由を有してはゐるが、宗教に縛られることは他と同様で、國民の九十五％はローマ舊教を奉じてゐる。ローマにある法王廳は即ちその世界的大本山である。

### イタリーの政體

イタリーは立憲君主政體である。皇帝はヴィットリオ・エマニエレ三世で一九〇〇年御即位になつた。サルチニヤ王ヴィットリオ・エマニエレ二世がローマに入つて王家を興されたのは一八七二年で、その前、一八四八年から一八七二年までの二十餘年間は實に惡戰苦闘を続け、漸くにしてこの建國の大業を完成された。それまではフランスの勢力下にあつたのである。王家はこのやうにしてイタリー建國に大功があつたが、一九二二年以後ムツソリーニの獨裁となるに及び、王位の繼承も、國王の特權及び大權もみなファシスト黨の最高評議會が決定することとなり、今

日では有名無實、單なる飾り物的存在にしか過ぎなくなつた。

現在のイタリアはファシスト黨の獨裁である。國會もあり、政府もあり、いろいろな機關も備はつてはゐるが、全くファシストに非ずんば人に非ずといつた觀を呈してゐる。そのファシストの親分がムツソリーニなのだから、名は一國の首相だが、その權力は正に王家以上である。ムツソリーニは今では内相を兼務してゐるだけだが、會では外務、内務、陸軍、海軍、飛行、法人の六省を一人で切り廻し、文字通り文武兩道の長となつてゐた。以下もう少し詳しくファシズム獨裁の政治組織を考察してみよう。

### 組合國家とは何か？

一九二七年四月、ムツソリーニは勞働憲章といふものを發布した。つまりイタリアの新憲法なのだ、これによるとイタリアの國の組織が他と全く異つてゐることが判る。その憲法の中に「組合國家」といふ文字が出てゐるが、即ち、イタリアはいろんな組合から構成された國家だといふのである。

組合といふと勞働組合のやうに聞えるが、さうではない。シンチケートとコーポラチープの二種類はあるが、兎に角政府で作つた十三のシンチケートがあり、資本家も勞働者も、この官設組合の何れ

かに加入してゐなくてはならない。このシンチケートに屬さないのは、教育事業及び社會教化事業に従事するものだけである。

議會はこれ等の組合から選舉されたものから構成されてゐる。尤も選舉といつても殆んどその實はなく、政府指名の官吏も同様である。何故といふに、一九二八年五月に公布された新選舉法によると議員の定員は四百名であるが、先づ最初に前述の十三の組合から八百名、教化團體から二百名の候補者を選んでこれを政府に届け出すと、政府はこの名簿を見て、その中から適當と認められたもの四百名を選抜してその名簿を作り、これを國民に示して賛否の投票をさせ、賛成が多かつたら四百名が一遍に當選者となるのである。四百名の中で、誰と誰はいやだなんて我儘は云はせない。四百名を一トまじめにして、好きか嫌ひか？ といふのである。勿論これは政府が選んだ人間だから、ファシスト黨全盛のイタリアで、政府公選の人間にケチをつける理由がない。だから名は選舉だが、あらかじめ政府の御膳立て通りに出來るのである。

選舉權有資格者は、滿二十一歳以上の男子又は十八歳以上の既婚男子で一定の財産を有するものとなつてゐるが、以上のやうな選舉法では選舉權も糞もあつたものではない。

**王權にも干渉する黨最高評議會** かうして出来た議會がどんな力を持つてゐるかはいふまでもない。即ち政府の示す提案に對して意々諾々と賛意を表し、形式だけ民意に問ふてゐるやうな形にしてゐるだけである。然も政府の上には、政府を指導すべき機關がある。それはファシスト黨最高評議會といふものである。

最高評議會の會員はファシスト黨がローマに侵入した時の四頭目、内閣に列して三年以上會員たりし者、ファシスト黨幹事長、及び上下兩院議長、國務大臣、國民義勇軍司令官等四十名からなり、前三者は任期は無制限とし、その他は官職にある間だけが任期となつてゐる。

この最高評議會はどんな權利を持つてゐるかといふに、前述したやうに、先づ王位繼承、國王の特權及び大權を初めとして、最高評議會及び上下兩院の構成と權限、内閣總理大臣の特權並びに權限、國家と法王廳との關係、本國及び植民地の領土に關する國際條約等、國家の最も重大なる憲法的性質を有する事項を決定するものであつて、一九二八年の議會を通過して今日では立派に憲法上の機關となつてゐる。

### ファシストの獨裁振り

政治組織が既にこの通りだから、ファシスト黨の最高評議會で決定し

たことを議會で否定する筈がなく、政府また自分の思ふがまゝに振舞つてをり、全くムツソリーニの思ふこと成らざるなき有様である。

ムツソリーニは先づ言論機關を壓迫し、ファシストに不利なことは絶対に掲載させず、政府黨にのみ言論の自由を與へ、若し反對の言をなすと、市民權を剝奪したり、財産を沒收したりするので、幾百となくある新聞雜誌はみな政府の御用をのみ努めてゐる。彼の横暴振りはこれだけではない。秘密結社の存在は絶対に許さず、政府的犯罪には特別國防裁判所を設けて嚴罰し、國王、皇太子、首相の暗殺を企てた者及び重大な國事犯人は死刑に處することになつてゐる。また勞働は今まで八時間制だつたものを九時間制にし、資本家と勞働者の間には勞資仲裁裁判所が設けられてその紛争を解決し、ストライキの如きは直ちに犯罪として處罰される。その位はまだ生優しい方で、ファシスト黨員が殺人や重罪を犯しても平氣で無罪になつたりするやうなことさへある。尤も日本でも贈賄者やその幫助者が罪になつても、收賄者は證據不充分で無罪になつたりするのだから餘りムツソリーニばかり悪くいふことは出来なないけれども。

### ムツソリーニの功績

こんな專横極まることをやつてゐても、何故イタリー人は文句をいはな

いか？ その理由は、フアシストの力が國民にグウの音も立てさせないほど強大だといふ理由にもよらうし、「國家ハコレヲ構成スル各個人又ハ團體ニ比シ一層大ナル特殊目的、生命及び行爲ノ方法ヲ有スル一ノ組織ナリ」といふ労働憲章の條文にもある通り、國家は個人よりも高級な存在であり、國家の大目的のためには個人の權利は犠牲とすべきであるといふフアシスト獨特の大義名分があるからでもあるが、もつと大きな理由は、ムツソリーニが國民に文句をいはずにせよといふほど、いろ／＼困難な仕事をやつてのけたからである。その點なる木偶の棒とは違つてゐる。

イタリーの財政は傳統的に悪かつた。それを建直すには行政整理をしなければならなかつた。そこで彼は、官吏の首約四萬一週にチョン切つてしまひ、残つた連中からは減俸してザツと二十億リラ（二億一千万圓ほど）を節約して見せた。次には地方裁判所を五十も廢し、數個あつた大審院を一個にして經費を節約すると同時に、裁判に權威あらしめた。農務、工務兩省を合して國民經濟省とし、回復州省を廢した。官私立小學校が中學校に進む時、官私立の差別待遇が猛烈だつたものを全く廢した。またイタリー建國以來懸案となつてゐた法王廳に對する年金支拂ひの大問題をも解決した。これは、「若しこの問題を解決する者あらば、そはイタリー最大の政治家なり」といはれてゐたほど困難なこと

だつたから、それを解決したムツソリーニは正にイタリー最大の政治家になつたわけである。

このほかに外交問題としても、トルコからドデカネイス群島を略取したり、アルパニヤを手なづけてバルカンに進出しようとしたり、地中海沿岸地方のアフリカ問題に關してガツチリとフランスに組付いたり、海軍問題で物凄い唖呵を切つてフランスを凹ましたり、兎に角ムツソリーニは口でいふだけのことはやつてのけるのである。口も八丁手も八丁といふところで國民は、彼の暴君のやうな獨裁振りを見ても案外文句もいはずに黙つてゐるのだらう。

### 生めよ殖えよ主義

ムツソリーニの施政の中でも特に目立つて面白いのは人口問題である。

十九世紀にマルサスが優生學を説いてからは、世界は滔々として産兒調節的傾向になつて來た。フランスはその最たるものだが、日本のやうな生めよ殖えよ主義の國でも近頃では盛んに産兒調節を説いてゐる。國土に限りがあり、農産物に限りがあるなら、限りなく人間を生むことは考へ物である、といふのは誰にも異論のない所のやうであるが、イタリーだけは今日も相變らず神代を今に、生めよ殖えよ、地に滿てよと叫び續けてゐる。

ではイタリーの人口はそれほど少いのか、といふにサに非ずで、凡そ世界中で人口過剩に惱まされ

てゐるのは日本とイタリーだらう。そのためにイタリーは近年までは大いに海外移民を奨励し、アメリカ、アフリカ等へはドシ／＼出稼ぎに出し、その數一ヶ年に平均三十萬に達した。イタリーは年々約五十萬づゝ人口が増加して行くから、かうして三十萬づゝ海外に送り出して尙且つ二十萬づゝは國內に殖えて行く勘定になる。元來イタリーは資源の貧弱な國で、我が國と同様平野が少いために食料に不自由し、かといつて石炭も鐵も殆んどなく、その他の工業原料も極めて少いので、年々六七億圓の輸入超過になつてゐる。そんな所なら尙更人口を制限しなくてはならぬのに、ムツソリーニは法律まで出して人口増加をはかつてゐる。

### 獨身者には罰税

今イタリーの生め殖え主義の法律を見ると、先づ第一に、七人以上子供を生んだ親には褒美をくれる。貧乏人の子澤山で弱つてゐるのは日本のこと、イタリーでは子供が多ければ免税してくれたり賞金をくれたりするのだから有難い。

第二には、男子二十五歳以上六十五歳にして獨身の者には獨身税を課する。何故嫁を貰はんか、といふのではなく、何故子供を作らんか、といふのである。かといつて、

「いや、そこに抜かりはありませんや、裏の後家に孕ませましたよ」なんてのは辯解にならぬ。

「何故一緒にならんか」と来る。

第三には、民法によつて結婚の年齢を早めた。男子は満十六歳、女子は満十四歳になれば結婚出来る。これでは子持ちの中學生や女學生が大勢出来るだらう。教室の中で赤ン坊にオツパイを飲ませてゐるレデーには褒美を下さる、なんてことになるかも知れない。まさか！

第四には、産兒調節の否定と、墮胎者の嚴罰である。ムツソリーニはいつてゐる。

「祖國に對して最も不忠なる者は、脱税者に非ず、徴兵忌避者にも非ず、それは實に産兒調節者なり」

この主義のために、彼はイギリスの性學者マリイ・ストープス女史を招聘しておきながら、女史が産兒調節者だと聞いて招聘を取消し、女史はそれを認めるの認めないのと騒いだこともある。この位だから墮胎の取締りなどは極度に嚴重にし、不正な産婆や醫者は嚴罰に處してゐる。

第五には、移民を制限した。イタリーではそれまでは年々三十萬、四十萬の人間が移住して行つたものであり、イタリー人の移住は世界第一であり、移住した先でもお國自慢を振り廻すので世界の鼻つまみにされてゐたが、その所爲もあり、またムツソリーニの移民制限も手傳つて、今日では年に六七萬人しかなくなつた。

かうしてムツソリーニはイタリア本國內に人間をワンサと居らせようとしてゐるのだが、何故こんな無茶をやるのか？ そこにはムツソリーニらしい理論と大野望とがあるのである。

「數は力なり」ムツソリーニの野望とか何か？ それは前にも述べたやうに、犬猿の間柄にあるフランスをやつゝけることである。アルパニヤを足場としてユーゴ・スラビヤに出、バルカンを縦断することである。チュニス、アルゼリヤ、モロッコに進出することである。ドデカネーヌから近東諸國に乗り出すことである。かくしてイタリア民族を發展させ、物資の缺乏を救ひ、總ては大ローマ帝國の再建を夢みてゐるのである。それには武力が要る。武力を行使するには軍隊が要る。軍隊は人間によつて構成される。死んでも死んでも戦友の屍を乗り越えて進み出るためには、人間は幾らあつても足りないだらう。

「數は力なり」

これは昔の武將や政治家が考へたことである。ナポレオンの偉業は確かにこの言葉を裏書きしてゐる。モンゴール族の覇業も正にそれである。ムツソリーニはこの古風な格言を現代に生かさうとしてゐるのである。彼は數年前ミラノ市發行の新聞ボボロ・チタリアに一文を寄せて、この意志を怖れ氣

もなく表示してゐる。

「世界の歴史を通過するに、バビロン、エジプト、テーベ、ローマの如き大帝國の滅亡せるは、何れも出生兒の減少に原因する。人口の増加は單に平和の目的のためのみならず、戦争の目的のためには緊要缺くべからざるものである。」

イタリアが斯くの如く古風な侵略主義を持たなければならぬといふのは、一に經濟的缺乏と物資の缺乏に原因してゐる。ではその缺乏状態はどんなものかを見てみよう。

物資缺乏の悩み

先づ問題になるのは食糧である。

イタリアには耕地は三千三百エーカーあり、全面積の四割三分を占めてゐる。けれども主食糧たる小麦の産は北方に限られ、南方は小麦の成熟期に急に水量が減るので、小麦の栽培には不適當であり、そのために葡萄その他の果樹が奨励されてゐる。かうして全國からの麥の産額は五千萬クイントル内外にしか達しない。然るに國民が一年の需要は六千五百萬乃至七千萬クイントルだから、その不足だけは輸入に待たねばならない。ムツソリーニはこれを憂へ、大々的な農事奨励を行ひ、一九二五年には六千六百クイントルの成績を擧げて輸入を防止したこともあるが、年々このやうな豊作に恵ま

れることは不可能であり、年々三億圓内外を遠くアルゼンチン及びアメリカに求めてゐる。故に若しイタリイがバルカンに範圍を擴張してダニューブ河沿岸の平野の小麥を自由に獲得することが出来たならば、この食糧問題は立所に解決されるだらう。これが先づ第一にイタリイのバルカン進出を促す所以である。

次には鑛業である。イタリイは従來農業國といはれてゐた。それは工業的原料に缺けてゐたから止むを得ずその發達を見なかつたのであるが、近年大いにその方に力を注ぎ出した。けれども原料に於ては依然として缺乏してゐる。

先づ原動力となる石炭はイタリイには皆無といつてよい。褐炭及び泥炭の埋藏量は五億噸と推測されてはゐるが、年産額は百萬噸に過ぎず、年々一億七千萬圓ほどをイギリスに仰いでゐる。また、石油は年々三十萬噸以上を消費してゐるが、その産額は二萬噸内外しかなく、供給をアメリカに求めてゐる。たゞ茲に興味あることは、アメリカの地質學者がイタリイの地質を詳細に調査した結果、イタリイはヨーロッパに於ける石油の一大貯藏庫だといつた。この言に力を得て政府は大聲を張上げながら「迷子の迷子の石油やい！」と探し廻つてゐるが、残念ながら未だ見つからない。

鐵もまた皆無に等しい。年々五百萬圓ほどの産出はあるが、尙四千萬圓ほどは獨逸その他から輸入してゐる。

### 心細い貿易面

こんな風だから工業を發達させることそれ自身が今のまゝでは無理である。尤もこのほかに綿紡、絹織、人絹、砂糖、チーズ等の産額はあるが、これ等の輸出も到底輸入を補ふまでの産額を見ない。輸入品の主要なものは、小麥、棉花、石炭、羊毛、革皮、木材、繭絲、鐵、ベシチン、肉類、鑛油、コーヒー、煙草等であつて、年々總額十八九億圓内外あり、輸出の主なるものは生絲、綿製品、干果物、生果物、絹織物、自動車、綿絲、ゴム製品、帽子、毛織物等で、年額十四五億圓内外である。

いま一九三〇年の貿易面を見ると、輸入百七十三億五千萬リラ、輸出百二十一億二千萬リラとなつてをり、五十億リラ、五億五千萬圓ほどの入超である。

### 慢性金缺病

こんな風にイタリイの經濟は昔から赤字々々を重ねて來たから、今更その貧乏を敷くものもなく、いはゞ慢性金缺病となつてしまつたが、かといつてそれを放任しておいては何時まで立つても浮び上る瀬がない。そこでムツソリーニは政權を握ると同時に、大いに財政の緊縮を

計り、一方歳入の増加を企圖した結果、一九三〇年には、全世界の滔々たる赤字に反して、六十萬圓近い黒字を出すやうになつた。即ち大藏省の發表によると、

歳	出	入	差
一〇〇	一七、八六七	七、三三三	一〇、五三四
一〇一	一七、八六七	七、三三三	一〇、五三四
一〇二	一七、八六七	七、三三三	一〇、五三四
一〇三	一七、八六七	七、三三三	一〇、五三四
一〇四	一七、八六七	七、三三三	一〇、五三四
一〇五	一七、八六七	七、三三三	一〇、五三四

の黒字だといふのである。

黒字は非常に結構だが、イタリイは果してこればかりの黒字に安心してゐられるか？ それは、否！といふよりほかない。何故ならイタリイは、九億圓内外の内債を持つ上に、イギリスから六十億圓、アメリカから四十億圓の借金をしてより、これを一九二六年以後六十二年間に支拂はなければならぬからである。

然も一方、失業者は日に日に増加し、今日ではその數七十萬に達してゐるといふから、この救済だけでも一骨折りでである。こんな状態で生めよ殖えよの國策が果して何處まで續けられるか？これが膨脹に膨脹を重ねて行つてパンクしさうになつた時、その時はイタリイが何處かの國に向つて砲口を

開かなくてはならぬ時である。危いかなヨーロッパの天地！

近東を覗ふイタリイ ドイツのマックス・フィシエル博士は、一九二七年七月二十八日のドイ

ツチエ・アルゲマイネ・ツァイツングに一論文を寄せて、かういつてゐる。

「トルコから地中海多島海上のイタリヤの島々（ドデカネーヌ群島）に旅行するものは驚くべき流言蜚語を耳にするだらう。その風評は、コンスタンチノーブル及びアンゴラで、小アジアに對するイタリイの威嚇的攻撃——即ちこの地方に於けるファシストの掠奪的意思、換言すればイタリイの軍國主義の實相を語らんとするのである。」

これは偽らざる感想である。イタリイは今ドデカネーヌを足場として近東、殊にトルコに向つて魔手をのべようとしてゐる。

ドデカネーヌは一九二三年ローザンヌ會議に於てイタリイのものとなつたが、住民は大部分はギリシヤ人であつてその數八萬五千、その他にトルコ人七千、ユダヤ人五千、イタリイ人五千が住んでゐる。イタリイは自國內の人口過剩をこゝで緩和するといつてゐるが、それがどれほどの効果を齎すかは甚だ疑はしい。イタリイの意志が對岸トルコに向いてゐることはまがふべくもない。イタリイはト



ルコに最も接近した一小島カステロリツオに要塞を築き、砲口をトルコに向けてゐる。またロードス島、コス島には歩兵大隊一個と武装した憲兵隊二個とを置いてゐる。熱血詩人ダンヌンチオは一九二七年に一つの詩を作り、

「小アジアは我等が故郷

その處女は今將に東方蠻賊のために穢されんとしてゐる

この時我等はいかにか黙視すべき」

などと歌つて、愛國青年の血を湧かせた。そこでトルコの大統領ケマル。パシヤも黙つてはゐなかつた。その軍隊を二度も動員してイタリーの侵入に備へ、トルコの新聞は、

「吾人は嘗てギリシヤを敵として月桂冠を得た。今日イタリーを敵とするも敢て敗北することなかるべし」

といつて大いに戰鬪熱を煽り立てた。ドデカネーアのイタリー人にしてトルコに上陸するものがある。と嚴重に監視し、或は逮捕した。かうして兩國民の感情は極度に悪化し、今にも干戈を交へるだらうとまで思はれたが、一九二九年兩國間に漸く平和的協定を見て事なきを得た。一體トルコはイタリー

製品の大なる市場である。故にこれを失ふことは差當り苦痛だからである。併し、だからといつてイタリーの野心がこれで消えたわけではない。ドデカネーの問題は、バルカン問題と共にイタリーの痛であり歐洲の痛でもある。

## 赤色ロシアの現状

總てが誤解から ソヴェートロシアはプロレタリアの祖國である。世界唯一のプロレタリアの國である。世界の大部分が資本主義社會であるか、又は資本主義社會を構成しようとしてゐる中にあつて、ロシアだけが社會主義を奉じ、社會組織に、政治組織に、經濟組織に、總て事情を異にしてゐる。その上に彼等は、自己の國の組織を完全ならしむるため、又は自己の主義を普及するため、全世界に向つて所謂「赤化」を試み、萬國のプロレタリアを團結せしめようとしてゐる。

これが總ての人間をして誤解せしめてゐる最大原因である。誤解の一つはプロレタリア側である。その解放運動に従事するもの、又は社會主義に好意を持つ者

は、ソヴェート聯邦のすることなすことを總て好意的に觀る。善意に解釋する。マルクスやレーニンの言葉をまるでバイブルのやうに有難がるし、スターリンのすることは總て間違ひのないやうに考へてゐる。スターリンが國內の實狀に應じて、圓轉滑脱、融通無碍の政策を執ると、ロシアの實狀にはお構ひなしに、それが全世界のプロレタリアの取るべき手段のやうに感違ひしたりする。第三インターナショナル大會が何かを決議すると、それが支那にも、日本にも、アメリカにも、エチオピアにも直ちに適用出来るやうに考へる。惚れた者にはミツチャも笑窪といふ奴である。

### 世界顛覆の大陰謀

ところがこの反對に、坊主憎けりや袈裟まで憎いといふのがロシア革命以後、各國の資本主義者が持った感情である。然り、これは何處までも感情であつて、冷靜な理論は殆んど閑却されてゐた。ロシア革命をユダヤ人の陰謀だの、人道の敵だなどといつて輕卒にロシア階級十字軍を組織したりした。そしてロシアのすることなすこと 悉く世界顛覆の大陰謀だと考へてゐる。暴風雨や飢饉までも赤化の陰謀だといふ。例へばロシアが世界を顛覆したとしても、それは人類の悉くを虐殺するのではなく、たゞ社會の組織がもう少し變り、貧乏人と金持の差別がなくなるだけのことである。だからロシアを怖れる人に訊ねてみたい、諸君は、ではアメリカが全世界を併吞

しようとしてゐるのに御賛成ですか？ 我々がアメリカの被征服者となり、モルガン家の下男となるのを御希望ですか？ と。顛覆といふ言葉は如何にも悪事を働くやうに聞えるに反し、併吞といふ言葉は如何にも英雄的偉業だ、だが英雄的な響きがするからといつて自分が併吞されることを喜ぶとしたら、そいつはマゾヒズムの變態性慾者だらう。

そこでいひたいことは、これ等は双方とも語解の上に立つてゐるといふことである。どうせ人間のことだから、總てが完全無缺といふわけにも行かない。善意に解釋すれば總てがよく見え、惡意を以て見れば總てが惡魔の顔となる。そこでこれを公平に批評しようとする者は、總ての私心を離れ既成觀念を脱して、動物學者が蚕の繭丸を見詰めるやうに冷靜に觀察しなくてはならない。我々は一ツソヴェートロシアに對つて科學者のやうな觀察眼を向けてみよう。

### 資本主義國との相違

冷靜な批判者にもソヴェート聯邦共和國が、往々に間遠へて見られることは、現在のロシア國民が非常な窮乏に苦しんでゐる一事である。旅行者の總ての言を綜合しても、この點に就いても誰でも認めてゐる。ロシアは穢い。物資が少い。物が手に入らない。入れば眼玉の飛出るほど高い。國民は全て乞食同様な格好をして食ふや食はずである。これは摩天樓の大デパート

に商品が山と積まれ、その中を着飾つたレデイが孔雀のやうに誇らかに歩いてゐるのは大變な相違である。併し我々は摩天樓の樓上から望遠鏡を下界に向けて見るがよい。商品が溢れ、御馳走が捨てられる下水溝の側に、着物も着ず、腹をへらかしてうづくまつてゐるルンペン氏のゐるのが眼に入るだらう。三越が東京の總てではない。ましてや日本の總てを代表してゐるわけではない。

商品があり餘るが故に國民が飢餓と寒さに泣くか？ 生産的發展の過程にあるが故に一時の缺乏を忍ぶか？ ロシヤは後者である。

隣人を貧乏ならしめることによつて自らが富み榮え、満ち足りるか？ 總ての困難と缺乏を國民全體が共同で負擔するか？ 後者がロシヤである。

ドイツは戦債の重荷と景氣に壓しひしがれて赤字と失業に苦悶してゐる。併し一部資本家が黄金を抱いてスキスの別荘に脱稅旅行を試みることを妨げはしない。イギリスは金本位を停止するまでに赤字に悩まされ抜いてゐる。併し彼が侵略的軍港をシンガポールに築くことを止めはしない。アメリカは不景氣知らずのドルの國として世界の經濟を支配してゐる。併し一千萬の失業者が窓下で就職のデモを行つても知らぬ顔の半兵衛をきめ込んでゐる。その時に怠け者を強制的勞働させたり、失業者を

救ふために勞働時間を短縮したり、總ての工業部門に五十萬人の熟練工を要求したりしてゐるのがロシヤである。

**プロレタリア獨裁** プロレタリア獨裁といふ言葉は、人は頭から惡事のやうに考へてゐる。それに反してファシスト獨裁となると非常に立派なことのやうに思つてゐる。けれども我々の批判は、誰が獨裁するかといふ點と、どんな目的でなされてゐるかといふことに眼を向けられなければならない。或る一人の人間が個人的利益のために獨裁したのは昔のことである。そしてそれは人間の長い努力によつて排撃された。然るに今日の獨裁がプロレタリアであれファシストであれ社會から許されてゐるのは、その結果が良かれ悪しかれ個人的利益を排して社會的利益のために國家經濟の統制をしようとしてゐる點にある。資本主義の經濟的無政府狀態を排して、眞の需要供給に従ひ、計畫經濟を實行しようとしてゐる點にある。

一國の經濟を云々する時、人は直ぐ國民所得といふことを問題にする。これはその國の一年の所得を人口で割つて一人當り幾何といふ計算をするのである。併しこれにはその内容によつて大きな相違が生ずることを知らねばならない。例へばアメリカ國民が一人一日平均の收入が三圓だつたと假定せ

よ。然るにアメリカには一日三錢にも價しない失業者が一千万もゐる一方には三圓を三百萬倍しなければならぬやうな富豪がブロードウエーに居るのである。ドル買ひで三井が何千萬圓か儲けた日に大藏省の役人は月給を一割減俸されてゐる。これが國家經濟となれば、國民の平均所得が例へ一圓に減じようとも、その一圓は平等に分配さるべき一圓である。近來世界各國に於て「フアツシヨカマルクスカ」の問題が著るしく論じられてゐるのは、この社會獨裁、計畫經濟によつて社會を資本主義の行詰りから救はうとしてゐるのである。

觀察が少し抽象的過ぎた。議論は止めて、ソヴェートロシアの實際に就て觀察してみよう。

### ロシアの本名

ロシアのことをロシアといふのは舊帝政時代からの習慣であり通稱である。

ロシアの本名は「社會主義ソヴェート共和國聯邦」といふのであつて、これを略して書く時は「CCCP」となる。何故こんな長たらしい妙な名前かといふと、通稱ロシアといふ國家は、たつた一つの國から成立してゐるのではなく、社會主義經濟組織を持つソヴェート共和國が幾つか寄り集つてゐるからである。今その寄り集つた共和國の名をあげると、

一、ロシア社會主義聯邦ソヴェート共和國——これは中央ロシアの諸縣、シベリヤ、極東、自治共

和國十一、自治州十二から成るものであつて、聯邦の盟主となり中心をなすものである。

二、ウクライナ社會主義ソヴェート共和國——歐露の南部、黒海に面し、ルーマニヤ、ポーランドと境し、小露とも呼ばれてゐる地方。

三、白ロシア社會主義ソヴェート共和國——ウクライナの西北に位し、ポーランドに面した地方。

四、トランス・コーカシヤ社會主義ソヴェート共和國——南方はトルコに接し、東に裏海、西に黒海を臨む、コーカサス山脈を中心とした地方で、アルメリヤ、ジョルジヤ、アゼルバイジャンの三共和國より成る。

五、トルコマン社會主義ソヴェート共和國——中央アジアの南部、ペルシヤ、アフガニスタン等と境する一帯の地方。

六、ウズベツク社會主義ソヴェート共和國——トルコマンの東方地方一帯。

以上六つの共和國から成り立ち、面積二一、三五一、五七二方キロ、人口一億四千七百萬人である。これでも舊帝政時代よりは大分面積も狭くなつてゐる。といふのは、フィンランド、ポーランド、エストニア、リスマニア、ラトビヤ等が獨立し、ベツサラビヤをルーマニヤに奪られたからである。

## ロシアの政治組織

ロシアの政治組織は他の國と全く趣きを異にしてゐる。それは先づ立法機關としてソヴェート聯邦大會といふものがあり、その休會中に代るべきものとして中央執行委員會があり、行政機關としては聯邦人民委員會がある。

六つの共和國は各自が獨立の政務をとつてゐるが、重要な政治は聯邦の中央機關によつて統一することになつてゐる。その最高機關となるのがソヴェート聯邦大會である。これは選舉民二萬五千人毎に一名の割合で都市ソヴェートから選出された議員と、住民十二萬五千人ごとに一名の割合で選出された州ソヴェート大會の議員によつて構成され、選舉權及び被選舉權とも十八歳以上の勞働者農民が保有してゐる。これは他の國の國會のやうなもので、緊急議案のない限り、一年おきに開かれる。

中央執行委員會はソヴェート聯邦大會の休會中、その權力を委任されるもので、聯邦會議と民族會議の二つに分れてゐる。聯邦會議は、聯邦大會から各共和國の人口に比例して選出されたものから成り、民族會議は、各共和國及び自治共和國から五人づゝ各自治州から一人づゝ選出された議員から構成されてゐる。この中央執行委員は年三回召集されるが、その休會中には、更に兩會議から各九人、兩會議の協議會から各九人、合計二十七人によつて常任理事會が組織される。中央執行委員會の議長

はカリーニンで、ソヴェート聯邦大會の議長をも兼ねて居る。これは丁度他の共和國の大統領に相當するものである。この中央執行委員會は、その執行機關として人民委員會を任命する。

聯邦人民委員會といふのは政府であり、中央執行委員會によつて任命された内閣である。目下の議長（首相）はモロトフである。

## 所謂共産黨とは？

かう説いて來ると我々に一つの疑問が残る。といふのは、カリーニンが大統領格であり、モロトフが總理大臣格だとすると、ロシアの帝王といはれて居るスターリンは一體になのだといふことである。もつともな疑問である。ではいはう。

スターリンは共産黨の幹事長である。なアーンだ、といつてはいけない。共産黨には黨首がなく、總裁がない。だから總裁の椅子を巡つて血で血を洗ふお家騒動はない——といふのは與太だが、この書記長が事實上の黨首であり、總裁である。そしてロシアにはいろ／＼な政黨がなく、共産黨といふ單一の政黨しかない。故に共産黨は政府の與黨といふわけではあるが、野黨がないのだから與黨もなわけである。然もこの共産黨は、我が國の政府と與黨のやうに、結局政府に引きづられて賛成々々といつてゐる與太ではなく、寧ろ反對に政府を指導してゐるものである。

すると次に新しい疑問が起るだらう。それほど勢力ある共産黨の大將が、何故大統領か總理大臣にならないのか？と。さういふ人はかう考へればよい。共産黨の幹事長はそれ以上に偉い人なのだ。大統領や總理大臣の上に位する帝王なのだ、と。あの有名なレーニン、ロシアを脊負つて立つたレーニンはやはり大統領ではなく一政黨の幹事長だつた。ところがレーニンが大統領以上に偉かつた證據には、彼は今プロレタリアの神様になつてゐる。たゞスターリンもレーニン同様に神様になれるかどうかは疑問だが……

ロシア共産黨は年一回黨大會が開く。大會の休會中は中央委員が黨務を司り、その中には常設の最高幹部會として政治局（ポルトビユーロー）と組織局（オルグビユーロー）と、當面の問題を處理する秘書部とがある。この他に黨大會はソヴェート機關の改善監督を行ふ中央統制委員會をも選舉する。

共産黨といふと、世界の各國にその支部を持つてゐるやうに思ふが、さうではない。世界各國にある共産黨は、その國その國で獨立したものであり、第三インターナショナル（事務所はロシアのモスクワにある）によつて統轄されてゐるもので、ロシア共産黨もまたその中の一構成分子である。だか

らイギリスやフランスやドイツの共産黨は、決してロシア共産黨イギリス支部、フランス支部といふわけではない。併し第三インターナショナルの書記長はスターリンであり、これを牛耳るものはロシア共産黨だから、事實に於ては支部みたいなものである。

**ロシア大革命**　ロシアの革命を説く人は、主觀的或は客觀的に、いろ／＼にいふ。一九〇五年日露戰爭當時にトロツキー等がベトログラードで騒いだのを以て第一次革命といふ人もあるが、そんなのはどうでもいゝとして、今のプロレタリア獨裁の國家が出来上つたまでの直接動因たる革命をいへば、一九一七年三月十二日の社會革命黨及び勞兵會の反亂革命に初まる。

世界大戰に疲れたロシア國內には、前々からの不平分子によつて充分用意されてゐた。その不平が愈々高まつた時、ケレンスキー一派の勞兵會は突如立つて政府の大官及び〇〇を捕へて革命を成就した。それは殆んど流血を見ないで易々として行はれた。

臨時革命政府の首班には德望家のルウオフがなり、社會革命黨のケレンスキーはその陸軍大臣となつた。ところがその後施政に不徹底なところがあつた。左右兩派の争ひ激烈となり、ケレンスキーが首相となつた時には最早拾收すべからざるものとなつたので、レーニン、トロツキー一派の民主黨ボル

シエビイキ派の乗するところとなり、同年十一月七日、これまた殆んど血を見ずして所謂ボルシエビイキ革命が成就したのである。

レーニンはボルシエビイキ派の指導者として、所謂過激な手段を以て政治に當つた。大戦の單獨媾和、土地財産の強制没収等、そして「總ての政權をソヴェートへ」のスローガンでもつて遮二無二共產主義社會の建設を強行した。この間には國內の反對はいふに及ばず、諸外國は無頼漢のやうにいつてロシアを憎み、通商を拒んだり、帝政派を助けたりしたので、舊ロシア全體を統一することは非常な困難だつた。然もそれを一層困難ならしめたのは、戦後の疲弊によつて總ての物資が缺乏し、あまつさへ、シベリヤに古今未曾有の大飢饉が襲來したことである。これは實に内憂外患どころの騒ぎではなかつた。ロシアが今にも破滅しさうに考へたのは、決して惡意ある觀察からばかりではなかつたのである。

ところがロシアの國民はよくこの試練に耐えた。レーニンはその間を巧みに處理して來た。ロシアの危期を救つたのは決してマルクスの理論でもなく、コチ／＼の共產主義でもなく、圓轉滑脱、臨機應變、よく時勢を見、現實に即して一步前進二歩退却し、或は一步退却二歩前進して來たレーニンの

政治的技術にあつたといはなくてはならない。

### 一步退却二歩前進

この適應性を遺憾なく發揮したものは新經濟政策の實施である。

新經濟政策といふのは、共產主義の退却であり、資本主義との妥協である。今まで私有財産を認めず、總ての生産機關を國家の手に收めてゐたが、物資の缺乏、農村の貧窮、農民の怠惰等のために、到底それを続けることが出来なくなつたので、小工場を一般國民の手に返し、農民からは徵收制度を廢して課税制度を取ることにし、殘餘の收穫物は市場で賣買を許すことにし、かうして或る程度までの私有財産を認め、市場での自由競争を許した。これが所謂新經濟政策であつて、この新法律を發布したのは、革命後五年、一九二一年三月だつた。それを見た各國の批評家は、共產主義の後退だといひ、結局資本主義に屈服するものと評した。ボルシエビイキ黨内にもこの言をなすものがあつた。そこでその年の秋、レーニンは、一つの辯明を試みた。

「農民はこの徵收制度により、充分に必要な食糧品を政府に給し得、之れによつて政府は軍隊及び工場その他に充分なる食糧を供給することが出来る」と政府側は信じてゐた。然るに該徵收法の下に於いて右の豫期は遺憾なく齟齬をきたし、國內の生産力は自然減退した。これ共產主義の一敗北と見做

さるを得ない。茲に於て政府は新經濟政策を執るべき必要を生じた。即ち徵收に代るに課税を以てする事とした。これは資本主義に對する後退である。併しながら、我が國情を見ると、急速に主義を充分に實現することは至難である。今日の場合漸進的に行ふよりほかはない。」

レーニンは流石に卒直に共產主義の敗北を認めてゐる。けれどもそれは全くの敗北ではなく、前進に備へるために一時的後退であることは事實である。これによつて先づ國內の生産状態を大戰前に追いつかせ、尙それを追ひ越さうとした。然してその目的は數年の後に達せられた。今その成績を見てみよう。(單位千ルーブル)

年 度	農産物生産高	工業生産高
一九一三年	一二、三八〇、〇〇〇	六、三九一、〇〇〇
一九二七年	一七、七七五、〇〇〇	六、六五二、〇〇〇

これによつて見てもレーニンが一步退却二歩前進しようとしたことが明かに成功したといふことが出来る。

けれども、ロシアは單に大戰前に引戻すだけで満足することは出来ない。何故ならロシアは農業國

として工業的には非常に遅れてゐたし、又、農業にしても、戦前状態では充分とはいへないからである。そこで更に前進に前進を続け、然も社會主義的經濟組織への躍進實現を期さうとした。それが有名な五ヶ年計畫である。

**五ヶ年計畫** 日本でも山本条太郎氏の立案で政友會が經濟五ヶ年計畫といふものを樹て、それを實施するのせぬのといつてゐる。併しロシアの五ヶ年計畫は、單に經濟方面ばかりではない。教育事業、社會事業、文化事業にまでその計畫を樹て、着々として實績をあげつゝある。彼等は總ての事業に就いて、歐米先進諸國に追付き、尙それを追ひこさうとしてゐるのである。

この計畫は、先づ一九二二年十二月の聯邦大會で討議され、その後長い詳細な研究と、五回の討議を経て一九二七年四月に決定され、直ちに實行に着手することになつた。計畫案の含む内容は單に經濟方面ばかりでなく、實に廣汎なものであるが、今産業方面の大體の輪廓を擧げてみると、電力は二百二十億キロワットに、石炭採掘量は年七千五百萬噸に、石油は年二千萬噸、鉄鐵は一千萬噸、諸機械の製作高は二十億ルーブル、農業機械は六億ルーブル、トラクターは五億三千臺に増加し、農民の八割を消費組合に加入させようとするものである。また教育方面では、一九二九年度から八歳より十



一歳までの子供に義務教育を授け、成年者には新聞、教科書、通俗工芸書及び活動寫眞等で教育し、キネマホールを八千から五萬に増設し、教員を倍加して四千萬人とし、労働者の賃金を増して毎月九十圓位に引上げて勉學の餘裕をつけさせ、ラヂオを都會五割、地方三割の家庭に設置させようとし、その費用として二十五億ルーブルを計上した。また住宅、公衆食堂、託兒所、クラブ、病院、學校、浴場、實業學校の建設等にも力を入れ、かくて得た國民の收入を五割だけ徴收して財政の窮乏を救済しようとしてゐる。これを今、工業部門に限り、歐米列強の現状と比較してみよう。

	一九三〇年実績		一九三二年統計數字		最終年豫定		アメリカ		イギリス		ドイツ	
	年	実績	年	統計數字	年	豫定	年	実績	年	実績	年	実績
發電力(百萬キロワット)	八八、〇〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇	三、七〇〇	九七、二六〇	一四、九六〇	三三、三三〇	一四、九六〇	三三、三三〇	一四、九六〇
石炭(百萬トン)	四六・九	八三・六	七五・二	五四・一	二六・〇	一六・三	—	—	—	—	—	—
石油(九億五千五百萬バレル)	一七・一	二五・〇	二二・七	一〇・〇	〇・七	—	—	—	—	—	—	—
鉄(同)	五・〇	八・〇	一〇・〇	三・〇	六・三	九・七	—	—	—	—	—	—
銅(同)	五・六	八・八	一〇・四	四・八	七・七	二・五	—	—	—	—	—	—
棉花消費(千トン)	三四・二	四〇・〇	六〇・〇	一、五七・三	六五・九	二六・二	—	—	—	—	—	—

この表の中で、英、米、獨の數字は一九二九年のものだが、その後世界は一般に不景氣となり、操短に操短を重ねてゐるから、當分これ以上には出ないだらう。これによつて見てもロシアが如何にこの五ヶ年計畫に力を入れてゐるか判るだらう。

五ヶ年を四ヶ年で 併し幾ら力を入れて力んでみても、實際の成績が擧がらなければ何の役にも立たない。巷間この計畫は失敗に終つたと傳へるものもあるが、事實の數字はその結果を明かに物語るだらう。今それを實行開始以來一九三〇年までの二ヶ年間の成績を見てみよう。

經濟部門	單位	豫定	実績	成績率	
					一、社會經濟部門への投資
内 計畫工業	同	三、九九〇	四、六〇五	一一五・四	
	農業	同	一、七一九	一一、三九七	一三九・四
	運輸	同	二、五〇四	二、六八八	一〇七・三
二、計畫工業總生産額	同	二九、三三七	三〇、四五六	一一〇・三	
三、總製作面積	百萬ヘクター	二二、三九〇	二二、四五八	一〇二・八	

内

穀物	同	一、九六二	一、九八四	一〇〇・九
棉花	同	二〇	二六	一三〇・〇
甜菜	同	一七	一八	一〇五・九

四、穀物商品化部分	百萬セントネル	二二一・二	二六七・三	一二〇・八
五、鐵道運輸貨物	百萬噸	三五〇・九	四〇九・二	一六六・六
六、旅客運送	百萬旅客キロ	五一・五	七七・一	一四九・七

目下はこの計畫實行の第四年目にあり、第三年目には最初ほどの成績は擧がらなかつたが、豫定以上に進んだものが多く、ためにロシアは、「五ヶ年のところを四ヶ年で」のスローガンを掲げて大馬力をかけ、尙新たに新五ヶ年計畫を完成して斷然世界經濟界をリードしようとする目論である。

**突撃労働部隊** 一九三一年六月、産業家大會に於て赤色帝王スターリンは一場の演説を試みた。今それを要約してみると、

一、世界各國が労働の過剰に苦しみ、無数の失業者を街頭に送り出してゐる今日、ソヴェート聯邦は労働の不足に苦しみつゝある。宜しく労働力の供給を組織化し、労働を機械化して、産業の労働

力を保障しなければならぬ。

二、従来労働者の待遇不備なりしたため労働者の移動甚だしく、従つて熟練工を養成することが出来なかつた。故に労働制度を改正し、労働者の定期的就業を計らねばならぬ。

三、労働の能率を擧げるため、労働組織を更新し、労働各班の責任を確定しなければならぬ。

四、労働者の智能と技術を高めるため、高等教育機關を労働者に解放しなければならぬ。ロシアに於て各班の技術者は最も缺乏を告げてゐる。

五、獨立經營主義を徹底せしめて産業の發達を促進せしめなければならぬ。

スターリンのこの教示は直ちに實行に移された。そして突撃労働部隊を組織して生産増加を計り、「社會主義抗爭」と名付けて工場と工場、職場と職場を競争せしめたりしてゐる。

イギリスの文豪で皮肉屋のバーナード・ショーはロシアでは、

「生産の能率を上げることは稱賛的となつてゐるが、イギリスでそんなに能率を上げたら、直ぐ工場を追ひ出されてしまふだらう」

といつたが、寔にこれは簡單に聞き流すべき言葉ではない。この勢ひを以て五ヶ年計畫が成功して行

つたならば、資本主義各國は一大脅威を感じなくてはならぬ。だからこそ各國ではこれを真似て「産業五ヶ年計畫」などといふものを立案したりしてゐる。けれども個人主義經濟にある各國が果してそれを實施出来るかどうかは甚だしく疑問といはなくてはならない。そこにまたファシズムの進出が考へられるのである。

**ロシアの外交** このやうにして革命ロシアは今日では世界各國とも等閑視することの出来な存在となつて來た。革命當時には共產主義そのものために國交を絶つたまま、革命ロシアの創立を承認するものは少なかつたが、今日では、大國中では北米合衆國を除くほか、悉く承認を與へ、大公使を交換して國交を續けてゐる。

イギリスは一九二四年マクドナルドの第一次労働黨内閣の出來た時初めて承認したが、保守黨内閣となるに及んで再び斷交し、一時北太平洋に險惡な空氣が漂つたが、一九三〇年第二次マクドナルド内閣が成立すると共に通商の暫定協定を締結し、今日に及んでゐる。けれども、ロシアを嫌ふ保守黨の傳統が、この親善關係を何處まで續けて行くかは甚だ疑問である。

アメリカはまだロシアを承認してゐない。だから大使も領事も交換してゐないが、最近アメリカの

議會及び朝野共にロシアを承認すべしとの聲が高まつて來た。それを主張する者は、米露の經濟關係は、國家承認の如何に向らず年々密接となりつゝある。故に事實上承認したも同様だから、形式的にも承認を與へ、尙一層ロシアへの經濟的發展を期せよ、といふのであるが、これに反對するものは、承認を與へなくても經濟關係には何等支障なく取運ばれてゐるから、敢て政治的の承認を與へる必要はない、もしそれをして赤化に利用されたら、この自由の樂土を何とするか、といふのである。併しロシア承認は必ず早晩行はれることだらう。それほど兩國の間は密接になり、ロシアは頻りにアメリカに秋波を送りつゝある。

では一つ我々も、秋波ならぬ觀察の眼差をアメリカに送つて見よう。

## 弗の國北米合衆國

**二重組織の國家** アメリカ合衆國は、面積七百八十三萬九千三百五十三方キロ、人口一億二千二百七十七萬五千人、これにフィリッピン、ハワイ、アラスカ等の屬領を加へると、總面積九百六十

八萬一千方キロ、人口一億三千四百八十萬人を擁する大國家である。

米本國の國家組織は世界に比類ない特殊なものであつて、四十八の獨立州が相寄つて一つの合衆國といふものを構成し、人民は、合衆國人であると同時に、居住するその州の人民でもある。といふのは、合衆國と州との二つの法律によつて二重に縛られてゐるわけで、一人の人間に二つの權力が働きかけてゐる。かういふと二重國籍者のやうに聞えるが、勿論その間を圓滑ならしめるやう、國家と州との間には適當な分擔と取りきめがある。その取り定めがどんなものかといふことを説明すると非常にやゝこしいが、大體に於て國家は、國防、外交、州と州との關係、貨幣、度量衡、歸化移民、關稅等のやうな各州共通の利害に關することを統轄し、州は、地方的な治安、宗教、教育、人事、産業、交通、衛生、風紀、救民等、人民の日常生活に直接關係ある人事を司つてゐる。故に人民は州の權限内のことは州民として服従し、合衆國の權限内のことは合衆國民として服従しなければならぬ。若しその時、州と合衆國との關係に疑義を生じた場合には、合衆國裁判所でこれに判定を下すことになつてゐる。

### 離婚都市の珍風景

州と州の法律が如何に違ふかといふことの例としては、カリフォルニヤの

移民問題で、日本人なら誰も知つてゐるだらう。カリフォルニヤで日本人に閉出しを喰はせても、他の州では一向かまはなかつた。勿論今日では一般的に移民法が制定されてしまつたが、當時、加州で日本人を排斥したからといつて合衆國へ抗議を申込んだが一向に取合つてくれなかつたものである。これは勿論米國政府の冷淡にもよるが、米國の組織がさういふ風になつてゐるのである。

ネヴァダ州のレノ市といふ所は、離婚都市として有名である。映畫の都市ロスアンゼルスから餘り遠くないといふので、映畫内でのラブシーンを現實に發展させたが、さて亭主野郎といふものは兎角妻君の浮氣に干渉したがるし、また亭主にとつては妻君といふものは壘と共に新しいに限るし、だからまたもや悲劇の映畫を現實に延長して離婚したいと思つても、クリスチャンの悲しさには、神様の前でアーメンといつて甘い所を誓つた手前、さう簡単に別れてしまふことが出来ない。離婚訴訟を提起しても、なか／＼解決しない。そこで彼氏と彼女は何とかして簡単に離婚出来る方法はないかと考へつた揚句、自家用のフォードでも騙つてネヴァダ州のレノ市まで出かけると、實にわけもなく離婚出来るのである。といふのは、この街に六週間以上滞在する者はその都市の市民となることが出来る、その市民は金若干弗と共に離婚届けを市廳に納めさへすれば、即時離婚が許可されるのである。尤も

此處に六週間滞在してゐる間にヨリが戻つて、そのまゝ仲よくフオードに相乗りして歸るものもあるが、併しかういふ目的で全米から集ひ寄る者が非常に多く、それ等が離婚手数料や宿泊料その他でこの町に落して行く金は實に莫大な額に達し、それでもつてこの都市の財政も立ち、實に豊かだといふことである。これを見たメキシコのチワク州でも、これを真似て近年離婚許可業を開業し、レノに輪をかけて簡単さで離婚できることにした。即ち、離婚届けに金百圓也を添へて郵便で送つてやれば、それで總てがOK、明日からは再婚まで出来るといふスピード時代である。

これなども、如何に州と州とが獨立した政治を行つてゐるかの好適例である。

### 三權分立の政治組織

次にアメリカの特色とするところは、政治組織に於て、立法、行政、司法の三權が確然と分立してゐることである。立法は議會がやる、行政は大統領がやる、司法は大審院が司る。そしてこれ等は決してお互ひに犯されることがない。

立憲政治の國では何處でも三權を分立せしめようとする傾向はある。例へば日本でも、議會と政府と裁判所とがあり、裁判所は決して政府にも動かされないことになつてをり、政府は行政機關であつて、直接立法を行ふわけではなく、議會の協賛を経なければならぬことになつてゐる。けれども内

閣は大抵の場合大政黨の總裁が組織することになつてをり、國務大臣自身も議會に議席を有してゐてその裁決に加はるのだから、立法と行政は二にして一、一にして二といふ不分の關係にある。故に若し政府案が議會で敗れた場合には内閣は互解するか議會を解散して、所謂「民意に問ふ」といふことをしなければならぬのである。

ところがアメリカでは、大統領初め行政長官は何等かの政黨員ではあるが、大統領はじめ國務大臣も、州知事も、その他の行政長官も、國會議員又は州會議員となることは出来ないし、また議會に出席したり、反對黨の議員と談合することは出来ないことになつてゐる。故に若し議會と政府とが何かで意見が合はないことがあつても、政府は議會を解散させることも出来ず、議會もまた政府を辭職させることが出来ない。大統領は四年間、議員は二年間の任期は必ず勤めなければならぬ。

これは政府の政策を保護すると共に、立法の神聖をも保護する利益はあるが、又それに伴ふ弊害もないことはない。

### 内閣の組織

行政は、かうして大統領の總管掌するものであり、内閣員は大統領が任命するものである。他の國では大統領と内閣とは別であつて、内閣が倒れても大統領は残り、大統

領がやめても内閣はそのまゝであるが、アメリカでは、内閣は大統領と共に四年の任期を全うすることになつてゐる。

内閣には國務、大藏、陸軍、海軍、検事、郵政、内務、農務、商務、労働の十長官があり、國務長官は内閣の首班であると共に外務を執掌してゐる。

現在の大統領は共和黨に推されたフーバーであり、國務長官はスチムソンである。大統領の下に副大統領があるが、これは今チャーチル・カーチスが就任してゐる。

#### 議會の組織と権限

議會は代議院と元老院との二院がある。

代議院（下院）は、人口二十一萬一千八百七十七人に一人の割合で議員が選舉され、年齢二十歳以上の男女は選舉權を有し、年齢二十五歳以上で、七年間合衆國の公民たり、選舉の時その州の住民である者は被選舉權を有してゐる。目下の議員數は四百三十五人で任期は二年である。

元老院（上院）議員の選舉資格は代議院の場合と全く同一であるが、人口に比例して選舉せず、各州から二名づゝ選出し、任期は六年であるが、二年目ごとにその三分の一づゝ改選することになつてゐる。被選舉權は年齢三十歳以上で九年間合衆國の公民たり、選舉當時その州に住んでゐたものに賦

與される。

下院は豫算案を編成してこれを決議する權利を有するが、上院はこれを修正し議決することが出来る。また上院は官吏の任免と對外條約批准決議權とを持つてをり、嘗てウイルソン大統領が國際聯盟を成立させながらアメリカがそれに加入しないのは、上院で否決し、これに批准を與へなかつたからである。これ等の議決は上下兩院とも總て議員數三分の二以上の賛成を得なければならぬ。

議會と政府とは仕事は當然と分擔されてはゐるが、政府は議會を通過した法律案に絕對服従しなればならぬわけではなく、法律案は大統領が署名することによつて効力を生じる。若し不服の時は一度は大統領が異議書を添へてこれを議會に還附する。還附を受けた議會は、改めて審議をしなければ、こゝで決議されたものは、初めて確定した法律となるのである。

#### レツテルと中味の關係

米國の政治を論ずる者はその政黨を無視することは出来ない。

米國には共和、民主の二大政黨がある。他に政黨がないことはないが、殆んど取るに足りない。この二つの政黨は二つともアメリカ建國當時から存在するもので、國事に對して事に意見を異にし大いに争つて來たものである。イギリスあたりの保守黨と労働黨ほどハッキリと主義が違ふわけでは

ないが、その傾向を強いて誇張していへば、共和黨は保守的であり、民主黨は進歩的である。例へば共和黨は中央集權主義であり、南北戦争當時は奴隸解放を唱へ、禁酒主義者が多く、關稅を高めて國產保護をし、フイリツピンの獨立には反對の立場にゐるのに反し、民主黨は州權主義であり、奴隸開放に反對し、非禁酒主義が多く、關稅低下、フイリツピン獨立承認派が多い。これを要約すると、共和黨は資本家擁護の立場にあり、民主黨は中産階級以下を背景としてゐる。けれどもこの分類は實に大雜巴なものであつて、かうした大きな政黨の中には自ら多くの黨中黨があり、必ずしも割然と分れてゐるわけではない。だから或る皮肉屋は「共和黨も民主黨もたゞ上に貼つてあるレッテルが違ふだけだ。中味は兩方とも空だ」といつたが、まづそんなものかも知れない。

併し一九三二年三月フーパーが共和黨から推されて大統領になつた時には、民主黨のスマスを相手にして繁榮第一主義で戦つたものである。當時世界は漸く不景氣になりかけてゐた。米國の産業もこの年を頂上として急速に低下し出した。そこでこの繁榮第一主義のフーパーは、この不景氣を必ず救ふだらうといふので、遂に勝利を贏えた。丁度緊縮政策の民政黨の後に政友會が立つて、三百三名といふ前代未聞の大勝利を博したやうなものである。ところがフーパーが白聖館の主人公となつても一

向景氣はよくならず、反對にどん／＼悪くなつて行き、近頃では銀行は毎月二百二十づ、休行する、失業者は一千萬人にもなるで、今やアメリカも破産しはせぬかとさへいはれるやうになつた。そのためでもあらう、近頃では民主黨の方が人氣があるやうである。今年六月行はれる大統領選挙には、共和黨からはフーパーが再出馬し、民主黨からはニューヨーク州知事フランクリン・ルーズヴェルトが立候補したが、ルーズヴェルトはニューヨーク州知事選挙の時は壓倒的票數を以て再選された位だから、この二人の一騎打ちは多大の興味を以て見られてゐる。

**人種オン・バレード** アメリカは人種の展覽會場みたいなものである。國が大きいから、といふだけではなく、歐洲諸國からの移民によつて開發された國だから、何人種といつて土着の者はなく、思ひ／＼の人種が思ひ／＼の着物を着て勝手にやつて來たので、人種的には實に紛然雜然としてゐる。尤も土着の人間がなかつたわけではなく、アメリカインディアンがゐるにはゐたが、もと／＼それは極く少數である。

そこで左に、一九二七年七月一日に米國の國勢調査局が行つた人口調査の報告を見てみよう。

白人 約一〇七、〇〇〇、〇〇〇

黒人	約一、一〇〇、〇〇〇
その他の有色人	約五〇〇、〇〇〇
合計	一一八、六〇〇、〇〇〇

但し黒人といふのは十八世紀末葉、アメリカがスペインの植民地であつた時代に、アメリカ開發のためアフリカの黒人を約四百萬人移住させ、これを奴隷として使つたものゝ子孫が、このやうな數になつたものであり、有色人の中にはアメリカインディアン、支那人、日本人、フィリッピン人等がある。最も多い白人は、一概にいふことの出來ないほど多くの民族を含んである。先づイギリス人が六割、ドイツ人が一割二分、イタリー人、スカンジナビア人、ロシア人が五分、その他に、フランス人、オランダ人、ベルギー人、オーストリア人、ハンガリー人、ギリシヤ人、メキシコ人等が居り、まるで人種オン・パレードである。

かういふ風だから、宗教も實に種々雑多なものがあり、それを宗派別にすると二百十三になるさうである。最も普及してゐるのはキリスト新教で、その中バプテスタ派が八百五十萬、メソヂスト派の八百萬、ルーテル派は四百萬、プレスビテリアン派が二百六十萬、舊教のローマカソリック派は一千

八百六十萬、ユダヤ教は四百十萬ほどある。

**矛盾だらけのヤンキー氣質** このやうに人種が入り亂れ、宗教が混亂してゐるが、アメリカ人にはアメリカ人獨特のヤンキー氣質といふものがある。それは入り亂れた各種民族の血が縦横無盡に入り亂れて作りあげられたものだから、本國の民族とは、まるで違つたものが出來上つてしまひ、今では民族的にも、一見してヤンキーと判斷出來るくらゐになつた。

アメリカ人の半分ほどはイギリス人である。けれどもイギリス人の保守的なところは殆んど残つてゐない。尤も東海岸のマサツセツ州などにはイギリスの田舎に見るやうな頑固な保守主義が見受けられるが、概して非常に明るく朗かで、自由奔放である。これはその昔、イギリスのあぶれ者、喰ひつめ者がみんなアメリカ指して落ち延びたので、祖先のあぶれ者や喰ひ詰め者氣質が遺傳したのだからといふ人もある。その論の當否は別として、ヤンキー氣質の中には實に一條繩で行かぬものがある。まるで二重人格者かとさへ思へるやうな反對の氣持を持ち、性格に甚しい表裏があり、矛盾撞着に徹底してゐる。

**無禮なる拜金者**

彼等は何かといへば自分等を自由の守護神のやうにいふ。自由平等はアメリ



カ建國の精神であり、憲法にもさう書いてはあゝる。だからアメリカには皇族も華族もなく、四民平等の平民ばかりである。その代りに、金のない者は極端に輕蔑され、日本人や支那人等の有色人種にも極端な偏見を持ち、宗教上の偏見に至つては殊に甚しい。

また彼等は非常に快活であり、淡泊であり、無邪氣であつて子供のやうにキヤツキヤと騒ぎ、然も正直であるかのやうだが、その一方、巧言令色、以て心にもないお世辭をいひ、嘘をつき、法螺を吹く。彼等は世界到る處でアメリカ人たる特權でもあるかのやうに無作法を振る舞ひ、無邪氣を装つて、無禮極まることをやつてのけるが、だからといつて他人が彼に無作法な眞似をすると直ぐ怒つてしまふ。

彼等は金儲けには眼がない。金のない者を馬鹿にすることは極端なもので、だから彼等は金儲けに浮き身をやつす。だからといつて彼等はケチン坊ではなく、儲けた金をコツ／＼蓄へておくやうなことはせず、手際よくパツパと使ふ。なか／＼金離れがよい。但しそれは決して打算なしの無駄な使ひ方はせず、チャーインと打算した上で思ひ切つたことをする。社會事業その他に寄附することはアメリカ人の最も好むところで、統計的にも世界一だらうが、これなどは正に名譽と自己宣傳を兼ねた打算

上の使ひ方である。

彼等は粗野であり、物質萬能主義である。ところがその一方では藝術的な理解にも優れ、音楽は殊にアメリカが盛んなばかりでなく、鑑賞眼にも優れてゐる。

彼等は非常に理性的な一面、多分に感情的であり、唯物的な思想を持つてゐるに迷信を最も強く信じる。また、非常に平和を愛する癖に鬭争を好むところがある。

又、とてもお節介の出しやばりの癖に、他にお節介されることを好まず、獨善主義を持つてゐる。これを要するに、下素で、おつちよこちよいで、我がまゝな、俄成金の次男坊だと思へば間違ひない。平民の子は何處までも平民の子である。

**手前勝手なモンロー主義** この矛盾した性格は國家の政策の上にも遺憾なく反影してゐる。

先づ彼等の唱へる「モンロー主義」といふものを見るがよい。モンロー主義とは、一八二三年、スペインが神聖同盟の餘威を以て南米に出兵しようとした時、時の米大統領モンローが、アメリカ大陸のことはアメリカに任せておいてくれ、その代りにヨーロッパの事には、何をおやりにならうとも一切干渉しませんから、といふ教書を出した。それからして米大陸の獨占主義、政治的孤立主義を以て

モンロー主義と呼ぶやうになつた。この主義はその後アメリカの傳統的國策となり、都合の悪い時はいつでもそれを持ち出して身を守らうとする。

然らば彼は、自分が他人に干渉されたくないから、自分も他人に干渉しないかといふに決してさうではない。歐洲に大戰が起ると結局手を出す。そして民族自決だの國際聯盟だのといふ餘計なものを先頭になつて唱へ出し、歐洲新國家の設立にまで嘴を出す。近くは日支事變が起ると直ぐ、眞ッ先になつて日本へ抗議をしたり、聯盟の黒幕となつてこれを操つたりする。これ等は決して彼等の國是たるモンロー主義の教書には書いてない筋書である。

**都合のよい門戸開放主義** その次には門戸開放主義といふのがある。これもヤンキーがお題目のやうに唱へる奴である。門戸開放主義、機會均等主義——これもその初めには勿論自國のために唱へた題目ではあるが、それを後では他人にまで押し賣りし出した。アメリカがまだ開發されず、幌馬車(かぶまわ)が砂漠の中を横切つて行つた時代には、誰でもアメリカへ行けたし、又、誰にでも來て貰はなければならなかつた。アメリカの門戸を開放し、民族や人種の差別なく、誰にでも機會を均等に與へるといつた。必要からとはいへ、これは悪いことではない。それを後になつて他國にまで逆用し出したの

である。

アメリカはもう充分に發達した。國力も充實した。さて先進國に眞似て自分等の殖民地なり製品市場(ば)なりを海外に求めようとした頃には、もう目星(めいせい)の所には各國の繩張り(な)が定つてゐて、容易に割込めなかつた。そこへ割込むためには何かよい口實(こうじつ)がなくてはならなかつた。何かないかなと考へた揚句(あげく)に思ひ出したのが門戸開放機會均等主義である。諸君の繩張りを開放しろ、俺等にも機會を均等に分け與へよ、といひ出した。この手でもつて支那へ乗り込み、滿洲へ手を出し、オーストラリア、インド、アフリカ等へも出かけて行つた。そして隨所で成功し、それに氣をよくして益々魔手を擴げて來た。それもよい。では一つ君の國も門戸を開放してくれないか、といつて見るがよい。一九二四年以後は移民法といふものが制定され、外國人は在米者の二パーセントしか移民出來ず、我が國人の如きは二パーセントどころか一ヶ年間に百人しか移民出來ないことになつてゐる。これがヤンキー共のいふ門戸開放主義であり機會均等主義である。

**鐵の山から谷底見れば** こんな我儘勝手な主義がどうして幅を利かすのか? いふまでもなく地獄の道も金次第で、金に物をいはせて自分の思ふやうに振舞つてゐるのである。アメリカにはどう

してこんなに金が出来たか？

アメリカは物資に恵まれてゐる。「鐵の山から、石灰の谷を通して、石炭の山を望む」といはれてゐる位で、近代工業に必要な物資を豊富に持つてゐる。今その主要な礦産物だけを擧げてみよう。

礦物	産額	金額(弗)
鐵	一四、五四九、一六一重噸	七三一、八五八、〇七五
銀	六一、三二七、八六八オンス	三二、六八七、七五四
金	二、二〇八、三八五オンス	四五、六五一、四〇〇
銅	二、〇〇二、八六三、一三五封度	三五二、五〇四、〇〇〇
精鍊鉛	六七二、四九八輕噸	八四、七三五、〇〇〇
亞鉛	六一一、二〇九輕噸	八〇、六八〇、〇〇〇
アルミウム	二二五、〇〇〇、〇〇〇封度	五一、八六四、〇〇〇
有煙炭	五三二、三五二、〇〇〇重噸	九九〇、一七五、〇〇〇
無煙炭	六八、四二九、〇〇〇重噸	三九三、五〇〇、〇〇〇

石炭	油
五九、八八三、八四五輕噸	一、〇〇七、三二三、〇〇〇バレル
二七八、九九四、五九二	二八〇、四一七、〇〇〇

数字だけ見てゐたのでは、どの位多いかは判るまいが、試みに石炭の多いイギリスと比較するがよい。それは二五七、九〇六、八〇二噸で、到底アメリカの半分にも及ばない。石油に於ては斷然トツプを切り、鐵に於てもイギリスよりも百萬噸も多い。棉花も二千萬俵近く産し、工業製品としても、自動車、諸機械、電機器具、製粉等、殆んどどれもこれも世界一である。國が大きいのでから産額の多いのも當然のやうではあるが、それ等を國民が消費しても尙且つ多くを餘し、全世界に向つてそれ等を輸出してゐる。これが貿易に現れる数字は一九二九年に於て百九十億弗であつて、イギリスの二百六億弗には少し及ばないが、これを追越すのも、それほど遠い未來ではあるまい。

**十五億圓のお菓子をへロリ** このやうに天然資源に恵まれた國だから、金持ちになるのは當然だが、併し、土地や寶物を澤山持つてゐるといふことが必ずしも金持ちとして天下に時めく所以ではない。同様に一萬圓の金を持つてゐても、たゞ銀行へ貯金しておくお婆さんと、一萬圓を資本にして何か花々しい商賣をやつてゐる青年とでは、まるで一萬圓の價値が違ふ、アメリカはこの天然資源を

巧みに利用して一舉に金を儲けてしまった。そして世界の經濟界を支配するやうになつてしまった。ドルの國！といへばアメリカに定まつてゐる。成金國！といつてもアメリカに定まつてゐる。アメリカがそれほど金を儲けたのも、大して遠い昔でもなく、又、それほど長年月の努力を費したわけではない。世界大戦は日本にも多くの大小成金を製造した。アメリカはそれ以上に物凄い成金になつてしまつた。

かういふ話がある。アメリカの海軍卿ウイルブーは面白い統計を取つてこれを發表した。即ち、一九二五年（大正十四年）といふ大戦後アメリカの最も好景氣に恵まれた年には、アメリカ婦人が一年に頭につけた髪油の代金だけが三十六億五千萬圓であり、アメリカ人が一年に食べたお菓子の代金が十五億圓に上つたといふ。十五億圓のお菓子！なんといふ素晴らしさだ。お菓子といふからには、黄金で出来たわけでもなく、またダイヤモンドをちりばめてあるわけでもあるまい。ウドン粉と砂糖と卵子とチョコレートと牛乳と……まアせい／＼贅澤に考へて、デコレーションに金銀の箔を使つたとしても、なんと我が政府一ヶ年の歳出と同額なんだから驚くではないか。

### 英國軍を畑に葬く

どうしてこんなに金が儲かつたか？ いふまでもなく歐洲諸國が戦争に浮

き身をやつしてゐる間に、高見の見物をしながら、それ等から軍需品の注文をワンサと引受けたからである。そこは天然資源のある強味で、造らうと思へば、何でも、幾らでも造ることが出来る。砲彈だらうが、軍艦だらうが、鐵兜だらうが、石油だらうが、その他食料でも衣服でも、何でも一つとして出来ないものはない。儲ける時はこの時とばかりとジャン／＼引受けてしまつた。然も平素の三倍も四倍も高價で賣りつけた。

こんな逸話がある。

シュワツプといへば現代アメリカ工業界の第一人者で、鋼鐵王カーネギーの片腕と頼まれた男だがこれが大戦少し前に獨立して製鐵工場を經營してゐた。その手腕と才幹は既に歐洲大陸にも喧傳されてゐたので、大戦勃發と同時にイギリスは大量の彈丸製造を彼に頼むべく彼を招致したことがある。彼は大西洋を渡つてロンドンでキツチナー元帥と會見し、彈丸百萬發の注文を受けた。

その後でキツチナー元帥は云つた。

「そこでシュワツプさん、この彈丸百萬發は、一ヶ年間ぐらゐに造つて貰へませんか？」  
シュワツプは即座に答へた。

「十日間でお間に合せませう」

「え？」キツチナー元帥は聞き違へではないかと思つて念を押した。「百萬發ですぞ？」

「さやう。彈丸百萬發を十日間に製造致すのです」

「元、元談……」

「閣下、私は閣下のお招きによつて彈丸製造の注文をお引受けしようと思つて來たのです。元談をいふためにわざ／＼太西洋を渡つて來たものではありません」

そして彼シユワツプは約束を一日も違へずに彈丸百萬發、耳を揃へてイギリスに引き渡した。この意氣とスピードに感じた海軍卿フィツシャーは、今度はシユワツプに潜水艦二十五隻の注文をした。

「あなたは何でも非常に早う間に合せて下さるさうぢやから特別にお願ひするですが、潜水艦二十五隻どぎやん位で出来るでずな？」

「さやう。潜水艦とあれば砲彈のやうには多りませんが、費用を惜しまないで出して頂けさへすれば九ヶ月間で全部お渡し致します」

「何？ 九ヶ月？」

「おそすぎるでせうか？」

「いや。玩具の潜水艦なら丁度そぎやんもんで宜かたい。……こつちは戦争に使ふんでな」

「私もそのやうに解釋してをります」

フィツシャー卿はちよつとムツとした。軍事専門家の見積りで如何に全能力を揚げても十五六ヶ月はかゝらうといふものを、素人が事もなげに九ヶ月といつてのけたのが癪に障つたからである。そこで逆襲を喰はせるつもりで、大きく出た。

「あなたがそげんいふなら、それで宜か。ぢやが、萬一九ヶ月を一週間でも遅れよつたら、一週間でとに一隻につき十五萬弗づゝ罰金を貰ふですけんのう？」

「承知致しました。その代り閣下、一週間早くなることに一隻につき十五萬弗づゝの賞金を頂きたいと思ひますが」

「宜か宜か。約束したですぞ」

かうしてシユワツプがアメリカへ歸つた頃にはもう二十五隻の龍骨が造船所に列んでゐた。そして彼は結局約束よりも一ヶ月早く建造を完了し、シユワツプは五百萬弗の賭金を得たのである。

### 借金變じて貸金となる

萬事がこの調子で注文に應じたのだから金の儲かるのは當然である。世界中の黄金といふ黄金は見る／＼うちにアメリカへ流れ込んだ。それまでは豊富な天然資源を持ちながらそれを開發するためにはイギリスやフランスの資本を借り受けてゐたが、それが忽ちのうちに逆となり、前の借金を綺麗さつぱりと返した上に、莫大もない金を歐洲諸國へ貸しつけるやうになつた。この貸金の中には勿論現金で貸したものもあるが、大部分は戦争中の注成品の代金を借金の證書に書き替へさせたものである。近時頻りに戦時債權として世界財界の問題となるものはこれであり、今や黄金波打つフランスさへがアメリカに對して借金をしてゐるといふのも、要するにこの時振り出した支拂ひ手形にほかならない。かうした戦債は總額無慮二百億圓と稱されてゐる。二百億圓！口でいへば簡單だが、その金が生み出す一ケ年の利子だけでも三井や三菱の全財産以上なのだから魂消たものである。

然も尙アメリカはこのほかに三百億圓ほどの海外投資をしてゐる。それを大陸別にする、歐洲各國へは九十六億圓、カナダへは八十二億圓、南米へは五十億圓、中米へは六十億圓、その他の地方へは二十五億圓ばかりである。然もその間アメリカ政府は、一九二二年から一九二八年までの七年間に

百三十億圓の國內公債を償還し、三十六億圓の大減税を行つたが、それでも尙且つ聯邦準備銀行には二百億圓の金塊が喰つてゐたのだから、その成金振りは、實際その當時日本などに轉がつてゐた成金とは大分ケタが違つてゐる。

### 強慾な金貸し根性

どうしてこんなに金持ちになつたかといふのには、もう一つ原因がある。それはアメリカがその後今日に到るまで執つてゐる貿易政策、關稅政策である。

アメリカはこのやうにして金持ちになつたのだから、いゝ加減にして金持ちらしい寛容さを持つたらよささうなものだが、成上り者の常として、何處までも強慾な根性を持つてゐる。例へば大戦中に手を擴げた世界の貿易市場も、内地工業の生産力を漸次引き締めて行つて各國に適當に返せばよさうなものを、アメリカは何處までも積極的に出て世界市場の獨占を企てた。工業保護、輸出超過の政策は建國以來の傳統とはいへ、大戦で火事泥的に獲得した勢ひに乗じて、どん／＼經濟的侵略を企てその一方輸入品に對しては極端な關稅をかけてこれを防止した。アメリカは一九二二年と一九三〇年との二回に關稅を引上げた。殊に一九三〇年の關稅引上げは、その徹底した強慾振りに全世界を啞然たらしめた。

一九三〇年度米國の輸出超過は約十八億圓あり、國民の消費物資中九十五パーセントは國産品だつた。つまり殆んど外國から物を買入れないも同様である。かうした關係は貿易の相手國に影響し、その國は入超々々となる關係上、一々現金で支拂つてゐてはやりきれないから、何か品物をアメリカへ賣付けてそれで差引して貰はうとした。けれどもアメリカは、そんな品物はいらぬ。金で支拂へといつて、どん／＼金塊を掻き集め、商品の流入を避けるために遂に關稅を引上げたのである。

かうしてアメリカへは、先づ貸金の利子が金塊で流れ込む。商品賣上代金が、やはり金塊で流れ込む。支拂ひに窮した債務國が戰債をまけてくれと頼んでも、冗談でせう、貸した金は貸した金だといつて遠慮會釋もなく貸金を取立てる。死にかゝつた病人の寢着まで判いで行くやうなことをする。ドイツなどは、借金の利子を支拂ふために新しい借金をする。その利子を支拂ふために又もや新規の借金をする。こんな風で際限もなく借金をして行くので世界中にはアメリカの御厄介にならない國は殆んどなくなつた。現在外國に借金を持たないのはアメリカだけである。かうしてアメリカへは世界の黄金の四割が集つてしまつたのである。

### 國民年收千五百圓也

當時アメリカがどんなに金を持つてゐたかをアメリカ政府の發表した統

計によつて見よう。一九二八年度一年間のアメリカ人一人當り平均收入は千五百圓だつたといふ。大の男が年收千五百圓は差程多いとはいへない。だがそれが、生れたばかりの赤ん坊から、街にうづくまつてゐる乞食婆さんに到るまでの平均なのだから大したものだ。こゝに親子五人暮しの家族があつたとすれば、その一家は一年七千五百圓の收入があつたのだから、これなら大抵の人間も驚嘆するだらう。十人暮しなら一萬五千圓だ。

勿論これは街の乞食にまでこんな大金が轉がり込んだわけではなく、いづれはウォール街の三十何階の樓上に頑張る大資本家の太鼓腹の中へばかり集つたのではあるが、それにしても街の乞食氏にも幾分そのおこぼれが廻つたことは事實である。だからこそ十五億圓もの菓子ペロリと食べられたのである。

とは言へ、ロシアのところでも、少し言及しておいた通り、この國民所得は、資本主義の殿堂アメリカに於ては、結局不條理なものであり、いつかは破綻を招くべき性質のものである。我々は最近アメリカ財界の逼迫を耳にしてゐる。アメリカは金輸出を禁止しはせぬかとさへ懸念してゐる。フーバーは昨年、フランス首相ラバールと連名で金本位維持の聲明をしたが、そのことが却つてアメリカの

危機を裏書するものとして世界の經濟をより一層不安ならしめた。何故か？ いふまでもなく金は總て一部資本家階級にのみ集り、一般大衆の掌には、使ひ果して二歩も残らなかつたからである。これをもう少し細かく説明してみよう。

**醒めて口惜しき成金の夢** 戦争中歐洲各國はアメリカへどん／＼軍需品を注文した。これは國家の運命をかけての戦争だから、無い袖を振つてとも無理に代金を支拂つた。また一方、歐洲各國は戦争にかまけて、それまで自分が開拓した商品市場を顧みる暇がなかつたので、その留守の間にアメリカ商品はどし／＼その地方へ進出し、市場を奪つてしまつた。この二重の需要のためにアメリカでは、全力以上の全力を擧げて製産に従事し、農村から青年を駆り立て、工場で働かした。ところが一旦戦争が治つてしまふと軍需品の注文はバツタリなくなつた。そのために軍需品工場は先づ第一に事業を縮少しなければならなかつた。次には、交戦國の商工業が復活して戦前の市場奪還の運動を起すと、アメリカ商品ばかりが威張つておられなくなる。値段を安くして競争するといふことは直接勞働者の賃銀減額となつて現れ、これが國民の購買力低下を誘引し、内外兩方面で商品の賣行きが悪くなる。然も交戦國は孰れも財政を緊縮させて外國品を買はなくなる。従つてアメリカの各工場は操短に

操短を次ぎ、先づ第一に賃銀値下げ、第二には勞働者減首となる。資本家は、たゞ、今迄ほど儲からなくなつただけだが、勞働者は忽ちその日のパンに窮した。かうして、昨年までは三百五十萬といつてゐた失業者が本年では一千萬人に増し、殆んどアメリカ人口の九パーセントは失業者だといふことになつた。紐育でもシカゴでも今やその失業者の處置にはと／＼悩まされ、成金の夢は果敢なく醒めようとしてゐる。

**銀行の倒産一ヶ月に二百二十** 併しそれは單に政府への批難としてプロレタリアが騒ぐだけであつて、政府自身がそれによつて直接大した影響を受けるわけではない。政府が失業者以上に頭痛の種子としてゐるのは、資本家階級の逼迫した状態である。

アメリカ金融界の逼迫は一九三〇年から明かな潮候を見せ始め、一九三一年に入つて漸次色濃くなり、八月までには合計九百三十二の銀行が休業を餘儀なくされ、最後に資本金三億三千八百三十萬圓のアメリカ銀行の破綻となつて現れた。フーバーは驚いて財界の巨頭を白雲館に集め、再割引金融機關の設置を説いた。ところが間もなくイギリスが突如金本位を停止したので、この影響はアメリカ全國に強く響き、その後大小銀行は續々として休業或は破産するやうになり、その最も多かつた本年



一月だけでも、休業する銀行實に二百二十餘行に達した。株式仲買人が有價證券賣買のため聯邦準備銀行から借り入れる金の額は、アメリカの景氣のパロメーターだといはれてゐるが、それが不景氣になりかけた一九二九年九月末には八十五億五千萬弗ほどだったものが、一九三二年一月末には、五億餘弗に下つた。つまり景氣は十七分の一にまで下落したわけである。

何故こんなことになつたかといふ原因にはいろ／＼あるが、最も直接の原因となつたのはフランス銀行の暗躍である。

フランス銀行は合衆國に十億圓乃至十二億圓の預金を持つてゐる。アメリカが再割引金融機關を設けようとした時、驚いて使者を派遣し、聯邦準備銀行に信用擴張をせず金利の引上げをしるを談じこませ、若し不承知なら、貸金を全部引揚げるより仕方がないと脅かした。そんな莫大な金を引揚げられては困るからアメリカも不承無精承知した。ところがフランス銀行はそれだけでは不安を感じたので、アメリカの民間銀行に散らばつてゐた債權を盡く聯邦準備銀行に集めてしまつた。その額は約五億圓だらうと推測されるが、それだけの大金を引揚げられては方々の小銀行に痛く響くのは當然、彼等が倒産に倒産を次いでゐる理由は此處にある。

**現れ出た復興金融會社**　そこでフーパーは昨年十二月八日に議會に對して教書を送り、この經濟界に善處し、一般大衆の信用を回復するために、復興金融會社の設立を勸告した。そこで議會もこれに賛成し、早速立案し、満場一致を以て可決され、一月二十二日大統領の裁可を得てこの會社を設立せしめた。

復興金融會社は、資本金を四十億圓とし、うち十億圓は政府が引受け、三十億圓は社債によつて民間から募集した。會社の事業とするところは、銀行、信託會社、保險會社、建築會社、金融會社、その他の金融機關または銀行から融資を受けない鐵道會社等に資金を貸付けることである。その貸付期間は最長を三ヶ月とし、二ケ年間は書き替へることが出来る。この會社は、七名の理事によつて管理され、理事のうち一人は政府の財政長官であり、一人は聯邦準備銀行の總裁たり、一人は農村貸付委員長であり、他の二名は大統領の指名したものである。左に決定された理事を擧げると、前駐英大使チャーレス・ドーズ、聯邦準備銀行總裁ユーデン・マイヤー、財務長官オクデン・ミルス、農村貸付長官ベスター、銀行家ハービー・コーチ、同ジョセフ・ジョーンズ、ほか一名である。然してドーズは社長たり、マイヤーは取締役會長となつてゐる。この會社がどんな効果を齎すかは尙今後の問題で

あるが、如何に才智縦横のドーゾも、この不景氣ばかりは、ドーゾすることも出来ないだらうと觀測されてゐる。

**不景氣病の打診** アメリカの不景氣病がどの程度まで昇進してゐるか、一つ筒條書にして打診の結果を報告してみよう。

**第一の診斷**——米國政府の赤字は、本年度（一九三二年）で約四十億圓、翌年度は約十五億圓にならうと豫測されてゐる。本年度の赤字は内債と所得税で大體埋められるだらうが、來年度の赤字補填に對しては、販賣税を上げることと、七十五パーセントのビールの販賣を許してこれに課税する案を立てたが、議會は兩案とも否決した。そこでフーバーは、政府は骨まで削つたのだからこれ以上の緊縮は出来ない。増税以外に赤字を救ふ道はないと思ふが、何か他にいゝ成案があるだらうか？ と悲鳴を擧げた。

**第二の診斷**——アメリカの株式は目下だら／＼下りに下痢ばかりしてゐる。本年一月以來古今未曾有の大暴落をしたが、三月には尙その上にも暴落しようとし、スチール株も小麦や棉花相場も四分の一以下になつた。また各種工業は操短に操短を續け、實に陰慘な空気を漂はしてゐる。これを救済す

る方法は目下のところ殆んど見當らない。

**第三の診斷**——銀行の破産は何うにか防止出来さうだが、金は尙相變らずフランスへ逃げ出し、インフレーション政策も大して効き目がなかつた。聯邦準備銀行には六十億圓ほどの金塊はあるが、インフレーションのためにフリー・ゴールドは大分減少してゐる。この上フランスへ金を持つて行かなくては到底金本位を維持することは出来まい。

**第四の診斷**——産業の衰微はその極に達し、最早アメリカ自身の力ではどうにもこれを救済することが出来ない状態にまで追ひつめられてしまつた。かといつてアメリカを救ふ力のある國は他に一つもないし、アメリカの不景氣が世界の不景氣を意味するとしたら、世界の經濟は最早救ふ道なしといはなくてはならぬ。この悲觀説は自然と國家管理といふ新しい方法を考へずにはゐられない。同じく國家管理といつても、アメリカ人の大嫌ひな社會主義的手段は執らず、フアシズムに向ふだらうが、そこまで決心するには尙長い時日を要するだらう。アメリカのフアツショ運動は漸次勢ひを得、かなり多くの一部資本家から多大なる運動費を引出してゐるといふ噂の立つてゐるのも強ち無稽の言ではなす。

救済は唯この一途 併し資本主義經濟に於てもまだ救済の方法がないことはない。然もそれは大してむづかしいことではない、自分の慾を捨て、チヨツビリ腹の大きい所を見せればいゝのである。先づ第一に、自分が貸した貸金の證文を全部破つてしまふから、その代りにドイツの賠償金も棒引にせよと提案すること、第二には、關稅を低くして出超主義を捨て、お前のものも買つてやる代りに俺のものも買つてくれ、といふやうにすれば、各國に購買力が出るからアメリカの商品も賣れようし、各國の産業も活潑になつて來よう。つまり金の偏在を無くすれば一時的にもしろ或はこの不景氣から浮び上れるかも知れない。

最近クリヴランド・トラスト會社副社長レオナルド・アイアスは、二年半後には景氣が回復するだらうといつて財界から多大の注意を牽いたが、景氣回復とか、好景氣來とかいふことは、今迄にも度々いゝるんな人によつていはれたことであつて、更に一つとして豫測の適中したものがかつたから、一般には餘り信用されてゐない。それは確かにマルクス主義者達のいふやうに、景氣は最早昔のやうに自然的に循環するものではなくなり、人爲的に作り出した景氣は、結局より一層反動的な不景氣を作ることには役立たないとする、經濟組織を根本的に建直すより他に方法がないといふ結論が出て

來る。フアツシヨカマルクスかの問題は此處にも深刻に提示されてゐる。

### 國務省は資本家の走狗

「腐つても鯛」といふ諺がある。

アメリカはまだ腐つてもゐないの

だから、かうはいつて來たものゝ、決してドイツやオーストリアの困つてゐるのとは困り方が違ふ。失業者はその日のパンにも不自由してゐても、有る所には黄金が唸つてゐる。手のつけられないやうな唸り聲を發してゐる。何か使ひ道はないかといつてゐる。資本主義の社會では、政府もまた、さうした資本家達のために最も頭を悩まし、最も力になり、最も御用を勤める。殊に黄金萬能のアメリカにあつては、政府は全く資本家の番頭だといつても過言ではない。これは何も赤化したマルクス主義者がいふのではない。アメリカの共和黨の國會議員ラフォレットが判然とさういつてゐる。

「米國の國務省は、米國資本家に儲はれた一機關にしか過ぎない」

彼はさういつて共和黨を脱黨し、自ら進歩黨を樹立した。宣言書の中には、米國の外交機關が常に米國資本家の在外事業の發展にのみ努力し、資本家の意を迎へるためには對外干渉も辭せないことを忌憚なく指摘した。それは決して誇張でも偽りでもない。何故なら、アメリカの外交家は、資本家の御用を勤めるどころか、資本家自身が外交家になつてゐるのである。その實例に就いては、拙著「日

○もし戦はば？」の中に四五列挙しておいたが、尙最近の事例を挙げてみると、最近十年間大蔵長官たり、今年二月駐英大使となつたメロンは、ロツクフェラー財團の大番頭たり、又自己經營のメロン財閥の統帥者であることは天下まぎれもない事實。然もそれまで駐英大使をしてゐたドーズはアメリカ一流の銀行家であり、今度本國に歸つて復興金融會社の社長となつた。これでは幾ら公私を混淆すまいとしても、ツイさうなつてしまふのも道理である。以下我々は、アメリカが資本家の傀儡となつてどんな踊りを踊つたかを一つメキシコに取つて觀察してみよう。

**世界の寶庫メキシコ**　メキシコは北米合衆國の南隣の唯一の國であつて、面積約百九十七萬方キロ、人口一千四百八十六萬人である。三十一州から成る聯邦共和國で、一八二四年初めて共和國となつたが、政爭常ならず、慢性革命病にでも罹つてゐるやうである。何故そんなに騒がしいかといへば、いろんな野心家もゐようし、地勢上統一し難いことにも原因しようが、また一方、アメリカが裏面でそれを操つてゐるからでもある。何故アメリカがそれほど干渉するかといへば、單に隣りだといふばかりでなく、物産が極めて多いからである。

メキシコは土地豊饒で、小麦、砂糖、棉花、煙草、コーヒー等の産出が多いが、鑛業に至つてはそ

れ以上で、殊に銀は一ヶ年三百四十萬キロ内外を産し、世界總産額の三分の一を占めてゐる。また石油は近年衰微はあるが、それでも年産額六七千萬バレルあり、一時は一億九千餘萬バレルも産し、噴出の激しさにタンクを造つてゐる暇がなく、土を盛り上げて大貯水池みたいなものを作り、これへ満々と石油を貯めた。その廣さ五萬五千坪、深さ三十尺、まるで一大湖水だつたといふ。金もまた世界總産額の四パーセントを産し、鉛は約十九萬噸、世界産額の十八パーセント、銅は五萬八千噸で、これまた世界産額の四十二パーセントとなり、その他水銀、亞鉛、アンチモニー、白金、黒鉛等がある。

**アメリカの侵略主義**　現在でもこのやうに世界の寶庫ともいふべきメキシコを貪慾なアメリカが黙つて放任しておくわけがない。彼は今から八九十年ほど前までは、遅れ馳せながら侵略主義を取つて、先づ手近なメキシコから侵略し初めた。そのメキシコ侵略は前後三回に渡つて行はれたが、その大體の面積を挙げると、一八四五年には、テキサス及びコロラド、カンサス、ニューメキシコの一部を入れて合計三十六萬二千四百八十七方哩を併呑し、一八四八年二月二日には、グアダルーペ。イタルゴ條約によつて、アリゾナ、カリフォルニア、ネヴァダ、ユーク、ワイオミング、ニューメキシコ、コロラド等、總面積五十二萬二千五百六十八方哩を侵略し、一八五三年十二月三十日ガズステン條約

によつては、アリゾナ、ニューメキシコ等四萬五千五百三十五方哩をその有に收め、斯くして三回に合計九十三萬九百九十九方哩といふ、我が國全土の四倍ほどもある土地を奪つてしまつた。といふよりは現在我々がアメリカだと考へてゐるもの、四分の一は嘗てメキシコのものであり、我が國民に最も關係の深い西海岸一帯はメキシコだつたのである。

**金貸し外交** けれども近年はかうした古風な侵略主義を捨て、しまつて、アメリカ獨特の近代的金貸し外交を初めた。つまりメキシコ政府又は民間事業に資本を貸してやつて、出資者として自分に都合のいい勝手を注文をして、メキシコを事實上自己の支配下に置かうといふのである。然らばメキシコへは何の位の資本を注ぎ込んでゐるか、試みに一九二七年現在の統計を見てみよう。

種別	金額(圓)
石油事業	五四〇,〇〇〇,〇〇〇
鐵道財産	四九六,〇〇〇,〇〇〇
鑛山	四三二,〇〇〇,〇〇〇
鑛業	三五二,〇〇〇,〇〇〇

田園諸財産	一八〇,〇〇〇,〇〇〇
公債	一二八,〇〇〇,〇〇〇
鐵道債券	八三,〇〇〇,〇〇〇
都市諸財産	六二,〇〇〇,〇〇〇
製造工業	四二,〇〇〇,〇〇〇
公益事業	三二,〇〇〇,〇〇〇
林木事業	三〇,〇〇〇,〇〇〇
商業	一四,〇〇〇,〇〇〇
銀行	三,六〇〇,〇〇〇
その他	四八,〇〇〇,〇〇〇

これ等を合すると二十五億三千萬圓ほどの額に上る。然もそれがメキシコ産業の死命を決する中心事業にのみ關係してゐるのだから、メキシコの内政までも思ふがまゝに左右出来ることは敢て不思議ではない。

一九一一年アメリカは、三十年來勤続のメキシコ大統領ディアスを去らせて遮二無二マデイロを押し立てた。それはディアスが最初は米國資本を迎へたが、最後にイギリス資本を入れようとしたに反しマデイロは親米派の頭目としてアメリカ喜ばせの叛亂までしてみせた男だつたからである。又一九一三年には米大統領ウエルソンは、メキシコの假大統領ウエルタに對してアメリカ國境近くで叛旗を翻したカランザ將軍を援助して遂にウエルタを位から去らしめたが、これは米國境近くにある石油坑を自由にしたいといふスタンダード石油會社の希望によつたものである。また一九二〇年メキシコ大統領に當選したオブレゴンに對して、その後約三年間は正式承認を與へなかつた。これも石油會社の命によつて、メキシコに於ける石油事業に有利な地位を獲得しようといふ魂膽からである。これ等のこととは孰れ後章の石油争奪戰の所で詳細に説くが、「地獄の沙汰も金次第」といふことを先づ一つ知つておいて貰ひたい。

外國元首の任免も量のまゝ 次にはアメリカが軍事上の必要から如何に露骨な軍事干渉を敢てしたかの例を一つ擧げてみよう。

相手はニカラグアである。ニカラグアとは中央アメリカの中の一國で、總面積十二萬七千四百六十

一方キロ、人口七十萬を擁してゐる。アメリカが此處に干渉の手を下したのは、太平洋と太平洋を繋ぐ近道を此處に取らうとしたからである。今はそれをパナマ運河で行つてゐる。けれどもパナマ運河の出来る以前にはニカラグアのニカラグア湖と、それから流れて大西洋に注ぐサンファン河とによつて簡単に運河を作らうとした。その計畫は十九世紀末葉に樹てられ、工事を着手しようとした。これによると開鑿すべき所はたつた二十八哩で、パナマ運河のやうな大工事ではないことになる。かう考へると實に簡単だが、水の高さや、その間にある瀧の關係や、湖中の火山島やで工事の容易でないことを知つたので、急にパナマ運河の方を開くこととしたのである。とはいへ、パナマ運河は軍事上心もとないことが多々あるので、どうしてもニカラグア運河を作りたいといふ意見が最近又々再燃しかけてゐる。

さういふわけだから、アメリカは、このニカラグア運河開鑿權を他國に持つて行かれては一大事だから、何のかのといつてはこの國に干渉してゐる。

一九〇九年アメリカは、十五年間もニカラグアを支配したセラヤ大統領を去らせて親米派のエストラダを就任させた。その後メナ將軍が大統領となつたが、アメリカに對して面白からぬ行動を取つた

ので、早速これを親米家のチアスにすげかへた。この位の干渉は米國に取つてはお茶の子である。これ位の事は自分の國の知事の任免よりも簡單である。

**露骨な武力干渉**　つい最近もアメリカはニカラグアに向つてとても露骨な武力干渉を行つたことがある。

爾來アメリカはニカラグアの保守黨を支持してゐたが、それに反對する自由黨が近年大いに勢力を得、事ごとに保守黨に衝突したので、子供の喧嘩に親が出た形で一九二六年十二月二十三日、米海軍ラチマー提督は、突如ベルトオ、カベサスに上陸せしめ、在住米人の生命財産保護に藉口してその附近一帯に中立地帯を三つも作つてしまつた。これへはニカラグアの軍隊たりとも濫りに入つてはいけないといふのである。併しその魂膽は、この土地は自由黨サカサ軍の本營地だつたから、この地を占領して自由黨軍の戰鬥力を鈍らさうとしたのである。ところが自由黨軍は結局保守黨軍を潰走せしめたので、それならば乃公がお相手申さんものと、一九二七年三月、一千六百名の軍隊をコリントオに上陸させ、尙續々として兵を送つたので、三月末にはその數六千と稱された。この六千人の兵士でもつて守護すべき在住の米人は何人かといふとタツタの七百人だつたのである。我が國が滿蒙に於て内

地人十一萬五千、朝鮮人八十餘萬人の生命の安全を守るために、たつた二三萬の兵を送つたといつて猛烈に抗議して來たアメリカは、餘程健忘症にかつてゐると見える。尤もそこがモンロー主義のモンロー主義たるところかも知れないけれど。

かうしてアメリカは武力でもつて他國の内政にまで干渉したのだが、これを世界——殊に國際聯盟が一向問題にしないのは何故かといふと、それは兩國ともに聯盟に加盟してゐないからである。聯盟にさへ加盟してゐなければ、どんなことをやつても正義人道にもとらない、とはいへない筈である。だが、聯盟などいふ小五月蠅いものに加入してゐては思ふことが出来ないといふ將來の見越しをつけて、アメリカ自身が聯盟に加盟しなかつたり、中央アメリカ諸國を邪魔して加入させなかつたりしたのだから、流石にセンチメンタリスト・ウキルソンもなかく味をやりをるといはなくてはならぬ。このアメリカが最近の我が日支事變に對して、自分の過去には口を拭つて、處女のやうな顔をしなから處女のやうな戰爭觀の下に我れに抗議したりしてゐるのだから、その圖々しさにはいゝ加減顔まけである。

### 世界一の好きな國民

アメリカ人は自分を世界一の立派な國民だと考へてゐる。國富に於ても

世界一、軍備に於ても世界一、發明に於ても世界一……何でも世界一でありたいと考へてゐる。幸ひなことに、實際アメリカは世界一のものが多い。それは特に人為的努力を施さなくつても世界一のものが多い。それへもつて来てヤンキーは、何でも世界一にならうとして、金のあるにまかせて、馬鹿氣たことまでやつてのける。とてつもない大きな飛行船を造つてみたり、眼にもとまらないほど速い自動車を造つてみたり、かと思ふと、玩具のやうな汽車を走らせてみたり、蟲眼鏡でしか讀めないやうな小さな本を作つてみたり……なんでもかんでも世界一であらうとして一生懸命になつてゐる。結構な心懸けではある。そして彼等は、高慢ちきや、おせつかいや横車押しや、陰謀や圖々しさや……そんなことまで世界一たらうとしてゐるかのやうではあるが、これだけは他人迷惑だから止して貰ひたいものである。世界一の鼻ツつまみになつたり、世界一の馬鹿を見た國となつたのでは、アメリカ人自身のために惜しむからである。

## 列國の經濟戰

以上で世界の顔を一ト通り觀て来た。併し「世界」とはこんなものではない。眞の世界、赤裸々な世界、動く世界は、各國個々の姿では理解出来ない。これを打つて一丸とし、利害の交錯を交錯のまゝに觀察しなければならぬ。然も經濟はその根本をなすもの。巧言令色以て世界の平和を高唱しながら裡に餓狼を飼つて貪婪の眼を輝かす。茲にこそ初めて世界の眞の姿が露呈されるだらう。

### 血で血を洗ふ市場爭奪戰

#### 世界經濟の矛盾

世界を裸體にする さて、いよく本題に入る。今までの以下各章の理解を助けるための準備だつた。それにしては少し道草を喰ひすぎた。これからは少し急テンポでバリ／＼と行かう。



經濟とは何ぞや？ そんなことは暇閑な人は學者に聞くがよい。我々の生活は、食つて寢て、食つて寢て、それで死んで行く。何はともあれ食ふことは第一である。食ふためには米が要る。米を得るためには金が必要。金を得るためには泥棒をする、人さへ殺す。それが經濟である、といふのも亂暴だが、經濟は、然かほどさやうに人間には切つても切れないものであるといふことだけは誰でも知つてゐるだらう。殊に國家を論じ世界を観察する時、經濟を閉却することは斷じて許されない。抑も國家經濟とは……といふ問題も日が短いから又の日に譲つて、短刀直入に列國經濟戰の事實へ入つて行かう。世界を裸にして洗ひさらひ真相を打ちまけてみよう。

### 主客顛倒の現象

歐洲大戰は世界の經濟關係をガラリと一變させた。それは平和會議に集つた聯合國の小父さん達によつて、すつかり地圖の色が塗り變へられた以上に大きな變化を來たした。その第一は輸出入國の主客が顛倒したことである。

大戰前は世界の列強——殊に英、獨、佛等の歐洲の列強は一齊に大工業國として存在し、原料品を他國——主に植民地から買入れ、それによつて得た製品を植民地に賣つてゐた。即ち後進國又は植民地は列強の原料供給地たり市場だつたのである。ところが大戰によつて國內の總ての工場は軍需品工

場と化し、己れの商品市場を顧みてゐる暇がなかつた。故に原料品は依然として買入れたが商品を製造してゐるひまがなかつた。困つたのは相手の國である。原料はあるが製法を知らない。或る種の原料は全然買手がなくなつたので無駄に腐らすばかりである。そこで當然考へたのは、有り餘る原料で自ら造つて自給自足すること、尙その製品を他へ賣ること、である。いひ換へれば、それまでは、近代的工場——科學的知識と技術による製産工業を持たなかつた國々が、近代工業國として發展して來た。これはもう一ついひ換へると、封建的な國々が近代資本主義の洗禮を受けて資本主義的な發展を遂げたのである。そして嘗ては工業製品の供給國であつた先進諸國に對つて工業製品を逆輸入するやうになつた。正に主客がその位置を換へた形である。

### 植民地の躍進

例へばこれを印度に見てみよう。印度は戰前は英國の食糧倉庫であり棉花供給地であり、英國のランカシャ綿製品の消費地だつた。即ち英國資本主義に奉仕する農業國だつた。故に二十人以上の勞働者を有する工場は、一九一一年には七千百十三しかなかつたが、大戰の洗禮を受けて後の一九二一年にはその數一萬六百六十九となり、然もその中の九割までは五十人以上の勞働者を備ふ大規模な工場である。これをそれ等の工場に投下される資本で見ると、戰前には一年平

均發行高十一萬二千圓程度の微々たるものだったが、一九一八年から一九二〇年にかけては十八億三千万圓、一九二〇年以後でも年々約十億圓が發行されてゐる。即ち十年間に一萬倍に膨張したのである。次にそれを製産高に見てみると、鑛業方面では、一九〇八年には年産額八千萬圓程度だったが、一九二〇年には三億圓臺に昇騰した。また綿製品では、戦前には印度全需要の七割を英國から輸入し、その額三十億圓であり、當時印度國內の産額は全需要の二割八歩に相當する僅か十二億圓だったものが、戦後には、三割五分に當る十億圓だけを英國に仰ぎ、自らは六割一分に相當する十七億圓を産出するやうになつた。

これをカナダに見てもよい。カナダは大戦の時、母國イギリスに對して三十六億圓の戦費を送つたほどだったが、その後アメリカ資本を迎へ入れて大いに産業的躍進を見せ、一九二二年には總産額五十億圓だつたものが、六年後の一九二八年には八十億圓になり、これが英本國との貿易關係を見ると一九二八年には、英から輸入する額は約五億一千二百萬圓、英へ輸出する額は約十一億圓で、六億圓近い輸出超過となつてゐる。

「戦前に見られた如き大英帝國は、戦争の結果、實際には消滅した」

これはイギリスに止めを射したものとして有名なアメリカのスムツツ將軍の言であるが、イギリスはこれに對して何等返す言葉がないだらう。

**列國の自給自足主義** 大戦による第二の經濟的變化は、各國が自給自足主義を採り出したといふことである。

大戦は人類に種々なる教訓を與へた。世界平和の提唱、不戰條約、國際聯盟の成立等による國際主義がそれである。けれどもこれは單に社交的辭令としてある。眞に各國が痛切に感じ、そして實行したことは、この世から戦争を絶滅しようとする努力ではなしに、今後の戦争に備へることである。故に戦争に必要なものは出来る限り國內で生産し得るやうにと考へたのも無理からぬことである。國産獎勵は平時には國家の經濟的發展を意味し戦時には軍需品の自給自足を意味する。孰れにしても一國の繁榮を慮るものが自主自營、自給自足をしようとするのは決して不條理なことではない。

ドイツが戦争に敗けたのは、アメリカの参戦によつて石油が來なくなつたからである。ドイツは旺盛な闘争心と優秀な戰鬥力を有しながら、石油缺乏のために思ふやうに兵を動かすことが出來ず七轉八倒の苦しみを演じた。この苦い經驗はフランスもイギリスも痛切に感じてゐる。イギリスの如きは

石油どころか、若し一ヶ月も食料の輸入を絶たれたら、戦はずして餓死してしまふだらう。この悩みは全世界の國々が眼の當りに見せつけられた。

だが茲に一つ不條理なことが生じた。それは各國のこのやうな自給自足主義にも拘らず、先進諸國の工業が相變らず各國の市場に向つて攻勢を持してゐることである。これは當然國産品との市場競争となり、各國は關稅率を高くして外國品防止、國産保護を行はざるを得なくなり、茲に所謂猛烈な關稅戰が展開されるやうになつたのである。

**激烈を極める關稅戰** 大戰は民族自決主義によつて一夜のうちに歐洲だけでも大小幾つかの新興國が捏つち上げられた。そのために國境は六千キロを増し、關稅の障壁は戰前二十六だつたものが一舉に三十五になつた。然もその稅率は國産保護の見地から日に月に高まりつゝある。

一九二五年から二九年にかけて、歐洲では三十五ヶ國中二十六ヶ國までが前後三十三回に亘つて關稅を引上げ、南北アメリカ大陸では二十ヶ國中十七ヶ國までがこれになつた。濠洲もカナダも、ニュージーランドも引上げた。シヤム、支那さへも眞似た。一九三〇年六月アメリカが第二回目の大きな關稅引上げを行つた時、その一年間に世界で二十五の國がこれに追隨した。美濃部亮吉氏の調査によ

ると、一九三二年度に關稅引上を行つた國は次のやうであるといふ。

- 一月——蘭領印度、支那
- 二月——シヤム、アメリカ、カナダ、印度、エチプト、アルゼンチン
- 三月——スペイン、スイス、フィリッピン、ユーゴスラビヤ、チリ、濠洲、南阿聯邦
- 四月——ドイツ、カナダ、ロシア
- 五月——ドイツ、フランス、支那、南阿聯邦
- 六月——ドイツ、フランス、カナダ、マレー聯邦、イタリー、濠洲
- 八月——ドイツ、ベルギー、チエツコ、ウルグアイ
- 九月——カナダ、イギリス、オランダ、アルゼンチン、イタリー、印度、海峽植民地
- 十月——アルゼンチン、コロンビア、南阿聯邦、シヤム
- 十一月——フランス、日本、イギリス、マレー聯邦、アイルランド

**不景氣を自乘す** これ等が、その稅率をどの位に引上げたか。それを明かに見ることは困難だが、猪間驥一氏の調査による各國の平均從價率表を見ると大體に於てそれを覗ふことが出来る。今そ

の一部分を要約して擧げてみよう。

國別	一九二七年(%)	一九三〇年(%)
イギリス	一〇五	一四・五
アメリカ	一三・八	一五・六
ドイツ	八・七	一一・七
印度	一三・四	二二・五

今これを小麦だけに就いて観てみると、戦後ロシアからの小麦は革命や饑饉のために歐洲諸國の市場へ現れなくなつた。これに刺戟されて、カナダ、アルゼンチン、オーストラリア等では大いに小麦作を増加し、一九二五—二九年の平均産額は一九〇九—一三年の平均産額よりも五割だけ多くなり、これをドシ／＼小麦の大消費國たる佛獨伊へ賣込んだ。そこで三國は一齊に關稅を吊上げた。先づフランスは一九二七年十一月に小麦一ブツセルを三七・四セントに、イタリーは一九二五年には三九・四セントだつたものを一九二八年九月には五七・七セントに、ドイツは一九二五年には三二・四セントのものを一九二九年七月には四二・一セントに。然もこれ等三ヶ國は、一九三〇年六月には平均

八〇セントにまで引上げた。小麦は贅澤品ではない。にも向らず尙且つこのやうに上げなくてはならぬのは、國內の農民を保護して出来るだけ小麦作を奨励するためである。かうした傾向が不景氣を招かなかつたら、その方こそ不思議な位である。

**煙草の關稅は幾らか？** 考へても見るがよい。佛獨伊は國內小麦だけでは到底國民を養ふことが出来ないからこそ外國から小麦を買入れてゐるのである。その外國品が若しペラポーに廉く手に入るものなら大いに廉く買つて、廉いパンを食べればよささうなものであり、國民は百姓なんて不生産的な事を止めて他のもつと有利な商賣をすればよささうなものだが、若し一朝事ある時、小麦の輸入が杜絶するか、或は激減したならば、忽ちにして國民の頃は干上つてしまふ。だから假令不生産でも出来るだけ國産は奨励しておかなければならない。すると此處に關稅を設ける必要が生ずる。従つてパンは高くなる、従つて物價は一般に高くなる、従つて餘り買へなくなる、従つて不景氣になる、といふ結果になり、小麦を輸出する方でも、ドン／＼賣れば大いに生産にも活氣を呈するが、關稅の關が高いために賣れ難いとなると、あまり作つても仕方がなくなる。従つて仕事がなくなる、従つて失業者が生ずる、従つて愈々不景氣になる、といふ結論に達する。これを簡單にいへば、自給自足主

義が關稅率を高くさせ、それが不景氣を自乘するのである。

では一體各國はどの位の關稅をかけてゐるか？ それを必需品に就て一番高率なものを二三擧げると、ルーマニヤは織物類に對して二九四・三%、フランスは鐵及び鐵製品に對して一一〇%、織物類に對して七〇%、イタリーは鐵及び鐵製品に對して六〇・七%であり、總輸入品に對して平均關稅率を示すと、ルーマニヤは九八・四%、フランスは五八・一%、ポーランドは四三・三%、チェツコは三六・四%、ユーゴスラビヤは四二・八%等である。

これは必需品ではなく寧ろ贅澤品といふべきものだが、我が國では煙草に對して三五〇%の關稅をかけてゐる。つまり一本一圓の葉卷を吸ふとしたら、正味は二十二錢二厘二毛ほどで、あとの七十七錢七厘七毛七絲七骨ほどは關稅の香を賞翫してゐるのである。なんと驚いた話ではないか。

**ロシアのダンピング** 物資は需要供給の原理によつて世界中自由に流れなくてはならない。關稅はその自由の流れを阻止してゐる。それが不景氣を招かない理由はない。不景氣は困る。だから何處の國だつて關稅は成るべく低くしたい筈である。にも拘らずお互ひが競争で關稅率を高めて行く。イギリスのやうな傳統的自由貿易主義の國までが關稅引上げに浮き身をやつしてゐる。何故そんなこ

とをするのか？ これに對して當路者はいふだらう。「ロシアのダンピングに備へるのだ」と。さういふ口實の下に關稅を吊上げた國にアメリカ、スペイン、カナダ、ユーゴスラビヤ、フランス等がある。ではロシアはどんな程度にダンピングをやつたか、それを調べてみよう。

一九三〇年八月から九月にかけて、ロシア小麥が九百萬ブツシエル定期に賣りつながつたことがある。俄然アメリカは大騒ぎを初めた。

「ロシアがダンピングを初めた。ロシアはこの手で世界の經濟を攪亂し、文明を破壊するのだ」

このデマは全世界に飛んだ。中には「今やロシアの小麥ダンピング船は世界の各地に向つて航行しつゝあり」などといふナンセンスな流言まで飛んだ。この流言に先づ乗せられたのがフランスである。フランスは議會の協賛も待てないほど慌て、その年の十月、大統領令で對露貿易制限令を發布した。穀類は勿論のこと、肉類、鶏卵、砂糖、木材、亞麻、ゴム、ゼラチン等の輸入禁止又は大制限をし、ダンと關稅を上げた。フランスは何を血迷つてゴムまでがロシアで出來ると考へたか知らないが、此處に關稅政策の偽らざる姿が露呈されてゐる。何かといへば、ロシアのダンピング防止を口實に關稅障壁を高め、自己植民地のゴムを保護したのである。それはさておき、フランスに眞似て各國は一齊

に關稅を高めた。

ロシアのダンピング船は我が國にもやつて來た。先づ一九三〇年に沿海州木材二百萬石が賣りに出た。次いで一九三一年二月ロシアは、小麥をどの國よりも安く、然も量は幾らでも御注文に應じようといつて來た。また砂糖も七シル三ベンスで約八千噸の賣物を照會して來た。これは臺灣産が沖着十八圓五十錢となるに對し、十八圓十五錢だつた。これ等に對して我が國では餘り騒がなかつたが、關稅は或る程度まで吊上げた。

### 不當廉賣防止令

ところで、一體ダンピングとは何か？ といふことが問題になる。

ダンピングとは投げ賣りである。夜のメリヤスのやうに安く叩き賣つてしまふのである。夜の商人にはせると、工場整理だの、店じまひだの、宣傳のためだのと、いろ／＼な口上をいつて、事實普通の値段より安く賣つてゐる。かういふのも正に一種のダンピングである。けれどもこれ等は幾らダンピングしたところで大局に影響がないから、政府も黙つて見てゐるが、もしそれが大局に影響するほど大々的に行はれた時には取締らざるを得なくなる。ではどんなのが大局に影響するかといふと、それは値段の問題でもなく、量の問題でもない。投げ賣りをする者の目的の問題である。

或るメリヤス工場が破産に瀕したとする。だから幾らでもよい現金が欲しいといふ場合に、ストツク品を投げ賣りする。これは單に自己の窮狀を救ふだけの目的だから一向かまはない。ところが或る人間が、メリヤス事業を獨占する意志の下に、他の一切の競争者を倒さうとして無暗に投げ賣りを續けるとか、一國又は一社會の經濟を攪亂しようとして投げ賣りをしたといふ場合には、これは不當廉賣だといふことになる。かういふ者を防ぐために、何處の國にも「不當廉賣防止法」が設けられてゐる。

我が國にもその法令がある。ハッキリと獨立した法令ではないが、關稅定率法の第五條の二としてチヨツピリ規定されてゐる。これは一九二〇年に制定されたもので、まだ一度もこれを使用した例はないが、使用しようと思へば出来ることにはなつてゐる。ところがカナダでは既に一九〇四年にダンピング防止法が制定され、一九二一年にはニュージラランド、ニューファウンドランド、オーストラリア等から、イギリス、アメリカまでが制定し、これを適用してゐる。

ロシアのダンピングが果して「不當廉賣」であるかどうかは別問題として、ロシアのやうな經濟組織の異なつてゐる國のすることは、それに對抗する資本主義國にとつては總て「不當」と考へるのも

また止むを得ないかも知れぬ。何故なら、泥棒にも三分の理があり、これを捕へる警官の行爲は泥棒にとつては許し難い「不當」だからである。

**世界經濟の矛盾** それは兎もあれ、かゞして世界各國は何のかのと口實を設けながら關稅壁を高くし、物資の自然の流れを梗塞してゐる。そのために賣りたいものも賣れず買ひたいものも買へずブラジルは石炭の代りにコーヒーを燃し、カナダは小麦の山に取圍まれながら瘦せ細り、イギリスは綿布の倉庫の中で寒さに震へてゐる。かうした救ひ難い矛盾と不景氣は大戦後に初めて現れた新現象かといふに、決してさうではない。これは戦前から世界を支配してゐる所の「資本主義經濟」の當然の發展にしか過ぎない。

マルクスは「資本論」の中でいつてゐる。

「外國貿易の擴大は、資本主義的生産方法の幼年期に於てはその基礎であるけれども、その發展につれて、この生産方法の内的必然により、絶えず擴大され行く市場へのその欲求により、この生産方法自身の創造物となつてしまつてゐる」

つまり資本主義的經濟は總ての商品を無計畫に生産し、その必然の要求としてそのはけ口を探す。

そして資本は無限に膨脹して行き、従つて市場を無限に求める。先進諸國が地球の各方面に競つて植民地を求めたのは、その市場獲得のためだつた。そして植民地は忠實に本國の資本主義に奉仕してゐた。然るに近年驚くべき發達を遂げた交通機關、通信機關は、世界の距離を極端に短縮し、リンドバーク大佐のいつたやうに、今や世界は長さで測られず時間で測られるやうになつた。そのために最近まで未開の國だつた所も文明に恵まれ、資本主義の洗禮を受けるやうになり、それまでは本國の市場だつたものが、自ら市場を他に求めるやうにまで發展した。茲に於て植民地は本國を離れて獨立し、本國と市場を争ふやうになつた。これは本國の望むところではないが、總てのものは生長するのが原則だから國家の生長だけを阻止することは出来ない。然してこれは單に植民地對本國の關係ばかりでなく、先進國對後進國の關係となり、國境によつて區切られた百に餘る全世界の國家がお互ひに離反排撃し合ひ、血で血を洗ふ市場争奪戰を開始するやうになつたのである。

**無駄な小田原評定** これは各國とも決して嬉しいことではない。殊にそのために招いたこゝ數年來の深刻な不景氣は、何處の國でも何とかして打開しなければならぬ。何か其處に打開の方法はないか？ といつて、一國だけで何と足掻いても仕方がないから、三人寄れば文珠の智慧で、一つ長

屋一統が寄り集つて相談しようといふことになつたのが一九二七年の國際經濟會議と、一九三〇年の關稅休日會議である。

國際經濟會議はフランスのルシュールの提案したものである。彼氏はいふ。「世界平和招來のあらゆる方法を探求せんとし、經濟的平和が、國民相互間の安寧を確保するに大いに貢献すべきことを確信する」

この言葉は確かに間違つてゐない。けれども前述のやうに各國がお互ひに自分の飽くなき貪慾のためには相變らず關稅戰爭を續けてゐるなら經濟的平和も無駄なことだし、かといつて關稅を撤廢せよなんてことは此の資本主義國ではいふべくして行はれない。出來ない相談を出來さうとするのでは何時まで立つても相談のまとまるわけはない。三週間もかゝつて摺つた揉んだの揚句、何も決定せずにお流れになつた。

次の關稅休日會議も第一回を二月に開き、第二回を十一月に開いたが、第一回には一ヶ年間現狀維持を約束しただけで何等見るべきものなく、第二回も結局物別れとなつた。といふのは、ヨーロッパを二つに分ち、英、獨、白、佛は工業品を製するから、露、伊及びバルカン諸國は農産物を作れ、そ

してこれを仲よく交換しようといふのであるが、各國の産物を簡單に分けることも出來ないし、工業品と農産物との交換もさう簡單には參らないし、第一農業國が何時までも工業國のために甘い汁を吸はれて黙つてゐるとは、幾らなんでも強制出來ないことである。出來ないと知りつゝ愚にもつかぬ小田原評定をするのだから文珠の智慧の出る筈がない。度し難い關稅戰爭である。

**資本投下の競争** ところが茲に、もう一つ最近の顯著な傾向を示してゐるものがある。それは各國の資本投下競争である。

今、筆者は、植民地が資本主義の洗禮を浴びたといつた。がこの洗禮を授けたものは植民地自身の間人ではなく、本國の資本家達である。彼等は考へる。印度から遙々棉花を運んで来て、ランカシャでこれを紡績し、出來た猿股を又もや船で遙々と印度まで運んで行くよりも、印度の地に紡績工場を建て、其處で猿股を製造して、ランカシャの猿股よりもチョツピリ廉く賣つた方がズツト利益が多いだらうと。かうして彼等は植民地へ金を持って出かけてその計畫を實行した。——これも一つの資本投下である。

ところがもう一つ賢い男は、「自分自身が苦勞の多い事業に手を出すよりも、さうい事業家達に資本



を貸してやつて、居ながらにして利子を取り立てたり、株主となつて利益配當だけを受け取つたりするのは悪くない」と考へた。これは實際「悪くない」だらう。最近の資本投下は大概この形式で行はれてゐる。そしてこの資本投下競争は市場争奪戦以上に激烈を極めてゐる。

然も資本投下の齎す利益は單にこれだけではない。相手國の政府に貸付けたり、交通事業、通信事業、重要生産事業等に貸付けたりしてこれを牛耳ることは、延いてはその國の政治を動かす市場獲得その他の有利な契約を引出すことが出来るのである。各國が争つてする資本投下の肚の中には多分にこの目的が包蔵されてゐる。これはアメリカの項で實例を以て説いた筈である。

**再び世界經濟の矛盾** 併しながら、これとても無限に發展すべきものではなく、當然一定の限度がある。この限度を越す時は空気を入れ過ぎた風船玉のやうな運命にならざるを得ない。何故なら先づ最初は、其處に競ふ列強の利益が衝突する。そして最後には、一人前に生長したその國は鉞を逆様にして金貸し國に逆襲して来る。これが資本主義必然の勢ひであり、こゝにも世界經濟の矛盾があるのである。

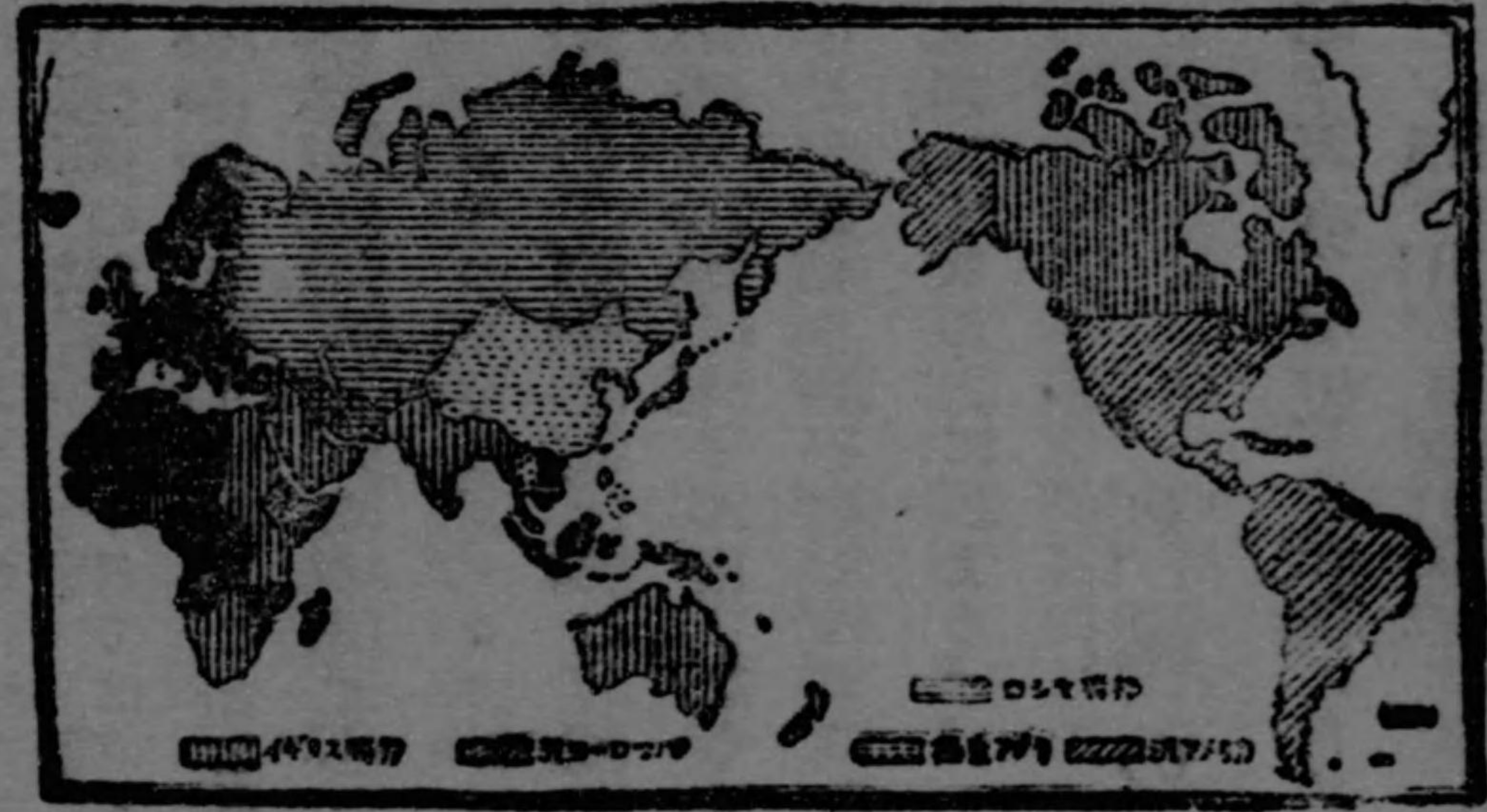
以上は資本主義經濟そのものが内蔵する矛盾であつたが、現在の世界が經濟の矛盾を痛感してゐる

ことにもう一つある。それは資本主義經濟に對抗して立つた社會主義經濟への脅威である。

世界經濟の行詰りは今日では何人の口からも叫ばれてゐる。然もそれが世界經濟の行詰りでなく資本主義經濟の行詰りであることを自分自ら痛感してゐる。それは自身の苦しさに引替へてロシアなどの社會主義經濟が大いに活況を呈してゐるのを眼の當りに見せつけられてゐるからである。そして彼等は、ロシアのやうなプロレタリアの經濟學は兎も角として、今日のやうな、かうした個人主義經濟では最早この窮状は救ひ難く、何等かの意味での社會主義經濟——フアシズム經濟——いひ換へれば計畫經濟、社會經濟を實施しなくてはならぬ、とまでは考へてゐる。にも拘らず永年の腐れ縁で、思ひ切りよく資本主義を捨て得ずにあるといふ、さういふ悩み——矛盾を感じてゐる。これについては後章で詳論することにしよう。

## 列國の市場争奪戦

**天下五分の説** 伯爵クーデンホーフエ・カレルギーといふ人がある。ハンガリー貴族と日本婦人との間に出来た眉目秀麗の人だが、この人が「天下五分」の説といふものを考へ出した。「天下」



図の分五界世たへ考のエフーホンデーグ

といつても彼伯爵はハンガリー國を五分しようといふやうな舉丸の小さいのではない。世界を五分しようといふのである。それは地域、領土、物産等を考へて比較的公平のないやうに各自が繩張りを極め、他の繩張りを侵さないやうにしようといふのであつて、大體上圖のやうに汎ヨーロッパ、汎アメリカ、イギリス聯邦、ロシア聯邦、極東アジアとするのである。「極東アジア」といふのを「日本」としてしまふのは少し思ひ過ぎかも知れないが、まア事實上「日本」となるわけである。アメリカではないが、かうして出來た五つのブロックがお互ひにモンロー主義を徹底させたら、かなり喧嘩が薄らぐかも知れぬ。否、かうなると益々これを牛耳る五つの大國が競争を激化させるかも知れぬ

が、一應は面白い説ではある。

**剽窃者ブリアン** フランスの萬年外相といはれたブリアンは、曾て「歐洲合衆國案」といふものを提唱した。これには第一條に「歐洲諸國の共存共榮の事實を更に嚴肅に淨化し、新たに道義的歐洲合衆國の原則を確立する條約を締結する」とある。主旨は歐洲大陸を打つて一丸とし、産業の統一を計り、そのカルテールを監督し、關稅を低下又は撤廢し、市場を統制し、交通、郵便、電信等の統制を計り、貨幣制度を改善しようといふのであつて、これを要約すると「歐洲の生産と交易の合理化」を計らうといふのである。そして「歐洲諸國の共存共榮の事實を更に嚴肅に淨化し、新たに道義的歐洲合衆國の原則を確立」しようといふのだからこんな結構なことはない。

これは前項で述べた關稅戰を防止し、世界の不景氣を救済しようといふブリアンの發案であつて、世界はこのセンセイショナルな提議に驚嘆し、ブリアン翁の衰へぬ頭のよさに感心したものである。ところが豈圖らんや、これはブリアンの發明でも何でもなく、前記カレルギー伯爵の「天下五分の説」の一部をチョツピリ拜借したまでであつて、謂はゞブリアンはカレルギー伯爵の剽窃者である。たゞ彼は全くの剽窃者でなかつたことは、この「歐洲合衆國案」に於てフランスがそれを牛耳り、アメリカ

資本の攻勢を防ぎ、或はこれに對抗しようといふ大望を抱いた所にある。この案は結局英獨の横槍によつて今日もなほ宿題として残り、發案者のブリアンは我が子が海のものとも山のものとも判らないうちに死んでしまった。

ブリアンは何故こんなことを考へたか？ いふまでもなく前述の野心からではあるが、これを他の方面からいふと、フランスはもと／＼物資が豊富でなく、世界市場に於ける地位も薄弱であつて、到底自分一國だけではアメリカやイギリスと肩を列べて世界市場に覇を唱へることが出来ない。だからかうしたカルテルを組織し、衆をたのんで英米に對抗しようとしたのである。幸ひなことには目下フランスには多くの金塊が唸つてゐる。この金塊の威光でもつてモロ／＼の小國を手下に引入れ、かくてまた一方には、ドイツといふユダをも永久に自分の手下として手なづけようと考へたのである。

**市場争覇戦の出場選手** ドイツも嘗てはこれと同様のことを夢見てゐた。カイゼルは彼一流の積極主義によつてドイツの工業を發達させ、英米と共に世界の三大工業國となり、あはよくば歐洲全土を牛耳つて英米を壓倒しようとしたが、半途にして惜しくも事挫折した。今もその夢を再現しようとして喘いでゐるが、賠償金やヴェルサイユ條約によつて、がんぢがらみに縛られてゐるから、目下

のところ手も足も出ない。そしてドイツに代つて世界市場に登場して來たのは我が日本である。その雄々しき武者振りは何れ後で紹介するが、併し我が國は、悲しいことにはまだその範圍は極東のみに限られ、到底世界の市場を相手に縦横無盡に駆け巡るといふまでには至つてゐない。そこで世界市場争覇戦に眞に出場し得る國家といへば、イギリスとアメリカの二國だけである。

**瘦せたりと雖も大英國** イギリスはその領土に日没がないといふほど世界到る處に勢力を張つてゐる。本國を初めてしてエジプト、南阿聯邦、近東諸國、印度、南洋一帯、カナダ等は植民地であり、ピア半島等は經濟的勢力下に屬してゐる。かうして領土に於ても人口に於ても世界の四分の一を占め、その上船舶は世界の約四割四歩、一千九百萬噸の大商船隊を有し、世界の開港場にしてイギリスの國旗を見ない所はないとまでいはれてゐるのだから、貿易の上で世界に冠絶してゐるのも強ち不思議ではない。そして戦前に於ては貿易額約百四十億圓を有し、戦後は他に比較して衰へたといへ年々二百億圓の物資を吞吐してゐることは正に驚異であり壯觀である。考へても見よ、イギリスの領土が如何に廣いとはいへ、本國は僅かに三十一萬四千方杆、人口四千七百萬ほどで、我が國よりも小さい彼が、面積に於て彼の二十五倍あり、人口に於て彼の二倍半あり、現在世界經濟を牛耳るアメリカ

カよりも尙二三十億圓多くの取引をするのだから、衰へたりと雖も流石に大英帝國である。のみならず、濠洲、カナダ、印度等の屬領の貿易額を合計すると、當に世界總貿易額の三分の一に達するのである。

勿論この中には純然たるイギリスの貿易といへないものがある。といふのは、イギリスは大商船隊を以て世界を股にかけて駆け廻つてゐる關係上、輸出入とも自國の需供に關係のないものがある。つまり仲繼貿易をするものであつて、屬領からの商品を輸入してこれをそのまゝ他の國へ輸出する仲買人の役目を務めてゐるのであり、その額は年十二三億圓の巨額に達してゐる。

イギリスの貿易市場 今イギリスの貿易に就いて品別の貿易額を擧げると、

輸出入	食料品	工業原料	製造品	その他
輸入	四四%	二九%	二六%	一%
輸出	七	一一	七九	三

然して輸出額は一九一三年に於て約四十四億圓、一九三〇年に於て約六十六億圓弱であるが、今最も好景氣だつた一九二七年度の輸出が(この年の輸出は約八十三億圓だつた)世界市場にどんな割合で

頒布されたかを調べて見よう。次の表は、イギリスの輸出額が、相手國の總輸入額の何割に當つたかを示すものであつて、戦前と戦後との趨勢を一目瞭然たらしめてゐる。尙カツコ内は同じ年のアメリカの輸出貿易である。

輸出の相手國	一九二三年	一九二七年
印度	六四・二%(二・六%)	四七・八%(七・九%)
オーストラリア	五一・八(二・三・七)	四三・四(二・四・六)
アフリカ	五〇・一(八・八)	四二・八(一五・三)
アルゼンチン	三一・〇(二・四・七)	一九・三(二・七・七)
エジプト	三〇・五(一・九)	二五六(四・七)
ブラジル	二四・五(一五・七)	二一・二(二八・七)
カナダ	二一・三(六四・〇)	一六・八(六四・九)
南洋諸島	一七・五(二・二)	一五・一(六・五)
支那	一六・五(六・〇)	一〇・二(一六・四)

この表によつて知られることは、先づ第一にイギリスの持つ市場が主としてその屬領であることであり、第二には、前述のやうに輸出金額は戦前より増加してはゐるが、相手國に賣込む割合が一つとして増加してゐないことであり、第三には、イギリスの衰勢に引替へてアメリカの輸出貿易が悉く大増加をきたしてゐることである。つまりこれはアメリカが大戦中にイギリスの販路を奪つたことになり、それだけアメリカがイギリスの前に一大敵手として現れたことを意味する。

**米國貿易の一大飛躍** 貿易の衰微は單にイギリスのみではない。それは歐洲一般の傾向だつた一九一三年歐洲の貿易額は、世界總貿易額の六十四%を占めてゐたが、戦後の一九二六年には四十八となり、一九二七年には五十%にまで低下した。これに引替へアメリカの輸出貿易は、一九一三年には世界總輸出額の十二%だつたものが、一九二二年には十七%となり、一九二七年には十五%半となり、前者の激減に對しアメリカは増進となつてゐる。これをイギリスの輸出と比較すると、一九一三年には英の三に對して米は一だつたものが、一九二八年には逆轉して英の三に對し米は五となり、皮肉なことには、アメリカ製品は、イギリスの植民地は勿論のことイギリスの本國へも流入し、その額約四十五億圓と稱し、それ等諸國の總輸入額の四割二分はアメリカ商品だつたといふことである。

有蠅いかも知れないが、もう一つ數字を並べてみると、爾來鐵鐵の消費力はその國の商工業と最も密接な關係あるものとされてゐるが、一九二七年度の英獨佛白四國の鐵鐵產出量は三千三百萬噸であり、消費量はその五十六%だつた。残りの四十四%は海外へ輸出したわけである。然るに同年度のアメリカの產額は、前四國の合計よりも多く、三千六百六十萬噸だつたが、その九十八%を國內で消化してしまつた。つまりアメリカは英獨佛白の四國を一束にしたよりも尙且つその三倍も消費したことになる、それほど商工業が旺盛に發達したことになる。この一事を以てしてもアメリカ一國は歐洲三十五ヶ國が束になつてかゝつてもかなはないといふ結論が出て來るのである。

**歐洲に漲る恐米病** アメリカが歐洲人を脅かす材料は單にこれだけではない。アメリカのこの物凄い勢ひで發展して行く貿易が、一體誰を相手になされるか、を調査する時、意外にもそれは未開の植民地、後進國相手ではなく、アメリカの先輩たる歐洲諸國——彼等自身に對つてなされてゐることを發見するだらう。今その數字を、戦前戦後と比較して擧げて見よう。

北米合衆國貿易の内譯

相手國	輸 出(百萬ドル)		輸 入(百萬ドル)	
	一九一〇—十四年平均	一九二九年	一九一〇—十四年平均	一九二九年
北米	三三〇	九六二	一一九	五一五
中米	一八一	四三四	一一九	四六七
南米	一一二	五三九	二〇九	六四〇
歐洲	一、三五〇	一、三四一	八三六	一、三三三
アジア	一一二	六四三	二五九	一、二八〇
太平洋	四八	一九二	一七	五七
アフリカ	二五	一三一	一三	一〇九
合計	二、二六六	五、二四一	一、六八九	四、四〇〇

この表を見ると、アメリカの貿易は戦後に於て總て著るしい躍進を遂げ、増加の割合に就いてはアジア、アフリカのやうに五倍以上になつたのに對し、對歐洲の貿易では輸出入とも二倍にも達しない

けれども、その金額に於てはアメリカ全貿易の二分の一も占めてゐるのだから、歐洲がアメリカに取つて如何に有難いお顧客であるかといふこと、同時に、アメリカが歐洲にとつて如何に脅威すべきものかといふことが分る。いひ換へれば、これでは歐洲はアメリカの植民地なみにしか取扱はれず、歐洲は斯くの如くアメリカの産業に奉仕してゐるといふことが判るのである。世界の指導者を以て自任し文明の先覺者を以て自負する歐洲が、後輩たるアメリカに斯くも奉仕してゐる有様は、假へば帝政時代のロシアの將軍が支那銀行の一門番となつてゐるやうなものである。「米國怖るべし」といふので歐洲全土の國民が一つ残らず恐米病に取り憑かれ、米國の魔手から逃れようともがき焦つてゐるのも強ち不思議ではない。

米國の抵當に這入つた英國 一九二〇年八月、ロンドン・タイムス紙上で、イー・エル・マク

ドーガルはいつた。

「英國は、世界の工場たる誇るべき地位を失つて、再びこれを取り戻すことは難しい。併しながら英國は、少くとも世界の四分の一以上を包含する一大聯邦の盟主として、過去、現在、未來に涉つて、その存在を維持するであらう」

ところがそれから間もなく、デイリー・エクスプレス紙はいつた。

「英國は、米國銀行の脚下に蹂躪されつゝある」

また、デイリー・メール紙はいつた。

「大英帝國は、今や米國の抵當に這入つてゐるも同様である」

更に、デイリー・クロニクル紙もいつた。

「英國は、アメリカ合衆國の第四十九州の地位にまで墜ちた」

これ等は事すべてイギリスに關してゐるが、數世紀間歐洲に、否、世界に覇を唱へたイギリスを斯くも惨めな様にし、まるでアメリカの屬國であるかのやうにしたのは、總てこれドルの威力である。そしてアメリカをして、斯くもドルの威力を發揮せしめるやうになつたのは、度々いふ通り、世界大戰のお蔭である。

アメリカは一九一四年には二十五億弗の借金を持ち、世界第一の債務國だつた。然るに大戰を境として、この借金を綺麗サツパリ支拂つたばかりか、反對に約二百五十億弗（一九二九年の調査）を外國に貸しつけてゐる。そのうち戰時債權は元金だけでも九十五億弗、その利子を加算すると百十億弗

であり、海外投資金中歐洲諸國に投資しただけでも四十八億弗である。そこで歐洲は戰債の償却だけにでも年々二億弗内外をアメリカに支拂ひ、その他、投資に對する利廻りを年四歩と見ても、これまた年々約二億弗ほどとなり、然も貿易に於ては輸出入の差額代金十億弗をアメリカに支拂ふのだから歐洲はアメリカに對して年々十四億弗、二十八億圓の金を献上してゐることになる。これではいゝか減無神經な人間でも大抵うんざりせざるを得まい。さてこそ「歐洲合衆國」などいふ十字軍を組織してアメリカに對抗しようとしたのである。

**産業十字軍の組織** けれども「歐洲合衆國案」の成立は前述のやうな事情で困難である。だから歐洲人は、政治的歐洲合衆國案に先んじて經濟的歐洲合衆國を組織しようとし、各産業部門に亘つて漸次結成されつゝある。

目下歐洲には産業同盟が七八十個も組織されてゐる。主として鑛業、化學工業方面のものが多く、これ等は總て明かに米國の輸入に對して萬里の長城を築かうとするものであるが、そのうち最も典型的にして有力なものは、獨、佛、白、ルクセンブルグの四ヶ國間に組織された製鋼カルテルである。これは各國の鋼鐵の生産量を一定の比率に制限し、以て相互間の無用な競争を防止し、尙市場關係を

も統制しようとするものであり、その生産高は年三千萬噸である。これに對してアメリカの總製鐵高は約五千萬噸だが、そのうち三千萬噸はU・S・S。スチール會社一軒で製産してゐる。U・S・S。スチール。コーポレーションは人も知る世界鋼鐵王カーネギーの經營にかゝり、そのスチール株の高低はアメリカの景氣を左右するものであつて、その多くは歐洲大陸に向つて輸出され、歐洲の工業界をカーネギーに隷屬させてゐた。故にもし歐洲の製鐵カルテルが眞に圓滑に運轉されてその威力を發揮する時が來たら、茲に製鐵カルテルとカーネギーとの物凄い鬭争、否、歐洲對アメリカの血腥い鬭争が開始されることだらう。

**娘を巡つて大殺陣** 舞臺が廻つてカナダに移ると、此處には眞に英米一騎打の大殺陣が展開される。

カナダはイギリスの屬領である。近年獨立してはゐるが、全くの獨立國ではなしに、やはり大英帝國の皇帝を戴き、たゞ自治を許されてゐるだけである。だからカナダが英本國に奉仕し、英本國に支配されることは止むを得ない。ところがカナダは漸次英本國の手を離れようとしてゐる。それも完全に獨立するのなら結構だが、英本國の手を離れて、人もあらうにアメリカの手に抱かれようといふの

だから事は面倒である。これは丁度幼かつた娘が一人前の女になつたまではよかつたが、親父の保護を離れて親父の喧嘩相手たる男と戀に陥たやうなものである。活動寫眞のストーリーならこれも面白いが、現實の生活に直面しては、親父たるもの甚だ面白くない筈である。俄然娘を巡つて彼等二人の凄じい鬭争が開始されたのである。

**カナダは英國の米倉** カナダは目下英國の米倉といはれてゐる。大戰前までは英國は小麥を印度に仰いでゐたが、印度が近年工業的發展を遂げて小麥の産額が急に減じたので、それに刺戟されたカナダは大いに農業に力を入れ、過去十年間にその産額は倍加され、英國民の食ふ小麥は全部カナダで引受けてゐる。今一九二九年の産額を見ると、三億プツシエルの小麥を初めとして、それに等しい燕麥、四千萬プツシエルほどの大麥のほか、ライ麥、豌豆、ソラ豆、蕎麥、亞麻、馬鈴薯等その金額三十三億三千萬圓ほどあり、尙牧畜も盛んで、バター、チーズ等の産が多い。然してこのうちの半分以上は海外に輸出されてゐる。そこで若しカナダが全く英國から離れ、英國に小麥を送り込まなかつたならば、英國は一瞬にして餓死しなければならぬ。英米もし戦はゞ？といふ日を考へてみるがよい。米國は先づカナダに侵入し、カナダの商船を擯詰にして一つも太平洋を渡らせないとすると、英



國は戦はずして敗北するだらう。勿論歐洲にはロシアといふ世界第一の農業國が控へてゐるから、まさか餓死もすまいが、大きな痛手を蒙ることは事實である。然もアメリカに取つてかうした戦略はお茶の子なのである。故にこそ英國はカナダを手離さうとはせず、頻りにアメリカから引離さうと骨折つてゐるのである。

### 激烈な投資競争

ところが親の心子知らずで、「あたしだつてもう年頃になつたんですもの、何時までも親の脛噛つてるの厭だわよ、間借りでも何でもいゝから、獨立でやつてみたいわよ」といひ出した。これが収入の道を知らない山出しの女ならかうも考へないが、悪いことに彼女は月給二十五圓ほどの職業婦人だつた。もう少し収入をよくして立派に獨り立ち出来るやうにと思ひ、工業方面にまで手を出した。かうして着手した各種製造工業、鑛業、パルプ及び製紙、紡績等はどしどし發達して行き、一九二二年には總産額約五十億だつたものが、六年後の一九二八年には八十億圓になつた。然も近年カナダ工業發達のテンポは實に目覚ましいもので、一九二七年の一般指數を一〇〇とすると、その翌年には、雇用人員一一一、鉄鐵二四五、鋼鐵一九五、銀行預金一一三、運轉貨物一〇七、建築許可件數一一四、コークス一三八、石炭一一六、輸入額一一〇輸出額一三七といふ有様である。

カナダのこのやうな工業の發達を助けたのはアメリカである。イギリスが大戦でカナダを顧みない間にカナダはお隣りのアメリカと手を握つてしまつた。そしてそれまで一セントもカナダへ出てゐなかつたアメリカ資本が十五年の間にどんく流れ込んだ。これに對してイギリス資本はどうか？ マックマスター大學のK・W・テイロア博士の計算によると、大約左のやうである。

國 別	一九二七年(千弗)	一九二八年(千弗)	一九二九年(千弗)
總外國資本	五、五〇〇、四四一	五、六六六、三六九	五、七〇六、六六九
英國資本	二、一九二、四六七	二、二〇四、〇六四	二、二三四、三六四
米國資本	三、〇六九、一八一	三、二二五、五二二	三、三二二、六二二

これのパーセンテージを示すと、總外國資本に對して米資本五七%、英資本は三九%となる。尙博士の計算では、カナダの全財産は三百二億五千萬弗ださうだから、かうなると、つまりカナダといふ國の十分の一はアメリカのものだといふことになる。

**アメリカの乳牛** これをもう一つ貿易に對てみると、外國貿易が最も活潑に行はれた一九二八年度に於ては左のやうであつた。

相手国 輸出 (ドル)

輸入 (ドル)

イギリス	五四七、六四七、九六九	二五五、九七七、〇九八
アメリカ	四九二、五八二、九六六	八六六、四八二、〇七七
その他	二九五、〇五六、二九二	一四〇、八四五、五七七
合計	一、三三五、二八七、二二七	一、二六三、三〇四、七四九

これを見ると、カナダは英本國から約三億弗の金塊を持ち歸り、アメリカへ三億七千萬弗ほどの金塊を持つて行く。これを別言すると、カナダは自分の儲けを全部アメリカへ献上してゐることになり、これをもう一つ別の方面から觀察すれば、イギリスは、カナダを通して、アメリカへ三億弗の金塊を献上してゐるといふ結果になる。これではまるでカナダに於ける英米兩國の市場爭奪戰は問題にも勝負にもならないといはなくてはならぬ。

カナダの保守黨員は「カナダはアメリカの乳牛である」といつた。その意味はカナダがアメリカに搾取され續けてゐるといふのだが、實際穿ち得て妙といふべきである。然もカナダの國民は、イギリス人が最も多數ではあるが、近年國境を越えるアメリカ人がかなり多く、そのために民族的にもカナ

ダはかなり親米に傾いてゐる。彼もまた弗の國アメリカの屬國化した國である。

### 豊富な世界の穀倉

南米はロシア、アメリカと共に「世界の穀倉」といはれてゐる。ブラジル、

アルゼンチンは國土も廣いが、ブラジルはアマゾン河に、アルゼンチンはラプラタ河によつて肥沃な大平野を持ち、南米大陸耕地總面積一億七千萬エーカーのうち一億六千萬エーカーまでは兩國に屬するので、農産物の大部分も此處から産出せられる。農産物の主なるものは珈琲、小麦、玉蜀黍等で、殊に珈琲はブラジルだけでも年十六億封度達し、世界總産高の八%であり、小麦その他穀類はアメリカの三分の一にも達しないが、それでも三億ブツシエルほどを産し、世界で第七位を占めてゐる。牧畜は非常に盛んで、ブラジル、アルゼンチンを合せて約六千萬頭の牛を持つてアメリカと一二を争ひ、羊はアルゼンチンが四千五百萬頭ほどを持ち、世界第三位であるが、それ等の皮革類の輸出では斷然世界一である。ゴムの栽培も近年急に激増し、年産五萬トン以上、世界の第三位を占め、ココアはブラジル、エクアドルに産して、世界の約五%である。尙このほかにキューバの砂糖、ウルグアイの肉類、ベネズエラのオイル等は主要な農産物である。

鑛業に於ては特殊的地位にあり、チリの硝石はチリが世界的に專賣權を取つたやうなものであり、

ポリビアの錫は世界第二の産額を持ち、世界總産額の三分の一を占めて居り、チリ、ペルーには銅多く、チリの如きは年額一億九千萬キログラム、世界第二位であり、銀もチリ、ポリビア、ペルーに産しペルーの銀産額は世界第四位である。この他金、蒼鉛等があるが、大したことはない鐵はブラジルに物賣い鑛床が発見されたけれども、石炭がないので、これを充分に開發することが出来ない。

**フーバーの南米政策** 兎に角これを一言にしていへば、南米は農業國であり、豊富な原料及び食料の供給地であり、従つて逞ましい商品の消費國である。然もこの國には石油、石炭が餘り多く見出されないので、未來永々工業國として發達することが出来ず、従つて未來永々他の工業國のために率仕するよき市場たる運命を約束してゐる。これを英米が黙つてゐるわけはない。彼等は早くからその魔手を延べ、お互ひにお互ひを排斥しようとしてゐる。

アメリカ大統領フーバーは、會て自己政策に對して言明したことがある。それは、資本の輸出は、公共事業及び公共生産品に對してなすべきであつて、自國資本の競争を惹起するやうな外國産業に投資すべきではない、と。然してこれは南米に於て最もよく實行された。何故なら、南米は永久に原料供給地、製品消費地として文明國に隷屬することこそ望ましいのであるから、若し産業に資本を投下

して此處に産業を興すと自己の商品が賣れなくなる。それに引替へ公共事業といふものは、交通だとか電信電話だとか、何等自國の産業を害せず、然もその國の政治を動かせるといふ利益がある。そしてこれはアメリカが近年各方面に遠慮なく實行したることは、南米の革命の項をもう一度よんで貰へば判ることである。即ち全南米が革命渦中であり、一ケ年間に七ヶ國が相次いで革命を起したといふことは、英米の資本がそのやうに激しく嚙合つてゐるといふ別の姿にほかならない。

**廣大なフォード租借地** かうしてアメリカが南米に投じた資本は約五十億圓ほどの額に達してをり、然も貿易は前に掲げた表の通り、輸出に於て十一億圓、輸入に於て十三億圓、數字の上ではアメリカにとつて決して利益ではないが、南米の總貿易に對して二十七パーセントを占め、イギリスの二十二三パーセントに對しては優位である。

このほかに英米とも對南米政策として採用してゐることは土地の買収である。これは個人または團體が土地を買収するのであつて、決して一國が侵略して奪つたものではない。けれども廣大なる面積の計画的買収がどんな結果をもたらすかは云はずと知れたことである。例へば自動車王フォードはブラジルに廣大なフォード租借地といふものを持ち、此處でゴムの栽培を行つてゐる。フォードには

せれば生産合理化のために、自動車に必要なゴムを自ら製造するのだといふかも知れないが、これも延いては國家の目的に奉仕するものである。考へても見よ、アメリカは何等物資にかけるものはないが、たゞ一つ、ゴムの産出がない。これは文明國の何處でもが持つ悩みである。そしてゴムの需要は益々増大して行く。そこで各國は等しくゴムの生産地獲得に浮き身をやつしてゐる。アメリカがフィリッピンを手離しかねてゐるのは第一にはゴムの點であるが、若し南米のゴムが自由になるならば、海を越えて地球の反対側たるフィリッピンまで船を走らす必要がなくなる。この意味からでもフォードのゴム園は一フォードの所有ではないといふ意味が判然するだらう。

土地の個人的租借又は買収は、金がなくては出来ない相談である。アメリカには金が捨てるほどある。ところがイギリスには目下それがなくて弱つてゐる。そこで南米の土地買収といふ「合法的侵略」競争が、どつちの勝ちになるかは云はずとも自ら明かである。

### 意氣地のない旦那

さて次には舞臺をもう一つ廻してアフリカを觀ることにしよう。

アフリカは大部分未開の土地であり、各國の植民地であつて、消費國といふよりは原料の産地として先進國に奉仕すべき立場にある。然して彼の持つ世界的な貢物は、棉花、ゴム、珈琲、石油、ダイ

ヤモンド等である。これを英米二國がどのやうに分配してゐるか、或はしようとしてゐるか？

イギリスは一世紀も前からアフリカに手を染めてゐる。そしてアフリカ大陸の重要な土地は悉くその手に握つてゐる。エジプト、アングロエジプトスダン、ケニヤ植民地、タンガンイカ、ソマリランド、南阿聯邦、西南アフリカ、アシヤンチ、シエラレオネ等は英領又は英國委任統治の國であり、その面積は全アフリカの三分の一近くもあらう。然もその他の土地は茫々たる砂漠で境界も分らないやうなところ、物資の多い土地はみなイギリス領またはその勢力下にあるといつてもよい。それほどイギリスの手の入つた土地へ、アメリカの割込む餘地があるか？ 御慮には及ばない、イギリスの開拓した土地そのものを弗の威力で横取りすればいゝのだから、旦那を追出して妾の家へ居坐らうとする姦夫みたいなすさまじさである。然もこれを敢てするには最も好都合な歐洲大戰があつた。イギリス旦那は本宅のごたくのために五六年妾宅を訪れる暇がなかつた。然もそのごたくのために流石の大家も少し左前となり、昔のやうに妾の要求するまゝに買けなくなつた。昔はこれでも年々七億圓から七億六千萬圓づゝ出してをつたが、妾が自分で商賣を初めたがり、鑛業開發に大いに力を入れ

たくなつて來たので、もつと金を出して貰ひたい、出せなければ出せる人に出して貰ふから、などと

奥歯に物のはさまつたやうなことをいふので、旦那たるものも男の意地、一九二三年には大いに奮發して九億二千萬圓ほど出したが、もうそのあとは續かず、一九二五年には五億四千萬圓ほどしか出せなかつた。

「案外意氣地がないのねーええ！」

と「ねえ」に力を入れて鼻をフンと鳴らした。そしてチラリと流し目で見たのが、近頃ヤイノ〜といつて来るアメリカである。そこでアメリカは「えッヘッヘッヘ！」と氣持の悪い笑ひ方をしながら乗り出して来た。

### 米國の獨占政策

シンクレア石油商會は、ポルトガル領西アフリカのアンゴラ石油會社の株を半分も買占めた。これは、約七萬平方哩の大油田を永久的に所有してゐる會社だが、その全株を買占めるのも間もないことだらう。また、モルガン商會初め他の米國商會は、西南アフリカのダイヤモンド鐵山に投資し、その中最も大きな鐵山は南阿英米商會の所有になつてゐるが、その資本の大半はアメリカのものである。また、ランド・マインズ會社、デュー・ペーア商會の二社に向つて投じたアメリカ資本は一九二〇年だけでも千二百萬圓に上り、全アフリカのゴム事業に投じた資本は、一九二五年

だけで二億圓に達した。またベルギー領コンゴ國の鐵道もアメリカ資本によつて動いてゐる。

これだけを見ると、英米の正面衝突は殆んどないやうに思はれるが、それは米資本の英國包圍である。そして限りなき事業の獨占慾である。例へばアメリカは石油の波に浮んでゐるほど世界第一の石油産地でありながら、メキシコの石油、中米諸國の石油、南米の石油を手に入れ、今またアフリカの石油までも手中に收めようとしてゐる。これはアメリカが抱懐する産業の全部門に向つての獨占政策である。弗の獨裁である。この獨占慾がイギリスと衝突しない筈はない。果して兩者はリベリヤで猛烈な火花を散らした。

### 負け惜しみの捨臺詞

リベリヤは小なりとはいへ、アフリカ唯一の獨立國である。唯一といふのも可怪しいが、もう一つエチオピアといふ獨立國がある。共に怪し氣な獨立國ではあるが、兎に角表面獨立だけはしてゐる。リベリヤはさうした怪し氣な獨立國だったので、自分一人では財政を管理することが出来なかつた。故に英米獨の三ヶ國が寄つて「リベリヤ國際會議」といふものを作り、國家の財政を管理してその「獨立を確保」してやつた。ところが大戰の勃發と同時にドイツはその會議から手を引いたので、あとは英米二人きりとなつた。これはアメリカの思ふ壺である。

大戦中英國はリベリヤに構つてゐる暇がなかつた。その時アメリカの一資本家ファイアストーンがリベリヤに乗り込んで来て、いろ／＼リベリヤの産業振興のための相談に乗つてやり、早速一千萬圓の國債をアメリカで募集してやつて、それでゴム栽培に着手させた。かうして現在ではこの投資額は二億圓に達し、その初め年々十八萬噸生産の計畫を樹てたのが、今日ではそれ以上の大量生産をやるになつた。そこでファイアストーンは漸次ゴム園を買収して行き、リベリヤの土地は殆んど彼の所有にも等しいことになり、リベリヤ人はファイアストーンの賃銀労働者と化してしまつた。然もリベリヤ政府はこの傾向を禮讓し、一九二二年、

「リベリヤの獨立は、たゞアメリカがリベリヤを保護することによつて確保される」と聲明した。こんなお太鼓を叩くのもドルの云はしめる所だが、大體リベリヤ人といふのはアメリカ

にゐた黒人奴隸を解放してこの國を樹てさせたものだから、このお太鼓も止むを得ないところかも知れない。

併しイギリスはこの聲明を聞いて甚だ面白くなかつた。面白くないが、これに對抗する金もなく暇もなかつた。そこで充分に厭味を利かせてロバート・デュラントが「これは二十世紀に於ける最も罪

深く且つ破廉恥なる行爲」であり、「ネグロの盜奪にほかならない」と罵倒した。けれどもこんなものは、喧嘩に負けた男が何とか強さうな捨臺詞を残して尻尾を巻いて歸るやうに、アメリカにとつては何の手ごたへもなかつた。

米國債家の賣刀を抜く このロバート・デュラントの言葉は、單獨になされたものではなく、

アメリカが會てイギリスに對して吐いた賣言葉に對する買言葉である。

大戦が終結した時、聯合軍はドイツの持つてゐた植民地を悉く取り上げてしまつた。アフリカ大陸に於けるドイツの植民地は、南阿聯邦の西にある西南アフリカと、南阿の北部に位するタンガンイカ及び、奴隸海岸にあるトゴランド等であつた。聯合國はこれ等の土地を聯合國で分割しようとしたに對し、「アフリカ國民のために」といふ大義名分を振りかざして、ウイルソン大統領は頑強に反對した。ウキルソンの肚の中はどうあらうとも、口實が立派だから各國とも返す言葉がなく、止むを得ず委任統治とし、タンガンイカはイギリスが、西南アフリカは南阿聯邦が、トゴランドはフランスが統治することになつた。これを見とゞけたアメリカは、委任統治とあらばイギリス領とは違ふから、アメリカに對しても門戸を開放しろ、機會を均等に與へよといひ出した。よいキツカケを作つておいて

傳家の寶刀を抜いた形である。するとイギリスは云つた。

「折角ですが、アメリカ屋さんは國際聯盟に入つてゐらつしやいけませんから、委任統治國に對しては委任者となる資格がないと思ひますが………」

そんなことでアメリカは負けてはゐない。

「それでも戦争の時は同じ仲間でしたからな。殊に私が仲間入りしたからこそあんな達も戦争に勝てたやうなものですからな」

厭なことをいふ男だが、どうも事實だから仕方がない。かうした論争は今も尙續けられてゐるが、なんだかだといつてゐるうちに、アメリカはまんまとアフリカの門戸を開放させ、前述のやうに西南アフリカのダイヤモンドに手をつけてしまつたのである。

**グラッドストンの豫言** かう説いて來ると、世界の二大貿易國たるアメリカとイギリスの世界市場争奪戦は悉くアメリカの勝利に歸してゐるやうである。がこれは、前にもいつたやうに、たゞアメリカが攻勢であるのに對してイギリスは守勢であり、アメリカが年を逐ふて貿易の指數を倍加して行くのに比し、イギリスは常にその指數を減じて行くといふだけの違ひで、金額と面積に於ては、

今のところは勿論イギリスの方が多し。だが一方、このイギリスの方が多しといふことが世界一好きのアメリカ人の競争心を煽り立て、獨占慾の強いアメリカ人を驅り立てるのである。

イギリスの大政治家グラッドストーンは流石に五十年前にこのことを豫言してゐる。

「來るべき時代に、我がイギリスの經濟的霸權を奪取し得る國は、唯一つアメリカあるのみである。然もその獲得は、強者の權利に於て行はれる。我々がかゝるアメリカに對して反抗力を缺くことは、恰もヴェニス、ゼノアまたはオランダが我々の前に威力を失つたと同様である」

これは正に一言一句も違はず適中した。正にアメリカは強者の權力でイギリスを壓へつけようとしてゐる。然も彼はその權力を極東の天地にも伸ばしてゐる。極東に於ける英米の争覇は前にも増して激烈だが、これに日本といふ役者が一枚加はつてゐるだけに益々その複雑性と激烈性を増大した。以下極東市場争奪戦を、日本を中心として觀察して行つてみよう。

我國を中  
心に觀た **極東の市場争奪戦**

**東洋モンロー主義**

最近「東洋モンロー主義」といふことを説く人がある。深く説明するまで

もなく、「東洋のことは東洋で」といふのであつて、「御遠路のところ、御出張御無用でござんす。長屋のことは長屋一統で片付けますでござんす。お委せなすつておくんせえ」といふのである。これを江戸ッ兒がいへば、「うるせえやい。餘計な差出口しやがるねえ」といふことになる。こんな風でいろくいな言葉が出るやうになつたのは、今度の日支事變で國際聯盟やアメリカなどが東洋に對するロクな認識も持たないで、餘計なお節介をしたからである。然も聯盟は今だにそれが「餘計なお節介」だとは氣がつかず、上海の停戰會議をジュネーヴにまで擔ぎ込んで何のかのこね廻してゐる。かうなると氣の短いのは江戸ッ兒の持ち前だ。「ベラボー奴、何いつてやがんでえ。ぐずく吐かしやアがると土手ツ腹蹴破つて風穴を作つて汽車通すぞヲ！」てなことになるまいものでもない。

外國人が如何に日本に對して正しい認識を缺いてゐるか、日常茶飯事についていほう。

**日本は支那の屬領** 國際聯盟理事會議長はこのところ續けてフランスがやつてゐるが、そのフ

ランス人は頗る暢氣で、日本などいふ國のあるのを知つてゐるのは極く少い。日本人に逢ふと、

「君は支那人かい？ それとも安南人かい？」と来る。

「いや、日本人だよ」といふと、

「さうか。やつぱり支那人か」

「さうぢやアない。日本人だよ」

「日本人なら支那人ぢやないか」

これが東洋の地圖でも見たことのある者だと、

「支那の屬國だね、この日本といふ小さい島は？」

といふ。それも道理、フランスの家庭にある地圖には大概日本は支那と同じやなう黄色に塗つてあるからである。

「日本には電車があるかい？」

「冗談ぢやない。飛行機だつて飛んでるよ」

「ほう。大したものだね。ぢやア、みんなフランスから買入れたんだらう」

まるでエチオピアと同一視してゐる。日本の獨立を理解するものでも、せい／＼フジヤマの下を歌鷹の女がシャナリクナリと歩いてゐるものだと心得てゐるから、日本を訪問した外國人は、「何たる醜態ぞ、この歐風化は！」と腹を立てたりする。



かういふ認識不足の輿論に押されてゐるのだから、聯盟が兎角支那のいひ分の方に耳傾けるのも當然である。

**我が國の一大躍進** 餘談はさておき、本論に歸つて行かう。

支那を巡る列國の中には、日、英、米、佛、露の五ヶ國がある。この五ヶ國が支那に對してどんな野望を持ち、どんな争闘をしてゐるかは、拙著「日〇もし戦はば？」に、かなり詳しく書いておいたから、こゝでは極く一ト通りの説明だけに止めておかう。

我が國は人も知る通り、日清、日露の役、その他によつて、過去四十年間に臺灣、澎湖島、樺太、關東州、朝鮮、南洋諸島等の領土を増し、その面積に於て約十萬方哩、その人口に於て二千四百萬ほどを加へた。けれどもこれ等のことは我が國にとつて眞に素晴らしい發展ではなかつた。我が國が實質的に素晴らしく發展し、東洋の一小帝國が世界の日本として、ほんとうに世界の檣舞臺に立つて活躍し出すやうになつたのは、やはり歐洲大戰以後のことである。

どうして我が國が發達したか？ これはいふまでもなくアメリカの發展と同様の意味で、交戦國に軍需品を供給する一方、留守中の各國市場に對つて發展の手を延べたからである。如何にそれが發展

したか、これを數字に聞くのが最も早道だらう。

年 度	輸 出	輸 入
大正二年(一九一三年)	六五一・〇	七七八・六
昭和元年(一九二六年)	一一、一一四・一	二、五六三・四

これによつて見ても我が國の經濟的な發展は大戰を境として一躍三倍半にも増加したことが判るだらう。これは丁度アメリカ貿易の躍進と同じ割合である。たゞ資源の貧弱と利益の僅少によつて、アメリカのやうに世界の市場にまで發展し得なかつただけである。

### 我が貿易と東洋諸國

我が國の貿易は主として東洋に限られてゐる。勿論中には生絲といふ最

大の産物をアメリカに輸出し、これが輸出の主位を占めてはゐるが、それを除くと、市場は多く東洋である。昭和五年に於て總輸出高約十四億七千萬圓だつたが、そのうち東洋諸國へは七億圓ほど賣りアメリカへは五億二千萬圓ほど賣つてをり、然もその五億二千萬圓のうち四億萬圓近くアメリカへ生絲を賣つたのだから、もしこれを除けば我が貿易はみな東洋といつても過言ではない。これを昭和五年の數字に見ると(單位千圓)

相手國	輸出	輸入
支那	二六〇、八二五	一六一、六六七
關東州	八六、八一四	一一一、四〇五
印度	一二九、二六八	一八〇、四〇五
蘭領印度	六六、〇四八	五九、九六四
香港	五五、六四六	五三八
露領アジヤ	二六、九七三	三七、二一八
その他合計	七〇四、〇三〇	六三二、四三九

然してこれ等貿易の大部分は輸出品としては、綿製品、輸入品としては棉花である。つまり原料を買つた地へ製品として逆輸入してゐるのである。然して尙注意すべきは、我が國の全貿易が常に入超であるにも拘らず、東洋諸國相手の貿易では毎年七千萬圓の出超となつてゐることである。これによつて見ても東洋の市場が我が國にとつて重要であるといふことが分るだらう。今これを英米露と比較しながら、市場別に觀察してみよう。

### 滿洲の重要性

滿洲は、南米、カナダと共に世界の三大寶庫といはれてゐる。滿洲が世界の寶庫たる威力を眞に發揮するのは尙今後に屬する問題であつて、今日ある物資ではまだ世界の貿易上に影響するほどのことはない。産物の最大のものゝ撫順の石炭であつて、その埋藏量約十億噸といはれ、年々七百萬噸を産し、そのうち五百萬噸を輸出してゐる。この他に埋藏量二億噸、年産額五十五萬噸の煙臺炭鐵と、産額は殆んどいふに足りないがその埋藏量十一億一千万噸と稱される新邱炭鐵があり、然も撫順炭の油母頁岩からは平均六%の石油を蒸餾することが出来、その石油豫想埋量は二億一千万噸と計算されてゐる。

次に物産の大なるものは大豆と高粱とである。大豆は年々四千萬石を産し、その三分の一は製油原料として、その三分の一は大豆のまゝ輸出されてゐる。滿洲に一度び足をふみ入れた者は誰でも洪水のやうな大豆の山山に驚くだらう。高粱も三千七百萬石ほど産し、粟の二千八百萬石、玉蜀黍の一千二百萬石、小麦の一千萬石等の農産物がある。

この他に鞍山の鐵、大石橋、海城等のマグネサイト鐵等も有望である。けれども滿洲の資源は尙今後の問題である。茫々七萬七千方里、人跡未踏の地が到る處に横はつて

あるのだから、そこにどんな寶庫が眠つてゐるかも知れない。石炭だけでいつても、撫順、新邱のやうな世界に冠たる大埋藏量を持つ炭鑛のある以上、地質を同じくする滿洲に、他の何處に、どんな素晴らしい炭鑛が発見されないものでもない。農業の開発は總て人力に依存してゐるが、尙開墾され得べき土地は一千六百萬町歩（既耕地は一千三百萬町歩）あり、これに近代的な農耕法を施したならば、少くとも今日の農産額を三倍することは出来るだらう。併しこれ等は今日の物産からして推測したものであつて、未踏の地にどんな資源が横はるかを豫想する時、正に無盡の寶庫といふ觀を抱かざるを得ないのである。

**北滿に迫る大驚** この無盡の寶庫滿蒙を巡つて列國がどんなに經濟戰に鎗を削つてゐるか、その詳細はやはり拙著「日〇もし戰はゞ？」を読んで頂きたい。ロシアは曾ては滿洲に大驚の如き貪慾の翼を擴げた。今は僅かに北滿に東支鐵道を持つのみではあるが、ロシアの東漸策はスラヴ民族の傳統であり、これはロシアの經濟的必要上から生じた政策なのだから、帝政時代だらうがプロレタリア時代だらうが決して變ることはないだらう。今やロシアは白系露人の反革命運動に藉口して滿露國境に續々兵力を集結し、その數三十萬と號され、飛行機、タンク等の近代的武器の大量を頻りに輸送し

てゐる。白露系の間果して滿洲に幾人かある。號令一下ツアーの遺靈の下に集るもの五萬といはれ或は二十萬とも稱されるが、組織なく武器なき烏合の衆が例へ幾十萬集らうとも何するものぞ。彼が眞に怖れ、眞に目指すものが我が國であることは斷じて疑ひを容れない所である。

然もロシアには世界の赤化、世界革命といふ大使命がある。世界革命なくしてはロシア革命の成功なしといはれ、これは最近スターリンによつてロシア一人でも革命は成就し得るといつてはゐるが、それは單に周囲の各國の壓迫を緩和する巧妙な辭令に過ぎないだらう。その證據に、その舌の根の乾かぬうちから各國に向つて赤化の魔手を延ばしてゐる。その赤化の足がかりが、東洋に於ては、滿洲であり、支那であることは贅言するまでもない。

**妖星空しく地に墜つ** イギリスは滿洲に對しては殆んど市場を持つてゐない。滿洲が支那に屬した間は、支那といふ全體に引きくるめて滿洲にも關係がないとはいへないが、今日滿洲が獨立した以上殆んどその手懸りを失つた。京奉線五百二十三哩はイギリスの借款によつて運轉されてゐるが、それも滿洲の獨立によつて意味が非常に違つて來る。

これに引替へ、アメリカは滿洲に對して多大なる野望を持つてゐた。彼は目下のところイギリス同

様殆んどいふべきほどの手懸りを持つてゐないが、彼が満洲の寶庫に目をつけたのは日露戦争當時からの事であり、機會均等主義、門戸開放主義を振り翳して常に割込み運動に腐心してゐる。

明治三十八年、アメリカのポーツマスで我が小村壽太郎とロシアのウキツテとが媾和談判をしてゐる間に、アメリカの鐵道王ハリマンは堂々と日本に乗り込んで來た。持つて來た話といふのは世界一週鐵道の計畫で、滿洲からシベリヤを横斷する鐵道を、ハリマンの會社一手に買収したいといふのである。そして先づ日本の手に入つた南滿洲鐵道を賣らないかといふのである。

時の首相桂太郎は戦後の疲れで金に困つてゐた折柄、「耳よりな話」といふので賣買の豫備契約をしてしまつたが、外相小村壽太郎はその話をきいて病軀を押して日本に歸り、「以つてのほかでござる」と大反對、到頭豫備契約を破棄してしまつた。

憤慨したのはハリマンである。猪口才なる小わらつば！ 目に物見せてくれんず、といふので、滿鐵線に平行した法庫門鐵道を敷設する計畫を樹て、英國のボーリング商會といふのを抱き込んで正に工事に着手しようといふ所まで行つたが、さうなれば我が國も黙つてはゐなかつた。目に物見ないで何とする、耳で物が見えるけえ——實はかういふわけでござんす、といつてイギリスに日支密約の内

容を打ち明けた。正直な道理ある話をされてはイギリスも日英同盟の誼で、耳や鼻で物は見えないといふ道理がわかり、まア〜とアメリカを壓へてしまつた。さうなつてはハリマンも止むを得ず、然らば先づシベリヤ鐵道の方から手に入れてかゝらうと、ロシアの外務大臣を買収したが、雄圖半ばにして不歸の客となつてしまつた。

怨恨深き九ヶ國條約 かういふとこの問題は總てハリマン一個の事のやうだが、これがアメリカ外交の狡猾なところで、名を個人に藉りて自分の目的を達しようとするのは南米に於けるフォード租借地と同様である。併し何時までも個人名義でやつてゐては埒が明かないので、今度はハリマンの股肱ともいふべき奉天總領事ストレートを働かして英米獨佛の四國借款團といふものを組織し、弗の力と四國の威力で日本を壓へようとした。これは中途で日露兩國もこれに加はつたので、いひ出し兵衛のアメリカが脱退したりしたが、大戦後再びこれに参加し、政治借款ばかりでなく經濟借款にも應じることにし、滿洲については日本の優先權を認めるから、蒙古は自分に讓れといつて協定し、これにアメリカ多年の野望は漸くその一端を達することが出來た。

けれども我が國民がその後のアメリカの行動で忘れてはならないのは、九ヶ國條約による我が權益